

御社頭



昭和54年4月1日発行
発行所
三重県護国神社
津市広明町387
☎(0592)26 2559
〒514
発行責任者
宇治土公貞幹

春から秋までの主な祭典

- 三月十八日 合祀祭
当日午後六時より斎行され、新たに四十八柱の御英霊を招魂し、当社御祭神として合祀申し上げます。
これにより御祭神御柱数は六〇一八二柱を奉斎する事となります。
- 三月二十一日 春分祭
- 四月二十一日 春季慰霊大祭
御遺族はもちろんの事、県民ごぞつて護国、護郷の御英霊に感謝し、御霊を誠心をもってお慰め申し上げる日です。御家族おそろいで、殊に将来日本の国を護り家を継ぐ子供達も、是非一緒に、お参り下さい。
- 四月二十九日 天長祭
- 六月三十日 大祓式
夏越の大祓には人形をお配りしませんが、皆様で人形を切つて年末同様に行つてお送り下さいればお祓いを致します。当日午後三時より行いますので御参列下さい。
- 七月二十三日～二十五日 万灯みたま祭
皆様より、まごころの一灯をご奉納下さるようお願い致します。
- 七月二十四日 式年みたま祭
万灯みたま祭中日に式年みたま祭を斎行致します。式年みたま祭は御英霊歿年の十年目毎に行う特別の慰霊祭で、春秋慰霊大祭に次ぐ重儀を以て奉仕されます。式年みたま祭に該当します御遺族の方々には是非御参拝賜ります様御案内申し上げます。
- 三十年祭 昭和二十四年歿
- 四十年祭 昭和十四年歿
- 五十年祭 昭和四年歿
- 六十年祭 大正八年歿

- 七十年祭 明治四十二年歿
- 八十年祭 明治三十一年歿
- 九十年祭 明治二十一年歿
- 百年祭 明治十二年歿
- 百年祭 明治二年歿



八月十五日 終戦記念祭
九月二十三日 秋分祭

主な内容紹介

- 英霊に込め 世の為、人の為に
宮司 宇治土公貞幹……………二頁
- 秋季慰霊大祭斎行される……………二頁
- 靖国神社公式参拝の実現こそ
平和運動の第一歩
遺族会副会長 谷 嘉昭
全国に先がけ三重県議会にて靖国神社
公式参拝を求める意見書を採択…三頁
- 薪
津市では戦後初の薪能が奉納された。
秋の夜の境内に篝火が燃え、能の幽幻
美に参観者もうっとり……………五頁
- 永代献灯初穂料変更のお知らせ……………五頁

御英霊に応え

世の為、人の為に

宮司 宇治土公貞幹

御英霊の偉大な御神徳をた、え、日々の奉仕を続けさせていた、いておりますことを有難く存じております。

新しい春を迎えましたが、今年も又新年から一般の方々の参拝が増加しております。お国を護り郷土を守り給う御祭神の大前に、お参りいただく一般国民の方々の一人でも増加していただくよう努めることが私共の使命であり、広く全県民に意識を拡大して行かねばならないと考えております。

永代講につきましては、御遺族の皆様を中心に年々入講の加速的な増を見られており、その受入と取扱いに一層充分な配慮をして参りたいと存じます。

五一部隊と一三三部隊の慰霊碑建設一つの機会として、戦友の方々の参拝も益して参り、戦友会の組織が次第に充実して参つておるようです。

さびしい現今の世相を思うとき、世の中のために各自の環境を良くするために、もつともつと真剣な取り組みが必要と思われまします。常に全力を集中して真剣に平和を守り社会の未来を開いて行くことが必要な今日であります。それだけに実際に尊い一身を捧げて世のため人のために尽された御英霊の御神威を敬い発揚することは、現代の最も大切な要請であります。

御英霊の祭祀は永遠に続けて参らねばなりません。戦後生れの人口が多くなつて参りましたことから、本日に御英霊の遺徳を広めて行かねばならぬ時であると新たな使命感に燃えております。

そのために先づ「英霊に伝える会」の組織を広げて行かねばなりません。御遺族は無論であります。神社の関係者を通じて一人でも多くの人々がこれに参加されて、少くとも多りあえず公式参拝の実現を期して行きたいものです。

元々の法制化につきましても、これは当然のことであり、これを機としてお国の建て直しを計って行かねばなりません。国の基を固めることはみづからの個の尊厳を守ることであり他人をも尊ぶことで、太平の基盤であるという認識を新たにすべきであります。

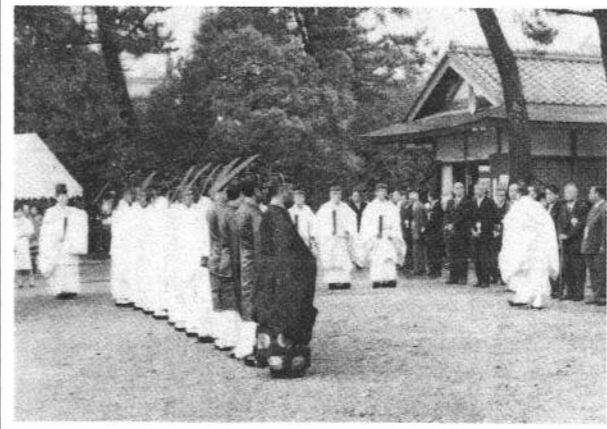
多年当神社内で執務して参りました県神社庁が新しく用地を求めて庁舎を完成されましたことお祝ひいたします。他に移られても近隣であり、殊に新しく奉仕の装束を新調され御英霊への奉仕は従来以上に続けて行きますこととあり、有難く期待を申し上げ、共にに邦家の為にとり合つて尽して参りたいと存じております。永年の相存互助を願ひて一層の発展を祈念致します。

神社事務所建てて参ります土地は従来、津市からの借地であり、このまゝでは建物の改装も思うにまかせず何とか入手したいと念願して参りましたが、幸いこの度神社用地として購入出来る見通しが立ち、市当局の一応の了解を得ることが出来ました。資金的に相当の多額にのびりますが何とか実現して行きたいと存じます。近くこの購入が成りましたらいよいよ造営実施の準備にか、つて参ります。格段の御支援をお願い申し上げます。一層の御健勝を心からお祈り致します。

秋季慰霊大祭

秋晴れ隠やかな十月二十一、二十二日の両日に亘り秋季慰霊祭が斎行された。大祭委員長には県民を代表して、三重県議会議長である稲森登氏に御就任頂だき、祭典は両日を併せ約五千人の御遺族の見守る中斎行された。祭典は当神社職員はもとより神社庁県下各支部より推薦を受けた神職が奉仕し、神社本庁より幣帛が供進された。

春秋両度の祭は郷土出身の御英霊のみたまをお慰め申し上げ、国を護り、郷土三重県をお護りいただく御神徳に感謝の誠を捧げるお祭である。毎年くり返しお祭を続け、平和国家建設の尊い礎となられた御英霊の御神徳を未来永遠に亘つて顕彰しなければなりません。戦後三十有余年経つ今日なお、五千余人の御参列を得、県民をあげて慰霊の大祭を御奉仕できることは意義深いことである。



新嘗祭

和稲荒稲を始め、新穀で醸した味酒、海の物山の物をお供えし、豊かな実りを感謝する新嘗祭が十一月二十三日に斎行された。人間の生命を支える大切な稲の収穫を通して諸産業の発展と勤労に感謝する、古来よりの祭典を春秋の御例祭同様の重大な祭として遺族崇敬者参列のもと滞りなく斎行致しました。



正月準備風景



大祓式

一年の罪穢を移した人形は郵便等によって多数送られ、大晦日までに約五千体が託された。十二月三十一日午後三時には、一千年以来執り行われて来た大祓式が、遺族崇敬者約五〇名余の参列を得て厳粛に行われた。神職共々に清祓を行行人形を大河路に流し遣つて新しい年を迎える心と体の準備を終った。

歳旦祭

昭和五十四年元旦、さしのぼる朝日の輝きわたる中、一年の平和と皇室の御繁栄と、御遺族崇敬者の方々の幸をお祈り申し上げる歳旦祭が厳粛に斎行された。

除夜の鐘の響く中統々と新年参賀の参拝者の参拝が続き、三ヶ日の参拝者は五万人近くあった。



清々しい境内で参拝後、初稽古の大川学園の剣道部の豆剣士

紀元祭

二月十一日午前十時より、先ず樺原神宮遷拝により斎行され、神社責任役員、軍友会を始め多数の参列を得、日本国家二千六百三十九年の誕生をお祝ひした。紀元祭終了にあたっては紀元節の歌を奉唱した。

祈年祭

新嘗祭が新穀感謝の祭であるのに対し、この祈年祭は農作業に入る前の豊作祈願の祭である。春秋御例祭同様の重儀として二月十七日遺族崇敬者参列のもと、農作物を始め諸産業の発展を祈念した。

靖国神社公式参拝の実現こそ平和運動の第一歩

三重県議会議長 谷 嘉昭



昨年末、三重県議会は、全国で始めて、靖国神社公式参拝を求める意見書を可決しました。この経過につきましては、既に、多くの全国紙が、大きく紙面をさいて報道しましたので、既に充分ご承知頂いていること、存じます。

この意見書の可決を強く推進しました県議会議長の一人として、早朝より傍聴席を埋めつくされた県下の遺族会の皆様、さらに関係諸団体の皆様に対し、この紙上をかり、厚くお礼申し上げます。

私は、その際、自民党を代表して、賛成意見を述べた機会を与えられました。共産党、社会党の反対演説は、全く形式的で、あいもかわらぬ憲法論議に終始し、日本人の健全な常識からは、全く理解することが出来ないものでした。

靖国神社への公式参拝が、軍国主義につながるなど、彼らは本気で考えているのでしょうか。私の賛成意見も、必ずしも、十分意



を尽くしたものではありませんでしたが、靖国神社の公式参拝の実現こそ、平和運動の源点であると日頃、皆様方と話し合っていることを、一段と声高く訴えさせて頂きました。

この三重県議会の意見書の可決が全国に報道されるや、各地の県議会の方から問い合わせがあいつぎ、その反きようの大きいのに、私自身驚いている程です。

この私共の投げかけた一石が、大きな波紋となつて、全国の地方議会の可決を推進し、やがては国会を動かす力となるよう、今後、そのなりゆきを見守つていきたいと存じます。

これからは、地方議会の意見が国会を動かすという一つの機運になれば、日本の民主主義にとつても、大きな成果といえると思えます。今後とも、ご協力の程をお願い申し上げます。



沖繩の南端、摩文仁の丘は全体が緑におおわれ、原色のとりどりの花が咲いて南国の趣である。沖繩戦の激戦の地であつた事などどこにもその跡が見られない。ただ丘のいたる所に建つ慰霊の塔、碑がその歴史を忍ばせるだけである。その中でも緑の中に白い鳥居が映えて一きわ目立つ塔が県出身沖繩戦々殉英霊二千余柱を慰霊する「三重の塔」である。この南部戦跡が沖繩の観光コースともなつていけるせいか、新婚の二人づれが目立つ。青い海と空と咲き匂う花々を見れば、まったくの幸な平和郷である。それがかえつて、三十四年前の事など思い合され一層のかなしきをつのらせる。

碑の前に顔つき、霊安からん事と祈念し、そこそこに散る花やせん香などひろい集めて、霊域を清めて静かに辞した。

(二葉の写真は二月八日撮影のもの。参拝の折は袋など用意され霊域の清掃をお願い致します)

永代神楽講新入講者芳名

自昭和五十三年八月十六日

至昭和五十四年二月十五日

桑名市/加藤敏雄/田中あき/加藤源太夫/丹村志子/山本たきへ
 四日市市/桂山昌治/伊藤博夫/正田啓次/戸谷梅松/森田てる子/山口秀夫/若林と志江/井高秀子/水谷増太郎/野呂きみ/村上照雄/高田平太郎/石田吉知松/谷崎銀兵衛/中村喜八/谷崎儀平/川田たま/伴ゆり/鈴木かずる/平野きぬ/平野たみ/多田稔/佐藤ワサ/林崎澄男/加藤つる/加藤い志/市川ふさる/山中スエ/鈴木又勝/伊藤阿や/松岡君子/川田あさる
 鈴鹿市/樋口そで/名村志つを/名村雨人/魚見敏昭/松山九十郎/太田きみ子/樋口末子/川戸ヨリ/三谷重三郎/八野ついで/田名瀬九郎/大塚こやゑ/高野いせ/道山治郎郎/徳井いとゑ/伊藤むめ/平田信夫/中条こ志つ/名村正郎
 津市/中島一枝/田中また子/須藤みさお/木村敏恵/中津よし/岡こう/谷口幸夫/前田とく/前田あや子/田中やす子/沢田房子/野田きしへ/野田とみゑ/小川千代/山川昇/森川恒秋/上田すみ/駒田美佐江/青山すず井田福司
 久居市/坂尻チエ子/内田新一郎/橋本ちよ松阪市/山本菊蔵/北村すゑ/大浦土郎/野尻たつ/三宅トミ/島田キヨ/大西やゑ/奥田斎太郎/長島清之助/森市太郎/森正太郎/川端貞蔵/前崎密/萩田実蔵/小林こはる/田所行雄/青井福男/山口てる/角谷好皓
 伊勢市/西出國夫/松山すゑ/小久保竹造/田中おいと/西村一枝/山中康男/亀田六次郎/奥山たつ/向井さい/堤久/森下こさい/堤きみ/出口昭代/上野平太郎/堤まさ枝

永田志げ/庄井すき/中森かつ/佐波はつ/木場本ゆき/北条さつ/林三郎/増田キミ子/中野静子
 鳥羽市/山下はな/小林才吉/橋本長太郎/勢力せい/川村むめ
 上野市/若井繁夫/東本三太郎/石田元良/木村まきの/中森すい/宮川幸子/森川もとへ/岡出光男/北野千代/奥田興太郎/谷口すへ/溝川平義/前川豊/杉森きみ
 名張市/松生五郎/深山源一/山下忠雄/道浦藤太郎/住川光栄/生悦住まさる/福森忠昭/大久保庄一/森島綾子
 亀山市/服部猛雄/豊田さとへ/原広海/小林保/三谷まする/古田りよ/田中ますの/斎藤のぶ/原茂生/安藤たつへ
 尾鷲市/岡田きし/高浜迪子/榎本力
 桑名市/伊藤武治/森政敏/伊藤とみ/丹羽清一
 員弁市/大西房之/羽場定一/葛山新之助/伊丹りよ/松原きしゑ/多湖磯一/日紫喜はる/一色忠明/羽場定一/広田竹夫/渡部勇山下武一
 三重郡/細川はつ/増田ひさる/伊藤まさる/坂やゑこ/伊藤政一/進士泰/萩朝一/内田やつ/黒田みつゑ
 安芸郡/齊藤亀/神田みち子/田中わき/石橋あき/澤木きみ子/山田茂郎/別所シズエ/小林朱吉
 一志郡/小林春/土性定市/大原かずへ/稲垣てつ/田中スエ/北出やすへ/丸山うめの/安保徳郎/北川龍重/山下とう/飯田清/伊藤さきゑ
 多気郡/角谷よね/土井むめ/岡部あさへ/森田茂/井坂きぬ/高山一雄/山路定蔵/廣とくへ
 飯南郡/矢尾彦三郎/中瀬古なみへ/佐々木嘉藤次/梅崎もとの/鶴口つまさ/森井むね上西としゑ
 度会郡/名古利之/中谷久/北村登/川井エミ/須ノ内小さい/岡田はるの/岡田多けの

稲葉たかよ/小坂惣平/西浜よね/田端ふさ/鈴木次子/辻井萬次郎/堤和美/村田信太郎/志摩津多/小林幸之助/中野充蔵
 志摩郡/大矢善一郎/山下登之助/世古幸助/谷岡たか
 阿山郡/中林行男/川瀬ぎんの/松本松蔵/藤森寛次郎
 名賀郡/新照/丸井隆二/山口けい
 南牟婁郡/深田久男/宇井覚太郎/鈴木たき
 北牟婁郡/中須源蔵
 大阪府池田市/仲森清
 埼玉県深谷市/山崎千代
 千葉県原市/田中文子
 静岡県静岡市/矢田ゆ起恵

永代献灯者芳名

自昭和五十三年八月十六日

至昭和五十四年二月十五日

桑名市/水谷政子/水谷千代
 四日市市/児玉なつゑ/萩原よね/山本みさを
 鈴鹿市/上田敦/鈴木岩男/坂倉長蔵/浜田弥太郎
 津市/和賀力/伊藤さゑ
 久居市/内田新一郎
 松阪市/橋本きり江/北村千代
 鳥羽市/川村玉免
 亀山市/小林保/豊田さとへ/三井静子/酒井勝
 上野市/荒木田鶴子
 桑名市/松本英/大橋もと/丹羽久子
 員弁市/太田みつぎ/弓矢富子/人見重政/児玉かい/三輪重義/日沖源衛
 三重郡/中嶋秋一
 一志郡/水井春雄/村上きぬ/北川カツエ
 多気郡/岡部あさへ
 度会郡/辻井萬次郎/中西はつ/中川はつ/山添なか
 飯南郡/森井むね/鶴口つまさ
 名賀郡/茅室孝太郎
 万灯みたま祭献灯御案内

三重県護国神社に祀る御祭神は、かつての国難に際し自からの家族と郷土と国家とを護らんとして、御神となつて命まで捧げ尽され護国の神となられた尊い御英霊です。郷土三重の守り神として懐しい護国の大神様として御遺族崇敬者の方々の参列のもと、日々、月々の御祭を始め春秋の慰霊祭を御奉仕申し上げております。
 親であり子であり兄弟であり夫であった、夫々の御祭神の由縁の月に永代神楽祭を斎行し、永代に亘り御霊の慰霊と御一家の弥栄を祈念しております。

恒例の万灯みたま祭に御奉納いただいたいております。御祭神は、本年の万灯みたま祭もより盛大に御奉仕申し上げたいと存じます。
 御遺族の皆様には本年もこそぞって御献灯いただきます様お願い申し上げます。
 献灯の受付は季節に關係なく年間を通じて社務所窓口にて受付けております。例年みたま祭直前には、お申込が殺到して混雑いたしますので、できるだけお早目にお申込下さいませ。様お願い申し上げます。

献 詠

安芸郡安濃町 紀 平 勤 蔵
 子を神と思ふて拝む親の幸
 龜山市 中 根 完
 老夫婦初日おろがむ今日の幸
 四日市市 稲 垣 タ ネ
 ふりしきる雨の社頭にぬかずきて
 あらたにうかぶ亡き夫の顔
 名張市 福 森 千代子
 荒鷲を頼つて征きし弟よ
 師走の護国で会うと思えば
 仏師の空の彼方に自爆ませし
 御堂は県社に永久に鎮まる
 鈴鹿市 小 川 み え
 高山の峰にて散りしくら花
 今ぞおろがむ護国の神
 桑名市 水 谷 勇
 「路」
 松渡る風の遠鳴り聞きながら
 畏み詣るみさ、きの路

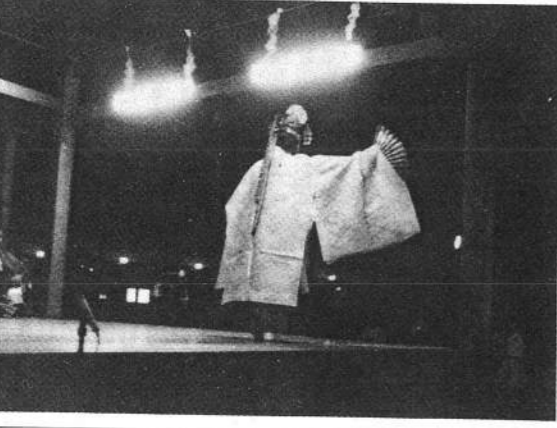
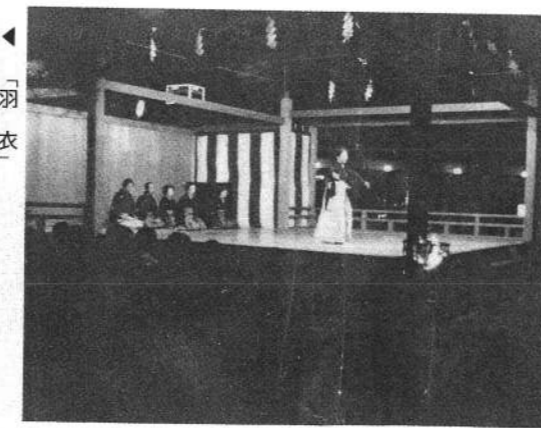
靖国神社献詠歌の募集

靖国神社では昭和五十四年の献詠歌の募集を左記要綱により行っております。
 昨年は当県より預選歌としてお二人入選しておりますが、本年もふるって御応募下さい。詳しくは靖国神社献詠歌係又は、当神社社務所宛おたずね下さい。

一、兼題 「絆」
 一、要 領 一人一首とし半紙二折にし右半面に歌を二行に記入し、左半面に住所、氏名を記入する。但し未発表の歌に限る。
 一、締 切 四月三十日
 一、初穂料 千五百円
 一、送付先 東京都千代田区九段北 靖国神社弘報課献詠歌係宛

新 能

寒露十月三日、当神社境内特設舞台で、喜多流長袖会(長田曉主宰)によって新能が奉納された。夕開せまる午後五時主催者代表の参列のもと奉納奉告祭が行なわれ、引き続き火入式が行なわれた。宮司の手によって、忌火が火籠に移されるといよいよ奉納の開始となった。
 謡曲の連吟、独吟、仕舞と続き、狂言「附子」の後、喜多流職分長田曉氏がシテを演ずる「羽衣」が演能された。
 この日の演能は戦後初のことであり、津市長岡村初博氏も境内につめかけた六百人の参観者と共に観能し、津市の文化興隆のため大いに期待していると激励の挨拶をした。
 尚、五十四年の奉納については、同会より十月二日頃奉納したいとの申し出があった。



お 願 い

永代神楽祭は往復ハガキで御案内致しております。御参列の有無に關らず、お返事をいただきます様お願い致します。
 おハガキには参列されます人数と夫々の方のお名前、電話番号等御記入下さい。参列されませう方々と御英霊の御名前にふりがなをお付け下さい。参列人数等に変更がございましたらお電話で御連絡下さる様お願い致します。

永代献灯料の変更に ついて (予定)

数年前より御遺族様の熱心なる御希望により始めました永代献灯は、皆様の御理解を賜り、現在約二五〇灯を数えるに至りました。この制度は最初一時金として二万円を納入いただき、その果実(利子)で毎年の献灯を続けて行なうものです。
 ところが、近年利息の低下と物価の値上りにより、献灯継続が困難な状態になりつつありますので、本年分の献灯はこのままとし、来年(昭和五十五年)万灯みたま祭の献灯分より三万円とさせていただきます。進んでまいりますので、御理解の程よろしくお願ひ申し上げます。
 一、これまでに永代献灯いただいた方につきましては、従来通り毎年献灯を続けてまいります。
 二、これより昭和五十四年七月二十五日までには永代献灯される方につきましては、従来通り永代献灯を続けてまいります。
 三、昭和五十四年七月二十六日以降に永代献灯を希望される方につきましては、永代献灯料三万円を納入いただく予定です。





藤棚より御社頭を眺む



昭和54年7月1日発行
行所 三重県護国神社
津市広明町387
☎(0592)26 2559
〒514 発行責任者 宇治土公貞幹

主な団体参拝

- 自昭和五十三年八月一日
至昭和五十四年二月十五日
- 八月 英霊にこたえる会三重県本部
おぼろタル株式会社
員弁郡東町軍人会
 - 九月 阿山郡伊賀町下柘植地区遺族会
神政連三重県支部
阿山郡大山田村遺族会
名張市美旗中村地区遺族会
三重県遺族会青年部
度会郡南島町奈屋浦地区遺族会
阿山郡大山田村遺族会
鈴鹿市遺族会
名張市藤原地区遺族会
三重県遺族会婦人部
四日市市西橋北地区遺族会
能喜多流津支部
熊野市遺族会
志摩郡大王町遺族会
度会郡南島町遺族会
志摩郡磯部町遺族会
三重県遺族会青年部
阿山郡大山田村遺族会
員弁郡大安町梅戸井地区遺族会
沖繩三重塔清掃奉仕団
三重県神社庁支部長会
阿山郡伊賀町柏野、御代地区遺族会
四日市市山之一色地区遺族会
安芸郡安濃町遺族会婦人部
三重県遺族会
阿山郡遺族会
三重県遺族会青年部
阿山郡伊賀町川東地区遺族会
津市家用自動車協会
津地区安全運転管理者等連絡協議会
津市橋北地区社会福祉協議会

主な慰霊祭

- 自昭和五十三年九月一日
至昭和五十四年二月十五日
- 九月 元歩兵等一三三聯隊第一大隊第一歩
兵砲小隊慰霊祭
元歩兵第十五聯隊第二機関銃中隊戦
没者慰霊祭
西部ニューギニア平岡隊ソロンマン
クワリ戦友会慰霊祭
三重県飛会慰霊祭
元歩兵第一三三聯隊第一中隊慰霊祭
 - 二月 金拾万円 氏家千代殿(京都市)
金拾万円 堀江俊雄殿(安芸郡芸濃町)
金拾万円 倉野はつ殿(度会郡小保町)

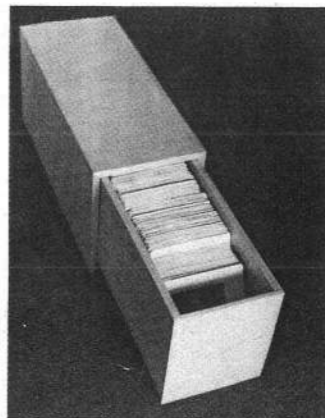
御造営献金奉納者芳名

- 一、金拾万円 氏家千代殿(京都市)
- 一、金拾万円 堀江俊雄殿(安芸郡芸濃町)
- 一、金拾万円 倉野はつ殿(度会郡小保町)

英霊の御写真について

英霊の御写真の複写と整理がようやく完了しました。御遺族の方々には、夫々に思い出深い大事な御写真でありますので、所定の大きさに複写し、特製の台紙に貼って、諸事項を記入し、松の箱に収め永久保管するように致しました。

今後奉納の御写真は、当社より指定する大きさに複写の上お預り致しますので御了承下さい。



御厚意

能舞台設置
三重県軍恩連盟
清掃奉仕
三重県遺族会婦人部
安濃町遺族会婦人部
年始かがり火奉仕
ボーイスカウト津第七団
献木並に植樹奉仕
大宮町遺族会青年部

昨年十一月二十三日同青年部の方々によりツゲ、やまもも、桜等の献木と植樹の奉仕があった。神社の社も緑を加えこれにより一層の尊厳が増す事と思われる。

命名について

崇敬者の方々の御希望により、お子様の命名を行なっております。護国の大神様に載いた名前を浄書し、神前で健やかな生長を祈願する命名式はご両親より大層よろこばれております。新しい護国の子供達に幸多からんことを祈念致します。

慰霊祭のお知らせ

郷土聯隊、一三三、五一兩聯隊の慰霊祭が左記により行われます。詳しくは世話人の方々にお問合せ下さい。

◎一三三聯隊慰霊祭
期日 三月二十五日(日)
場所 当社社境内
連絡先 前田隆治 阿児町鶴方二六八五一
電話〇五九九四(三)〇一三六

◎五一聯隊慰霊祭
期日 四月八日(日)
場所 当社社境内
連絡先 藤堂勝二 津市上浜町六一九六
電話〇五九二(二)五九九

編集後記

社報「三重護国」も御遺族皆様方の御理解御支援のおかげをもちまして二十一号をお届けできますことを厚く御礼申し上げます。

以前本社報に御遺族よりのお便り等を掲載した事がございます。神社、社報に関する御意見、お考え、身辺の事等を神社宛お寄せ下さい。又、短歌、俳句などございましたらお寄せ下さい。

陽春の候となり、間もなく本社報とともに春季慰霊大祭の御案内をお届けできることと存じます。御家族おそろいで御参列下さい。御遺族崇敬者各位には益々の御健勝をお祈り申し上げます。(北居記)

内容

- 万灯みたま祭案内……………二頁
- 永代献灯奉納者芳名……………三頁
- 現在の永代献灯数は約五〇〇灯となります
- 新しいしりをりが出来ました……………四頁
- これからの主な祭典……………一頁
- 神社庁新庁舎竣工……………四頁

これからの主な祭典

- 七月二十三日～二十五日 万灯みたま祭
- 七月二十四日 式年みたま祭
- 万灯みたま祭中日に式年みたま祭を斎行致します。式年みたま祭は御英霊歿年の十年目毎に行う特別の慰霊祭で、春秋慰霊大祭に次ぐ重儀を以て奉仕されます。式年みたま祭に該当します御遺族の方々には是非御参拝賜ります様御案内申し上げます。
- 三十年祭 昭和二十四年歿
- 四十年祭 昭和十四年歿
- 五十年祭 昭和四年歿
- 六十年祭 大正八年歿
- 七十年祭 明治四十二年歿
- 八十年祭 明治三十二年歿
- 九十年祭 明治二十二年歿
- 百年祭 明治十二年歿
- 百年祭 明治二年歿
- 八月十五日 終戦記念祭
- 九月二十四日 秋分祭
- 十月二十一日、二十二日 秋季慰霊大祭
- 十一月三日 明治祭
- 十一月十五日 七五三詣で
- 十一月三日より二十三日までの期間斎行致します。
- 十一月二十三日 新嘗祭
- 十二月三十一日 大祓式
- 十二月三十一日 除夜祭

案内

- 斎行された主な祭典……………二頁
- 春季慰霊大祭、合祀祭、元歩兵五一聯隊慰霊祭、元歩兵一三三聯隊慰霊祭
- 主な団体参拝、主な慰霊祭……………四頁
- 二厚意……………四頁
- 斎服奉納、真綿奉納、三方奉納、献木……………四頁

県内各地に建立されている慰霊社 忠魂碑等の調査について

当三重護国神社が明治二年に小祠、表忠社として創祀されてより、慰霊安鎮の祭典を各時代に赤心と誠をもつて奉仕継承せられ、今年で丁度百年の歴史を経ている。

同じく県内各地にもそれぞれの時代に、郷土出身の英霊の慰霊安鎮と感謝追憶を目的として、慰霊社あるいは忠魂碑等が建立せられていて、遺族を始めとして各地の人々の誠心の結晶とも云えるこれ等調査を行い記録に留め、もつて後世の資料とする次第であります。

神社庁、遺族会をはじめ広く県民の皆様のご協力を得てこの事業を推し進めてもれなく収録了したく存じます。ご協力をお願い致します。

尚、調査の進行に合せ本紙にも掲載致します。

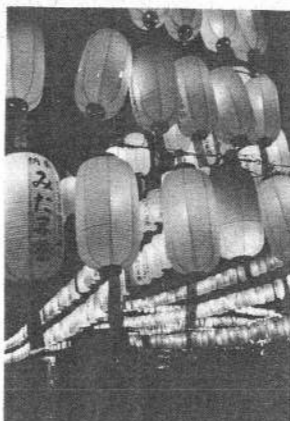


当社社の創祀の當時を偲ばせる神器具
奉納された錫製瓶子一对
(瓶子に記された文字)
明治二〇〇年 藤堂仁右門
十一月 旧家業共
明治二〇〇年 藤堂仁右門
十一月 高泰

萬の灯献り 万灯みたま祭

7月23日・24日・25日齋行

祭典
 万灯みたま祭
 二十三日～二十五日
 早朝より午後三時まで随時慰霊齋行
 式年みたま祭
 二十四日 午前十時より齋行
 式年該当祭神一千六百六十二柱を大祭式の重儀を以て齋行
 点灯式
 二十三日 午後六時三十分
 献灯奉告の後、万灯みたま祭協賛会長の手により、提灯行灯約四千五百灯に一斉に点灯致します。



行事
 二十三日
 子供みこし
 午後五時三十分より、子供会が中心となつて参加し、津駅周辺をわり歩く。
 子供行灯献書表彰式
 午後六時より拝殿前に於て、子供達が奉納した絵や習字の優秀作品の表彰式を行う。尚作品は行灯として、三日間境内に

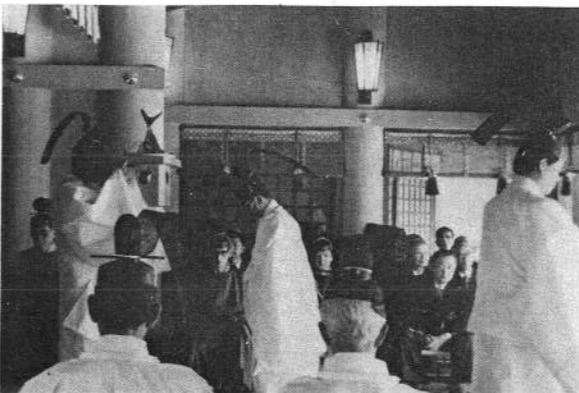


三重ノ海関奉納 (昨年度分)

展示奉納される。
 (御遺族のお子さんお孫さんお御奉納下さい。応募要項と用紙は神社社務所宛 請求下さればお送り致します。)
 二十三日～二十五日 (三日間) 盆踊り大会
 午後七時三十分より
 二十四日～二十五日 (二日間) 詩吟奉納
 午後五時より六時まで、吟詩舞奉納団が中心となり詩吟剣舞を奉納
 子供のどじまん大会
 午後六時より七時まで、子供達が元気に歌います。
 神賑芸能奉納
 午後七時より七時三十分まで神社に伝わる神事芸能を始め、民謡など郷土芸能が奉納されます。

春季慰霊祭齋行さる

春の御例祭、春季慰霊大祭は四月二十一日二十二日の両日に亘り、田川亮三天祭委員長のもと盛大厳肅の裡に齋行された。春秋の大祭には三重県神社庁の各郡市支部の推薦による代表神職が、前日の参籠に始る三日二夜の御奉仕を熱心にお務めをいたしている。この祭典に着用する装束(斎服)を神社より新たに二十領御奉納いただいた。これは神社庁舎が、あらたに津市島居町に、建築したことにより、これまで当神社内に在りしていた事の記念の意と、当神社の春秋慰霊大祭即ち英霊奉斎に、三重県神社庁の活動事業の一環として将来に亘り継続さるとの意をこめて奉納されたものである。
 今大祭に着用された新しい斎服は新緑に映え盛大厳肅に加えて一層清々しい祭典とした。また今大祭に拝殿に真神(五色の絹)一対



新しい装束で奉仕する郡市代表神職

合祀祭

去る三月十八日夕刻、浄園の中、合祀祭が厳肅に齋行された。御遺族参列のもと宮司職員を始め三重県神道青年会の青年神職の奉仕により、四十八柱の英霊を招魂し、御神殿深くお鎮りいただいた。
 当神社の御英霊は明治二年創祀以来、六万八千二百柱を奉斎申し上げることとなった。

一三三聯隊 慰霊祭

元歩兵第一三三聯隊の戦死者慰霊祭が三月二十五日に戦友遺族、約二百五十名の参列のもと齋行された。
 また翌四月八日には元歩兵第五十一聯隊の戦死者慰霊祭が戦友遺族、約二百四十名の参列のもと齋行された。両聯隊とも拝殿の祭典後、境内に建立されている慰霊碑に移り、戦友代表が献花をして亡き戦友を偲んだ。



元五一聯隊慰霊祭 慰霊碑に献花する戦友代表者

永代神楽講新入講者芳名

自 昭和五十四年二月十六日 至 昭和五十四年五月三十一日

桑名市 水谷みさ / 水谷こはる / 柴田ウメノ
 徳野初枝 / 伊藤すず / 平松よつ / 多賀さだ子
 河合貞子 / 安田鶴吉
 四日市市 山本まさを / 広田雪子 / 廣田志げ
 水谷まさ子 / 森部夫 / 渡部みさ子 / 近藤信子
 平井あき / 後藤しず / 星野力子 / 羽木きみ
 小島長明 / 森本茂秀 / 山路正子 / 加藤はつ子
 岡田はな / 里見みさ江 / 村島儀一 / 鈴木木
 る子 / 須崎きく / 田中秀郎
 鈴鹿市 湯浅やち / 岡田志子 / 堀田雪松
 土井あき / 杉野義雄 / 浦坪とみ / 長崎光子
 水谷信子 / 小川ゆき子
 亀山市 大井かづの / 山尾茂
 津市 岸田はな / 川北静子 / 岡安孝子 / 川端
 ヒサ / 浅井よしえ / 谷竹雄 / 青山志か乃 / 神
 田啓三 / 太田せき / 富田たみ / 森本義一 / 田
 中しづ子
 久居市 山下貞郎
 上野市 福永悦子 / 中森喜代子 / 森口すへの
 板橋よし子 / 前山一見
 名張市 池田きぬ / 稲垣亀石 / 久保田寿栄
 松阪市 北出文枝 / 高橋ふゆ / 村田志志 / 長
 島あや / 松田すみえ / 別所小鈴 / 沼田つね /
 杉本マサエ
 伊勢市 宮間為雄 / 大石伊平 / 北川ソノ / 中
 北たい
 鳥羽市 伊藤芳子
 熊野市 速水碩平 / 矢賀重治 / 中本とも系 /
 竹本菊雄 / 竹本武人 / 大吹峯生 / 竹本やち系
 矢賀なみ子 / 山形とみ / 速水はる
 尾鷲市 中森ヒサエ / 石淵義生 / 林克朗 / 西
 岡輝夫
 桑名郡 加藤多七 / 松永市郎 / 平野フジノ /
 伊藤啓一 / 水谷義雄 / 稲垣昇

永代献灯者芳名

自 昭和五十四年二月八日

至 昭和五十四年五月三十一日

桑名市 平田みつを / 中久木あや / 伊藤義雄
 水谷かね子 / 加藤さき / 白井恵子
 四日市市 中野みつ / 藤井まさ / 生川平太郎
 野呂トク / 荒木みえの / 浅井きく / 中瀬ち
 せ / 堀川わか / 井口やと
 鈴鹿市 太田きみ子 / 瓜生重吉 / 山下みつへ
 / 小林はる / 仲野はつ子 / 真弓求 / 山本弘
 佐野秀 / 川北新吉 / 位田正子 / 沢田長十郎 /
 中川半三郎 / 北川志げ
 亀山市 国分善四郎 / 野崎旬平 / 大橋庄太郎
 村上茂夫 / 駒田房子 / 阪上胤外 / 前川三重子
 安永てる子
 津市 中山ゆき / 奥山ふさ子 / 赤塚みち系 /
 篠木久藏 / 堀切吉雄 / 川北カノ / 沢田房子
 若松ヨシ子 / 岸田しず系 / 坂森す / へ / 安藤
 圓三郎 / 梅本きん
 久居市 山下貞郎
 上野市 中森すい / 福森茂夫
 名張市 高瀬仁 / 辻安茂 / 富野とよ / 奥薫
 松阪市 長嶋清之助 / 敷谷末一 / 奥田きみ子
 山本ふ志 / 米光弘 / 沼田よし / 岡本隆夫 / 山
 端ます / 宮本芳 / 小宮いと系 / 西山たみ系 /
 宮田艶子 / 小濱す / 岡村み弥 / 伊藤あや子
 伊勢市 筒井一郎
 尾鷲市 北村み系 / 北村敬介
 熊野市 竹木やち系 / 大吹峯生 / 速水はる
 員弁郡 多湖二男 / 谷口嘉之 / 井後たつ / 稲
 見まさ / 伊藤一 / 伊藤まさ
 三重郡 荒木ふく志 / 水谷菊枝 / 片岡たき系
 鈴木よし系 / 森下二郎 / 竹野すき系 / 宇佐美
 ます系 / 三橋はま / 松永いね / 松永かず子
 阿山郡 川瀬きんの / 萩本待男 / 阪本範生 /
 阪光弥
 安芸郡 後藤重吉 / 小宮和男

永代献灯料の変更について

前号にてお知らせ致しましたが、永代献灯料につきまして昭和五十五年献灯分(昭和五十四年七月二十六日以降)より、一灯三万円とさせていただきますのでよろしく御了承願ひ申し上げます。

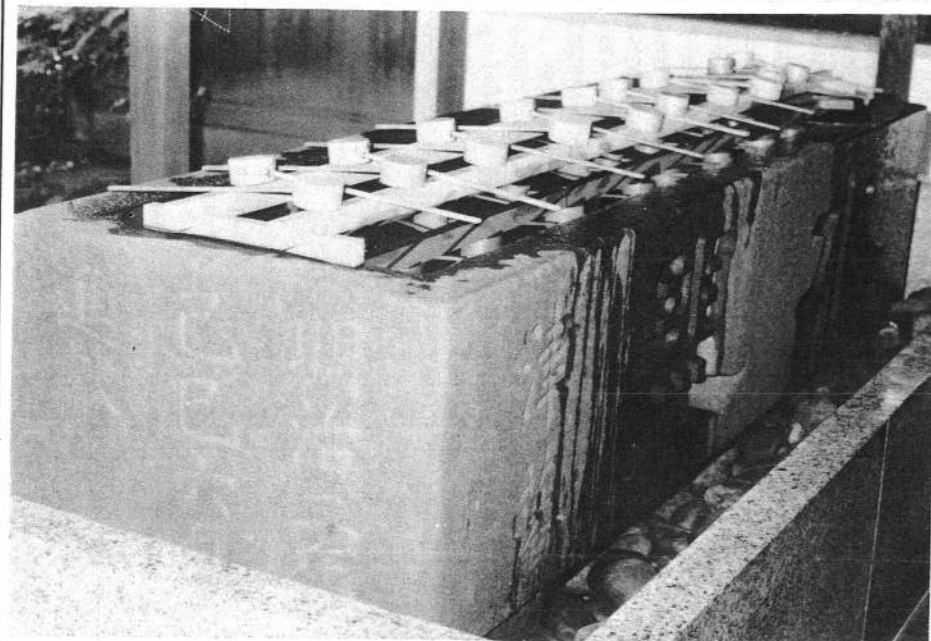
一、これまでに永代献灯いただいた方につきましては、従来通り毎年献灯を続けてまいります。
 二、これより昭和五十四年七月二十五日までに永代献灯される方につきましては従来通り永代献灯を続けてまいります。
 三、昭和五十四年七月二十六日以降に永代献灯を希望される方につきましては、永代献灯料三万円を納入いただきます。



一志郡 家城なを系 / 永浜きみえ / 海老沢さ
い / 長谷川貞央 / 奥川君江
名賀郡 加藤さき / 塚本はつへ
多気郡 浦田小右衛門 / 安藤久男 / 中村す系
の / 溝川こみ系 / 西川きみ系 / 稲葉健次郎 /
坂井はる / 中村徳一 / 河合とう
志摩郡 天白ひさ
度会郡 小林たまへ

永代神楽講入講料の変更について(予定)

永代神楽講の入講は御遺族皆様の御理解を得て現在講員約七、〇〇〇名余となりました。永代神楽講はご都合で参列できない折も、永代に亘り各御祭神の命日の月に慰霊のお祭りを齋行し、その旨御報告しております。
 入講時にお納めいただきます入講料は、永代に亘る慰霊祭齋行の基金としておりますが近年諸物価の高騰にともない諸費用の支出が多くなり、やむなく入講料を変更せざるをえない事となりました。来年一月一日からの変更となる予定ですが、入講料、時期等次第にて詳しくお知らせ致します。



水盥に刻まれた
文字
△靖国神社参集所
内にあり現在も
使われている水
盥

明治二年
己巳六月
進獻

津 水 盥 藩



昭和54年10月1日発行
発行所 三重護国神社
津市広明町387
☎(0592)262559
〒514
発行責任者
宇治土公貞幹

主な団体参拝

- 自 昭和五十四年二月十六日
至 五月三十一日
- 二月 密山会(関東軍迫六十四大隊)
 - 三月 島ヶ原村遺族会婦人部
 - 志摩郡遺族会
 - 伊勢市遺族会婦人部
 - 阿山郡柘植岡鼻地区遺族会
 - 中部太平洋戦跡巡拝団
 - パオ諸島ベリリユー島遺骨収集団
 - 三重県神社庁舎建設委員会
 - 伊賀町花の木分会遺族会
 - 伊賀町柘植地区遺族会
 - 伊賀町小杉地区遺族会
 - 三重県神社庁
 - 南牟婁郡遺族会婦人部
 - 松阪市遺族会
 - 志摩郡大王町遺族会
 - 元近衛兵第二聯隊三重県支部
 - 度会郡大宮町遺族会
 - 四日市市共同地区遺族会
 - 三重県神社庁南紀支部
 - 三重県神社庁総代会南紀支部
 - 名賀郡青山町種生地区遺族会
 - 比島巡拝友の会
 - 三重県神社庁
 - 五一会(元歩兵五十一聯隊戦友会)
 - 上野市高倉地区遺族会

主な慰霊祭

- 自 昭和五十四年二月十六日
至 五月三十一日
- 三月 三・一六会慰霊祭
 - 元歩兵第一三三聯隊慰霊祭
 - 元歩兵第五一聯隊慰霊祭
 - 元野砲兵第一六聯隊慰霊祭
 - 海友会
 - 友友会
 - 二二部隊第二大隊第

三重県神社庁新庁舎竣工

三重県神社庁は戦後三重県遺族会とともに当神社の境内に設立され、特に御英霊奉斎については全県下あげてその奉祀につとめられてきたが、兼ねてよりの懸案であった新庁舎の建設が神社庁設立三十周年を機に盛り上り行政的、地理的にも県下の中央にあり、永年に亘り奉仕してきた三重県護国神社奉祀の英霊奉祀のため最も近い津市鳥居町に、去る三月めでたく竣工された。神社庁では今後英霊奉祀を相変らず継続してゆく意をもって三十周年を機に新庁舎を奉納され(関係記事一頁、四頁)、その奉納奉告祭は榎柳奉納(関係記事一頁、四頁)とともに去る五月十一日、関係者参列のもとに斎行され御神前に奉告された。

御厚意

慰霊大祭用装束奉納(斎服一式二十領)
三重県神社庁
真神一對奉納(五色絹)
山本行隆氏(鈴鹿市山本町)
三方奉納(一尺三寸台)
山口すみゑ(度会郡玉城町上田辺)
献木並に植樹(おがたまの木)
向田育郎氏(志都美杉村下之川)



植樹する向田氏

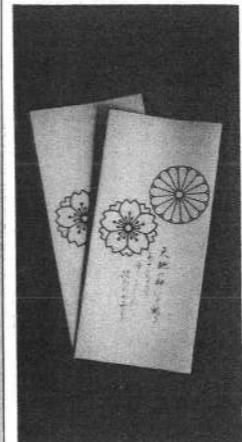
御造営献金奉納者芳名

一、金拾万円 林 はま殿(津市阿漕町)

新しい

参拝のしをりができました。

従来の栞を整理補追して、新しい参拝のしをりを作りました。
御遺族様には当神社の由緒や御祭神について御理解をいただいて頂きたい事と存じますが、お孫さんなど青少年の方々には充分ではないと思われまふ。参拝の折などに栞をお持ち帰りたいて、これをもとに御英霊の功績をはじめ赤誠の御心などお話し下さるようお願い致します。



内容

東京招魂社(靖国神社)創立に際し、津藩より奉納された水盥の記録並に写真……一頁
靖国神社の御提供により掲載致します。
『御英霊の神意を仰ぎ』 宮司 宇治土公貞幹……二頁
第十回目を迎へ万灯みたま祭斎行……二頁

秋から春までの主な祭典

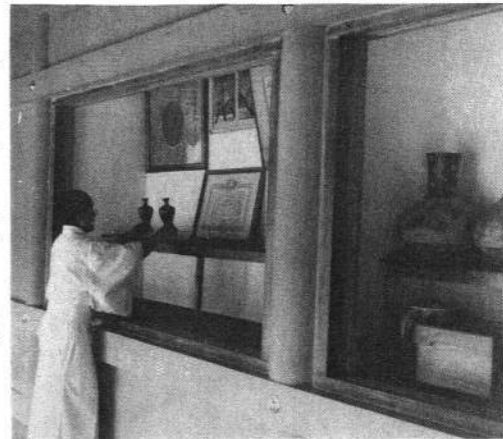
- 十月二十一日、二十二日 秋季慰霊大祭
- 十一月三日 明治祭
- 十一月十五日 七五三詣
- 十一月二十三日 新嘗祭
- 十二月三十一日 大祓式
- 十二月三十一日 除夜祭
- 一月一日 歳旦祭
- 二月十一日 紀元祭
- 二月十七日 祈年祭
- 三月三日 ひなまつり
- 三月三十一日 春分祭

東京招魂社(靖国神社)創立に際し津藩より奉納の水盥について

当神社創立は明治二年十一月の事であり、當時を偲はせる奉納の瓶子について前回社報により掲載したが、当神社創立と年を同じくし先立つ事五ヶ月前、東京招魂社(現靖国神社)が、時の軍務官副知事の大村益次郎らの選定により、九段坂上の現位置に定められ、明治二年六月二十九日に創立をみた。
創立に際して軍務官達により同社に奉納供物等の申し出に際する通達があり、当時としては珍らしい噴水の水盥一基が津藩より奉納された。百年後の現在も尚参集所内の手水盥として使用されており、以下これ等に関する資料を掲載する。

遺品棚の補修について

東西の翼廊に御英霊の御遺品等を奉置する棚がありますが、最近壁面の汚れが目立ち見苦しい状態でありましたので、新しい壁布を貼って補修致しました。なを以前より整理中でありました御写真も箱に入れ納めました。



人事移動

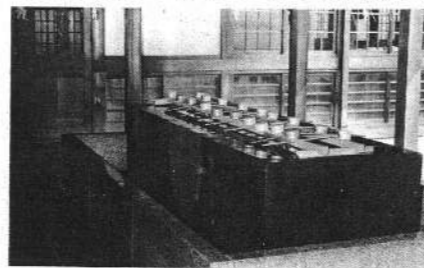
- 退職 権柄宜 北居 暖史 三月三十日附
巫女 倉地 令子 十一月二十日附
奉職 出仕 尾間 時弘 四月、三日附
巫女 大田 弘子 三月十二日附
実習生 草地 良典 三月十二日附

〔編集後記〕

梅雨もあけいよ／＼夏ですが、いかがお過ごしですか、ご近況など編集係宛お知らせ下さい。神社の出来事を始め、皆様の近況等数多くお伝えしたいと、今年より年三回の社報の発行と致しました。世話役の方々には社報配布方よろしくお願ひ致します。小林記

案内

永代神楽講入講料変更について……三頁
絵巻奉納(御厚意)……四頁
「在りし日の戦友を偲んで」 亡き戦友を偲びつ、一筆毎に誠心こめた入魂の作奉納土地(借地)購入……四頁
御造営準備の第一歩を踏み出す。



二十八日清祓についで夜丑刻、戌辰の役戦死者三五八八柱の招魂の式を挙げる……(略)……また一日より三日間相撲を行い、三日には昼夜煙火を打揚げる。また津藩は長九尺一寸、高二尺横三尺の水盥を奉納、爾來七十年の久しきに亘り参拝者の用に供せられる。
(東京招魂社鎮座祭・靖国神社創立) 長九尺一寸高二尺横三尺、明治二年六月津藩の奉納なり。(靖国神社誌 雑載)
一、盥盤 御本殿前噴水ノ水洗鉢 志個) 右明治二年六月 津藩ヨリ奉納 (靖国神社摘要)
盥水屋は、社前左の方に在り、一個長方形の石を凹刻して、水盥となしたるものなり。津藩即ち藤堂家の献納せし所に係る。他の神社に在るものと異なる點は、盥中に噴水筒ありて、清水常に溢々として迸り出で、其の餘水代謝するを以て、盥歌には最も快適せり。
……(以下略)……(東京名所圖會、麹町區之部)
(写真並資料は靖国神社の御厚意により御提供いただいたものです)

御英霊の神意を仰ぎ

未来を開こう

宮司 宇治土公貞幹

御英霊の御神威宏大にして、益々その發揚を必要とする時節を迎えております。永年神社々務所の用地は津市からの借地となっておりまして、別項に記載しましたようにこの度購入させていただくことが出来ました。本来この土地は階級公園に続いた公営の沼地でありましたものを、前回の神社造営の際に、かねて吉田山を県庁舎建設地としてこれを供したことに関連して、神社が借地して建物を建設したものでした。近く神社の新らしい造営を進めて行く上で、何うしても神社自体のものとしていかないと改造が出来なく、その時機と考へて購入にふみ切らせていただきました。

追々積極的に造営資金を御奉納下さる方々から何時その仕事を始めるのかとの御熱心なお問合せを賜わり、有難く存じますと共に責任のいよいよ重大な事を痛感しており、御英霊と御遺族、更には県民のお社としての前向の計画を進めようとしております。今後

終戦記念祭

三十四回目の終戦の日を迎え、東京では全国戦歿者追悼式が厳肅に執り行なわれた。神社では午前十一時二十分より終戦記念祭を多数参列の下斎行し、正午には、同追悼式に合せ参列者全員黙祷を捧げ、つづいて、陛下のおことばを拝聴し終了した。参列者は拝殿において亡き戦友と共に、陛下のおことばを拝聴することができ、胸にせまるものがあり、同時に今日の平和と繁栄は、国難に殉ぜられた御英霊のおかげであるということを一ときも忘れてはならないし、御英霊に感謝の誠を捧げなければならぬ等話していた。

万灯みたま祭斎行さる

式年みたま祭は英霊の歿年より十年毎に慰霊祭を行うもので、今年も百十年祭(明治二十年)より、三十年祭(昭和二十四年)に至る式年祭当祭神一三三柱を春秋例祭に次ぐ重儀を以って斎行した。

この式年みたま祭に更に「みあかし」をもつて慰霊を行う万灯みたま祭が加えられて斎行されたのが昭和四十五年の年で、今年で第十回目を迎えた。当初の提灯数五百余灯から更に増えて、今回第十回は御遺族より奉納の提灯を始めとして四千灯余の「みあかし」がかけられ、三日間に亘る慰霊を行った。



二十三日、午前には慰霊の祭典を御遺族多数参列のもと斎行した。午後六時より、県下各地の子供達が熱心にかきあげ奉納した献書画約二七〇点のうちより、優秀作品三十六点が表彰された。審査にあたった、山際論先生、西井明先生の両先生より総評がなされ、北村協賛会長より、入賞者の一人一人に賞状、記念品が手渡された。午後六時半からは、点灯式が行なわれた。宮司の祝詞に続いて、提灯の提灯行灯全体的の被いが行なわれた後、北村協賛会長の手によって電源のスイッチが入れられ境内すべての「みあかし」が神苑を厳肅に彩った。華麗な「みあかし」の下、七時半からは三日間に亘り、賑やかに盆踊りの輪が広がった。これは津市連合婦人会の協力と西川流、西川哲也さんの指導によるものである。

二十四日、式年みたま祭は該当祭神御遺族を始め御来賓多数参列のもと、県内若手神職で、田畑みね、井坂きぬ、田畑智恵、花谷すみ、廣とく、小笠原たき



永代献灯者芳名

自 昭和五十四年六月一日
至 昭和五十四年七月二十五日

- 桑名市/水谷とめ/石原和子/水野ゆき/佐藤いと/後藤春江/高木す/山本静子/水谷むめ/笠井やす/水谷喜治/種村たけへ
- 四日市市/加藤伊勢/日沖た美/伊藤志やう
- 四日市市/青木ゆきへ/宮田きみへ/後藤ふみ子/川瀬ひさ枝/山本京/廣田雪子/渡辺君子/田中ちる/春日部志
- 鈴鹿市/三谷トヨ子/大柴寿美子/浅野重一/石田きく/草川壽子/鈴木ふみ/矢田克夫/館さと/樋口うたの/前田ふみ子/岩井こゆき/梅田きぬ枝/淀徳子/山際友治郎
- 子/辻はる/古市ひな/一尾敏子/宮崎くら子/矢田秋枝/伊藤とみ/今井あき/水戸静子/澤井ユキ/黒瀬とみへ/藤見あき/岡田はるへ/小林由里/林ミツヨ/森田みさき/宮田艶子
- 亀山市/小林みさき/木村輝夫/山脇うたの/豊田つや/豊田ひで/木下とよ/小林玉三/天野遠久
- 津市/山田はる/吉川かめ/村嶋ヒデ子/加藤良/若林てる子/高倉富美子/木村敏恵/向井一/別所弘朗/小西きみ子/石原菊三郎
- 内藤一/古谷マン/別所トミエ/竹内みき/福岡テイ/三好吉忠/村田きみへ/駒田美佐江/青山す/岡副伊佐子/福島と志へ
- 家城正/岡田すの/倉田智香子/須川茂子/伊藤しん/吉田みさ/倉田ひで/山内良
- 小谷秋生/太田みさ子/岸田はな/駒田静
- 行方浜子/小川ひさ/別所たか/藤井和子
- 久居市/飯田てる/福岡さな/森あきの
- 上野市/谷本征一/鳩岡喜一/広田順夫/水谷善一/平木よし/今井初枝/福田彦七/植村京/山本たつ/中谷駿一
- 名張市/福本文子/溝口とみ子/新善考/梅

永代神楽講新入講者芳名

自 昭和五十四年六月一日
至 昭和五十四年七月二十五日

- 桑名市/山家清利/加藤恒和/中久木君子/中村与三郎/荒木峰吉
- 四日市市/小川たつ/村上照雄/坂上平四郎
- 矢田とめ/壬生志づ/加藤きの/中村利広
- 古川末吉
- 鈴鹿市/原三郎/市野ひさ/桂學/大井正男/横井雅子/湯浅すま/石田きく/宮崎ちづる/田中はる/伊東忠重/岩井こゆき
- 近藤ひで/神田ちる子
- 亀山市/豊田つや/豊田ひで/元原善秋
- 津市/佐治正夫/梅田昭二/小谷秋生/草深とみ/行方りえ/岡副伊佐子/佐藤伸子/内藤一枝/齊藤安喜子/佐野利哉/坂本まさへ
- 北川シカノ
- 久居市/黒宮すず
- 上野市/喜多綾子/泉谷八重菊/森川通男/山本田鶴/今井初枝/小林恭/西田綾子/高田俊江/廣田順夫/松島幸/滝野トミ
- 名張市/八幡秀子/坂岡すの/深山千代子/木平あさ子/福喜多きぬ/前川あさの/田中なつ
- 松阪市/竹井義一/高橋ふゆ/加藤美代子/中川宗太郎/田中利雄/浜田光五郎/庄司にわ/瀬/上秀男
- 伊勢市/今岡伊之助/北村きくの/荒木だい/金子高治/小崎雅己/安井光子/森志津

永代神楽講入講料の変更についてお知らせ

前号にてお知らせの入講料の変更について、左記により改定致しますので御承下さい。

一、入講料 五万円也(御一柱)

一、変更月日 昭和五十五年一月一日より

- 松崎政
- 鳥羽市/別所のの
- 尾鷲市/大鍋ちる/谷津/黒その
- 桑名市/鈴木士郎/富田まつ/森さわよ/蛭川静子/村上照夫/伊藤きし/細川勘三郎/伊藤てる子/加藤寿松
- 鈴鹿市/打田一徳
- 員牟部/小寺栄之助/高木敏雄/渡部保/野口あい
- 三重市/中野為吉/中野まち/福井忠雄/位田年子/伊藤ふみ/後藤すみへ/藤牧良夫/藤牧みすへ/秦はさの/内田勝己/宮向井寅男/諸岡善八
- 阿山郡/中沢金太郎/前澤みね子
- 名賀郡/萩原孝之助
- 飯南郡/福本一三
- 安芸郡/下井覚/森田清
- 一志郡/向川高光/大平ひろ/大倉おとえ/篠村和枝/相地キヌ/浦川太郎/三浦勢以/北島丈之助/花井由太郎/森内との/前田あさの/田中すわ/山名乙次郎
- 多気郡/小笠原たき/藤原公夫/田畑みね/金高健也/小林さる/柳瀬ふ志
- 度会郡/小林秀雄/辻村せの/西村公正/中井丈吉/日高すへの
- 志摩郡/大谷忠治/谷喜藏/和田源太
- 北牟婁郡/樋口茂/浜畑やす
- 南牟婁郡/今西彦七/川上よし/南政男
- 名古屋市/小林叔子
- 尼崎市/霜竹利雄
- 横浜市/森本時也

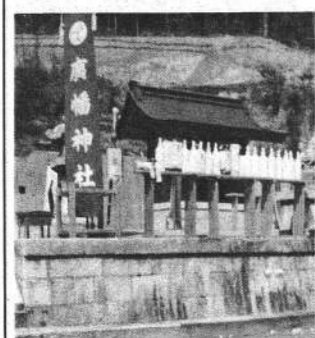


境内の梅の花のほころぶ啓蟄の頃



昭和55年4月1日発行
発行所 三重護国神社
津市広明町387
☎(0592)26 2559
〒514
発行責任者 宇治土公貞幹

社報二十二号に掲載の表記調査について、三重県神社庁の指導を受け、先づ県下八百余りある氏神様のお社から始めるのが適切であるとの結論に達し、予備調査を行うべく、昨年十二月往復ハガキにより、県下全ての宮司様宛発送しお願いした。
神社庁各支部の協力を得て、現在までに五〇〇余りの神社より回答があり、それによると慰霊社のある神社、一〇三社、忠霊社、三三社、忠魂碑のある神社、一一四社、忠魂碑、二空墓となる。このほかには神社境内の外にあって、遺族会、自治会等の管理する忠魂碑等についても合せ報告いただき、これ等を含めると調査対象の社数は相当数になるものと思われる。予備調査の次は、詳細な資料等を記録調査する本調査であるが、回答のあった神社より、今年二月から逐時調査方お願いをした。



御霊殿(境内社)
木造銅板葺二坪
(春の慰霊祭)

廣幡御霊殿 三重郡菟野町
大字菟野二七五番地
廣幡神社境内社 宮司 横山 薫平
御祭神 戦没英霊 三三三柱を祀る。
御創始 昭和二十三年四月一日御鎮座
御由緒 終戦後の人心荒廃を乗切るとは、英霊を祀り英霊に感謝する事からだと宮司提唱し、御霊殿の建設は廣幡神社にて行い、祭典は春分秋分と年二回行い、氏子が参加し、維持も永久に存続出来る事を氏子総代に謀り、遺族会長に相談し全遺族の参列の上郡内西部全神職の奉仕にて鎮座祭執行する。
(調査書「慰霊社の部」より)

御英霊を仰ぎ奉り
感謝の誠を捧げよう……………二頁
宮司 宇治土公 貞幹
県下各地の慰霊社・忠魂碑調査報告……………一頁
これからの主な祭典……………一頁
四厚意・造宮献金奉納者芳名……………四頁

春から夏までの主な祭典
四月一日/三日 就学祈願祭
四月二十一日 春季慰霊大祭
四月二十二日 春季慰霊大祭
四月二十九日 天長祭
六月三十日 大祓式(夏越の大祓)
七月二十三日 万灯みたま祭
二十四日 式年みたま祭
二十五日 万灯みたま祭
八月十五日 終戦記念祭

県下の慰霊社、忠魂碑等の調査について
社報二十二号に掲載の表記調査について、三重県神社庁の指導を受け、先づ県下八百余りある氏神様のお社から始めるのが適切であるとの結論に達し、予備調査を行うべく、昨年十二月往復ハガキにより、県下全ての宮司様宛発送しお願いした。
神社庁各支部の協力を得て、現在までに五〇〇余りの神社より回答があり、それによると慰霊社のある神社、一〇三社、忠霊社、三三社、忠魂碑のある神社、一一四社、忠魂碑、二空墓となる。このほかには神社境内の外にあって、遺族会、自治会等の管理する忠魂碑等についても合せ報告いただき、これ等を含めると調査対象の社数は相当数になるものと思われる。予備調査の次は、詳細な資料等を記録調査する本調査であるが、回答のあった神社より、今年二月から逐時調査方お願いをした。

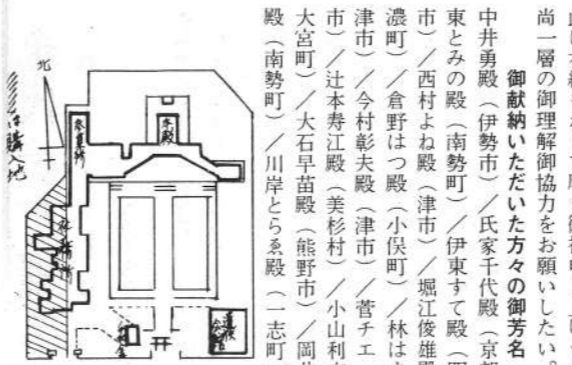
藤波労働大臣参拝……………四頁
一五一聯隊戦没者顕彰碑準備始まる……………四頁
斎行された祭典・行事……………二頁
秋季慰霊大祭・合祀祭・新能・ひなまつり
永代献灯・永代神楽演新奉納者名……………三頁
慰霊祭斎行予定……………四頁

各神社宮司様には社務多忙の中、極めて詳細なる記録調査を行なうに際し、現在三十件程の調査書が届けられている。
調査の内容結果等は貴重なる資料として、当神社に保存管理するものですが、皆様の御協力の賜ものであり、本紙にも順次掲載表させていただきます。
※石谷部隊……………歩兵第三百二十三聯隊、石谷 甚三郎大佐(初代隊長)
(編集後記)
秋のアキとは一説には、穀物の収穫が飽き満ちル意とされていますが、穂も重く垂れた稲の取入れ作業があらこちで見られ、晩秋の気配が感じられる今日この頃、御遺族の皆様は御健勝の事と存じます。
社報と共に、秋季慰霊大祭参列証をお届け致します。是非、御家族お揃いで御参拝下さい。又、御意見、御感想がございましたら神社に送付下さい。

土地(借地)購入について

―来るべき御造営をめざして―

境内西側の津市よりの借地約三〇〇坪を、此度津市の快諾を得て購入する事となった。この借地は昭和三十三年の戦後の大復興御造営の際に津市より借り受け、社務所の敷地として使用していたものである。
さきの御造営より二十数年を経て、社務所を始め諸殿舎のいたみも激しく、祭祀の厳修、又、永久祭祀の確立の上からも、近い将来新たな御造営を図らねばならないが、これに関連して土地の整備即ち借地問題を解決する必要にせまられ、来るべき御造営をめざし、この事業の一環として購入にふみ切った。
購入費三千七百万円余は、数年前より御造営の資金の一部に積立を行って来た造営積立金と、篤志の方々より奉納賜った御造営積立金をあてる予定である。
此に本紙をかりて厚く御礼申し上げると共に、尚一層の御理解御協力をお願いしたい。



は購入地約300坪

主な団体参拝

- 自 昭和五十四年六月一日
至 昭和五十四年八月三十一日
- 六月 名張市美旗中村地区遺族会
阿山郡大山田村地区遺族会
四日市市遺族会
 - 七月 阿山郡大山田村出後中村地区遺族会
阿山郡大山田村炊村千戸地区遺族会
熊野市井戸地区遺族会
三重県軍連盟鶴方支部
一志郡高岡神社敬神婦人会
度会郡大宮町遺族会青年部
南牟婁郡御浜町神木地区遺族会
鈴鹿市牧田地区遺族会
阿山郡島ヶ原村遺族会

主な慰霊祭

- 自 昭和五十四年六月一日
至 昭和五十四年八月三十一日
- 六月 員弁郡東員町慰霊祭
八月 安芸郡戦没者慰霊祭
- 献 詠
- 亀山市北野町 中根 完
萬灯の森に輝く夏まつり
納涼や名士揮毫の角行灯
- 御造営献金奉納者芳名
- 一、金十五万円 今村彰夫殿(津市一身田)

御厚意



万灯みたま祭準備および御奉仕
みたま祭協賛会員
高岡神社敬神婦人会
国児学園

傷痍軍人家族の会
大宮町遺族会青年部
雑巾寄贈(殿内清掃用)
伊藤玉江殿(桑名市宮前町)

行灯貼りの御奉仕
万灯みたま祭をひかえ
清掃の御奉仕

絵画奉納

小林才 吉殿(鳥羽市答志町)
自からも中支九華山の激戦に参加し、その時の図を戦友を偲びつつ、絵筆をとって十五号の大作を仕上げたものである。奉納に最もふさわしい所として、亡き戦友の兄である中西泰夫氏(軍連盟鳥羽支部役員)の強いすすめもあり、此度当神社に奉納されたものである。午前十一時より神前にて、奉納報告祭を斎行し亡き戦友を偲び奉納された。
以下奉納に際して添えられた文である。
「昭和十五年四月下旬、石谷部隊二中队広分隊の軽機関銃兵として中支九華山の黎明攻撃に戦闘参加、此の激戦で散った多数の戦友の瞑福を祈りつつ画き留め、護国神社に奉納す
昭和五十四年七月十一日
小林才吉、伯林畫」

御英霊を仰ぎ奉り 感謝の誠を捧げよう

宮司 宇治土公貞幹

御英霊の神威弥高く、日々御遺族はもとより一般国民の方々の参拝が増加して、甲斐ある奉仕を続けさせていただいております。

戦後の繁栄を支えて来た石油をはじめとする資源の問題は世界の課題であり、特にわが国にとってはきわめて重大な問題であります。人類永遠の平和を招来するために、あらためて人間そのものの内面を浄化しなければなりません。その為にも御英霊の神徳発揚は欠くべからざる要件であります。

県下の御英霊は六萬有餘柱すべて当神社の御本殿に奉祀され鎮まつておられますが、県内各地の氏神さまの境内にも随分おまつりされております。県内には八百七十七のおやしらがあり、わが県では明治の代に概ね一字一社に合併整備され、その地域の御英霊をおまつりされるようになり、戦後新しくお祀りされたものもあります。今回全県下のお社に依頼してその様子を合せて忠魂碑の調査を進めており、今後共調査の完成を期し、各地の忠

秋季慰霊大祭斎行さる

秋晴れの十月二十一日・二十二日の両日、秋の御例祭が厳粛盛大に行なわれた。

大祭委員長には従来からの習しにより、町村会長様に御就任いただくもので、第一日は名越副会長（郷野町長）、第二日は塩谷会長（海山町長）のお二方にお務め頂いた。

また祭典には、神社庁県下各支部より推薦を受けた代表神職に助務奉仕をいただいた御遺族参拝に合せ、第一日は安芸郡鈴鹿市以北及び伊賀地区の神職十二名が、第二日には津市一志郡以南及び牟婁地区の神職十三名が夫々熱心に奉仕を頂いた。

魂社との連絡を深め祭祀の充実を計って参りたいと存じます。

久居を原隊とする部隊の内三十三連隊の慰霊碑は自衛隊の内にあり、境内に五十一連隊と百三十三連隊との碑が建ちましたが、残る一つの百五十一連隊についても建碑の機が熟し、今秋には完成することとなりました。他の関係ある隊のお申込みも少くありませんが境内の広さから現状では無理でおことわりしております。申訳なく存じますが、取りあえず四つの基本的な碑の完備を期しと存じます。

全国護国神社等で会議の外研修を続けて祭務の向上を計っておりますが、この度中部十県の護国神社の若手神職の研修会を本県から発案し、五月には初めての会を当社で持つこととなりました。奉仕の実務について相互に研鑽し、将来の奉仕のため成果をあげたいと準備を進めております。

御遺族はじめ崇敬者皆様の一層の御健勝を神かけてお祈り申し上げます。

「新能」奉納

十月二日夕刻より、当神社特設能舞台にて新能が奉納された。これは喜多流長袖会主催によるもので、今年で二回目の奉納である。午後五時、長田職分を始め代表者が参列して奉納奉告祭が行なわれ、引き続き火入式が執り行なわれた。宮司並に長田職分の手により齋火が庭燎に移され、新能の奉納となった。津の阿漕浦に伝わる悲話、阿漕平治の伝説をもとに作られた能「阿漕」の演能に始まり、狂言「昆布売」能「土蜘蛛」と続いて奉納され、境内の約一千名の観客は秋の夜長を熱心に観能した。

主な団体参拝

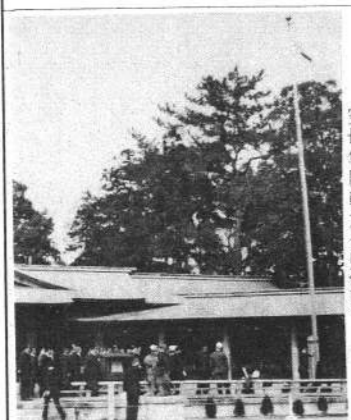
- 自昭和五十四年九月 至 昭和五十五年二月
- 九月 四日市々保々地区遺族会
 - 伊勢市氏子総代会
 - 大山田村富岡、中島、平田地区遺族会
 - 多気郡遺族会婦人部
 - 磯部町遺族会
 - 三重県遺族会青年部
 - 青山町遺族会
 - 三重県遺族会婦人部
 - 飯南町遺族会
 - 伊賀町御代、柏野地区遺族会
 - 大山田村阿波地区遺族会
 - 伊賀町下柘植地区遺族会
 - 度会郡遺族会
 - 四日市々山の一色地区遺族会
 - 鈴鹿市遺族会
 - 上野市遺族会婦人部
 - 安濃町遺族会
 - 伊賀町川東地区遺族会
 - 津自家用自動車安全協会及び津地区自動車安全運転管理者等連絡協議会
 - 津市橋北地区社会福祉協議会
 - 三重近鉄タクシー株式会社
 - 近畿日本鉄道江戸橋保線区
 - 百五銀行株式会社津駅前支店
 - 関西マックス販売株式会社
 - 大和ハウス工業株式会社津支店
 - 大川学園剣道部
 - 三重ハイム株式会社
 - 津市遺族会
 - 三重県建設業協会
 - 三重県遺族会
 - 三重県軍恩連盟
 - 上野市遺族会第二分会
 - 三重県遺族会青年部
 - 四日市々水沢地区遺族会
 - 安芸郡遺族会
 - 元横須賀海軍警備第三十六分隊

主な慰霊祭

- 自昭和五十四年九月 至 昭和五十五年二月
- 十月 三重ラバウル方面慰霊祭
 - 三重翔飛会慰霊祭
 - 元歩兵第二三聯隊第五中隊昭和十七年同兵慰霊祭
 - 各航会慰霊祭
 - 空母集艦戦友会慰霊祭



参拝をおえた豆剣士たち



海軍旗掲揚、空母集艦の戦友

合祀祭

去る三月十六日夜、新祭神を招魂合祀申し上げる合祀祭が浄園の中、厳肅壮重の姿に斎行された。此度の合祀祭は軍人、軍属を始め国事困難に殉ぜられた英霊二十二柱で、二十余名の参列御遺族の見守る中、御本殿深くお鎮まりいただいた。尚祭典は県内若手神職の、神道青年会々員の御奉仕をいただいた。

ひなまつり

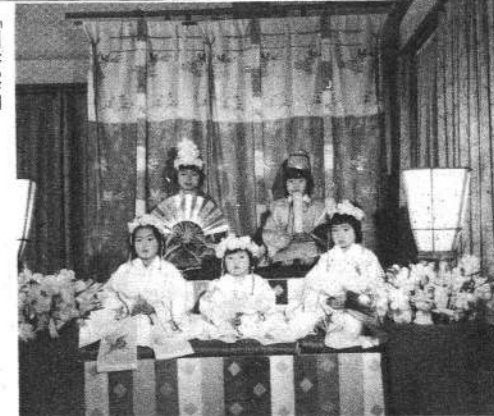
三月二日三日、ひなまつりが行なわれ、子供達約一五〇名が参拝した。

これは昭和四十九年から行なっており、今年で七回目を数える。神社で用意した平安時代の衣裳をつけた、だいらさま、おひなさま、三人官女の五人が一組となって神前に進みひなまつり、モモの花、白さけをお供えして健康やかな生長を祈願した。

この後、特設のひなだんで記念の写真撮影があり、この日はボーズ注文し顔で並び、お父さんお母さんはのり注文にこたえていた。尚拝殿の脇には、子供達が身近な材料で作った奉納したひな人形が飾られ、参拝者の目をひいた。



能「阿漕」



おすまし顔

永代献灯者芳名

- 自 昭和五十四年七月二十八日 至 昭和五十五年二月二十九日
- 桑名市 佐後里つ／服部かづゑ／西田よしの
 - 平林きみ／鈴木つね／諸岡清子 四日市市
 - 穂尾きよ／樋口トシオ／伊藤平三郎／朝倉年
 - 栄／岩田よし／井口欣二／森川信重／山中
 - スエ／大橋たね 鈴鹿市 木本ふさ子／小川
 - 清之輔／杉村ひさ／鈴木しづ江／田中まさ
 - 原田てる子／林末／寺尾嘉吉／永井国治／藤
 - 田ゆき／森卓明／野口敏三 亀山市 桜井芳
 - 男 津市 佐野登代／林辰男／片岡の／神
 - 戸いき 松本市 西口かね／横井ますの／荒
 - 木きみ 富本市 ぶ／脇田つ／村田こと
 - 伊勢市 浜口とき／脇井信夫／口上善一 鳥
 - 羽市 中村郁子 熊野市 矢賀なみ子 上野
 - 市 杉本きぬ枝／東瀬源三郎／小沢正一／塚
 - 本善子／奥田至／稲住藤郎 名張市 山岡縫
 - 枝 員弁郡 伊藤はつ／川合国枝 三重郡
 - 片山とめ／松尾たま／下田とめ／小野原ミ
 - 鈴鹿郡 本間さく／文野よし子 安芸郡
 - 上村節／三谷たまえ／黒川たづ／藤枝まさ
 - の／丸山貞男 飯南郡 植田すゑ／久保孝子
 - 細田もと 多気郡 森さかえ／古山金男／村
 - 林ひでの 度会郡 寺田清六／倉野よし／東
 - 山寛江 志摩郡 柳田光雄／柳田しげ／浜口
 - 丈一郎 名賀郡 杉本雄／岩野喜助 東大阪
 - 市 西田幸雄 名古屋市 山本みち枝
 - 訂正 前号上野市水谷善一は各本善一の誤りです。お詫び訂正申し上げます。(敬称略)
 - 永代献灯の申込みについてお願い
 - 永代献灯は、永代献灯料(基金)を御奉納
 - いただいた、毎年のみたま祭に永代に亘り、
 - 献灯を続けてまいります。皆様の御理解
 - 解を得て現在七百二十四灯分をお申込みいた
 - だいております。献灯ご希望の方は、準備の
 - 都合もありますので、来る六月三十日までに
 - お申込み下さるようお願い致します。

永代神楽講入講者芳名

- 自 昭和五十四年七月二十六日 至 昭和五十四年十月二十日
- 桑名市 中久木正一／蒔田恒／藤井芳子 四
 - 日市市 堤正男／平田滋宜／小澤ゆう／平田
 - 兵治／坂口まさえ／福本とみゑ／田中あさの
 - 浜谷政江 鈴鹿市 山中こすゑ／樋口美代子
 - 山中しず子／打田とのへ 亀山市 森田い
 - 米村清一／伊藤すゑ／山下昭一／丹羽ふみ
 - へ／林くん 津市 大西豊／谷友勝／島田
 - ふ／大橋和枝／鈴木きぬゑ／光野栄真 久居
 - 市 北川キク 松阪市 大川大三／北出さよ
 - 水上徳藏／中川つね 鈴鹿市 中川武郎／
 - 笹田駒吉／西口かね 伊勢市 浅岡芳子／山
 - 口善雄 鳥羽市 齊藤金次郎 尾鷲市 岡と
 - も 上野市 中信夫／山崎フミノ／山下田
 - 美江／吉村富子／吉村久八／馬場久之助／西
 - 森和夫／神戸悦子／藤本あさの／福本たつ 名
 - 張市 野吹圭子／吉森惣太郎／順川保三 福
 - 本文字／廣瀬次郎 桑名郡 伊藤すみ子 員
 - 弁郡 水谷勤次／石岡巖／二宮やゑの／伊藤
 - つるへ 三重郡 田中ふみ／伊藤秋一／森下
 - ちよか／川村万太郎／伊藤喜夫 鈴鹿郡 中
 - 澤徳太郎 安芸郡 海野とみ／前田茂 一志
 - 郡 杉本文夫／鈴木やす／山下春子／曾我熱
 - 多気郡 鈴木保／川島うめ／小西むめ／花
 - 谷すみゑ／奥山幸助／上野みさを 度会郡
 - 山際三郎／長谷川常夫／竹内千代 志摩郡
 - 米奥頭吾 南牟婁郡 鶴岡鐘子／滝川さつき
 - 阿山郡 米野一江／藤森あきへ／藤森兼松／
 - 東まつの／多田ミ江 名賀郡 鈴森康雄／北
 - 浦一郎 (敬称略)
 - かねてお知らせ致しましたとおり
 - 昭和五十五年二月一日より
 - 永代神楽講入講料を変更させていただきます
 - ました。
 - 一、入講料 五万円也(御一柱)



「靖国神社献讃歌」の募集

一、兼題 「川」

一、要領 一人一首とし半紙二つ折にし右

面に住所氏名を記入する。

但し未発表の歌に限る。

四月二十日

一、締切 千五百円

一、初穂料

一、送付先 東京都千代田区九段北

靖国神社弘報課献讃歌係宛

インパール最前線 浜地 利男著

著者は南島町出身で郷土部隊の第五十一連

隊に入隊し、曹長として世界戦史未曽有のイ

ンパール大作戦に参戦、サイゴン・タイ・イン

ドを三ヶ月間に亘り転戦する。戦争を知らな

い若人に平和の価値を伝えようとする歳月

をかけて著した大作

連隊史に匹する書。

(叢文社刊、一、五〇

〇円) 県内取次書店

青山書店 津駅前第

一ビル・パレス内)

献 詠

龜山市 中根 完 (八十三才)

「年頭献詠」

春秋のみ祭りに逢ふ老い達の
年とし減りて寂しくもあり
八十路こし今も育てる菊の苗

桑名市 水谷 勇

み社の斎庭明るく木々萌えて
晴れ渡りたる空のすがしき
朝詣みたらしの水汲むたびに
治まるみ代の幸を思へり
いんいんと寂けき破り除夜の鐘
往く年送るひびき身に泣む

厚 意

鑑石 (大宮町特産) 奉納

大宮町遺族会

大宮町十日園

清掃奉仕 三重県遺族会青年部

安濃町遺族会婦人部

献木 (楠) 阪口庄之助氏 (度会町葛原)

かつて社報で松喰虫の被害、又献木の



奉納された鑑石



奉納植樹されたコテヒバ



清掃奉仕

お願いを致しました処、各方面より多大な厚意が寄せられ、今回も樹木の奉納をいただきました。
献木並植樹(ツゲ・コテヒバ)
大宮町遺族会
拝殿前欄干下に何か緑をと考えていた所、大宮町遺族会より緑あざやかな、コテヒバが奉納され、青年部の手により植樹された。

藤波労働大臣参拝さる

昨秋、労働大臣として入閣された藤波孝生氏が、去る一月十二日参拝の為米社、神前に玉串を捧げ大臣就任の報告参拝をされた。

藤波労働大臣は神社関係の役も歴任されており、三重県青年会会の初代会長として活躍された事は周知の処である。

現在、神道政治連盟国会議員懇談会代表幹事として、靖国神社国家護持運動はもとより、公式参拝の実現等々に取り組んでおり、今後の御活躍が望まれる。

御造営献金奉納者芳名

一、金拾万円 中川半三郎殿(鈴鹿市小社町)
一、金参万円 中山 米子殿(名古屋市中)
一、金拾万円 藤枝まさの殿(河芸町東千里)

元歩兵第一五一聯隊

戦死者慰霊碑建設準備すむ

元歩兵第一五一聯隊戦友会では、兼ねてよりの念願であった戦友戦死者の顕彰碑を神社境内に建設することになった。同聯隊は兄聯隊である元歩兵第三三・五二・一三三各聯隊とならび、昭和十六年秋久居において編成せられた郷土部隊であり、大東亜戦争中最も激戦悲劇を重ねたビルマに出征し三千有余の将兵が異国の地で散華せられた。同戦友会ではこの亡き戦友を偲び、世界の平和と日本の繁栄を祈念し、去る昭和五十二年には同聯隊史を刊行し更に今回顕彰碑建設にぞむことになった。すでに五一・一三三両聯隊の碑は境内に、又三三聯隊は久居に建設されており、神社では同戦友会の切々たる悲願に添えるべく協議の結果、五一・一三三両聯隊の並びに敷地を供すると共に、同聯隊では来る十月十九日除幕式を目指し目下準備が進められている。

戦友会代表 川合俊次 松阪市伊勢寺町八三七
電話 〇五九八・五八・二〇七〇

慰霊祭斎行の予定

四月六日 午後一時三十分
元独立歩兵第十四大隊(石部隊) 戦死者慰霊祭
長沢喜夫 伊勢市上地町大久保
古野菜品備内

四月十三日 午前十一時
元歩兵第一一聯隊戦死者慰霊祭
高瀬貞一 津市栄町三丁目六九
海友会

六月二十八日 午前十一時
元歩兵一三三聯隊第二大隊第五中隊戦死者慰霊祭
山本喜八郎 四日市々桜町二一八〇一三
お知らせ致します

最近戦友の方々による慰霊祭斎行が多く申込まれております。亡き戦友の慰霊の祭典に一人でも多くの参列を望まれている事と思いますが、本紙による広告をご利用下さい。本社報は年三四万部を発行し、県下御遺族を始め各団体戦友会等にお渡し致しております。編集の時期に合えば掲載致しますのでご連絡下さい。

発行 年三回 四月・七月・十月・各一日付 一回四万部発行
編集締切 三月五日、六月五日、九月五日
掲載項目 慰霊祭名称及び団体名、期日、代表者又は連絡先住所、電話

人事異動

退任 実習生 草地 良典 二月二十九日付
就任 巫女 長谷川綾子 三月十二日付
「編集後記」
暑さ寒さも彼岸までとか、大祭にはお元気で参拝下さい。皆様のお便りをお寄せ下さい。

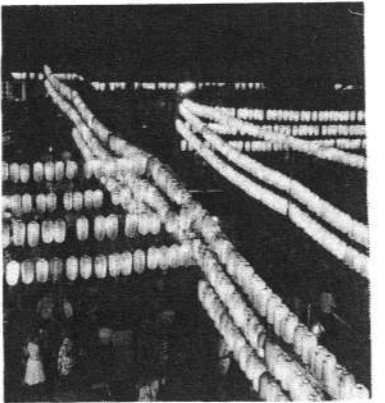
おもな内容案内

異くも幣饌料を御下賜 一頁
謹んで奉幣祭を斎行 二頁
万灯みたま祭の御案内 二頁
献身の勇士 二頁
皇学館大学長 田中 卓
「英霊奉斎基金」並に奉納者芳名 四頁

野呂厚生大臣参拝さる 四頁
中部護国神社実務担当者研修会 二頁
第一回研修会を当社にて開催
五一聯隊慰霊碑建設地鎮祭斎行 二頁
戦友の力を結集、多年の悲願が実る
慰霊祭斎行の予定 四頁

これからの主な祭典

七月二十三日・二十五日 万灯みたま祭



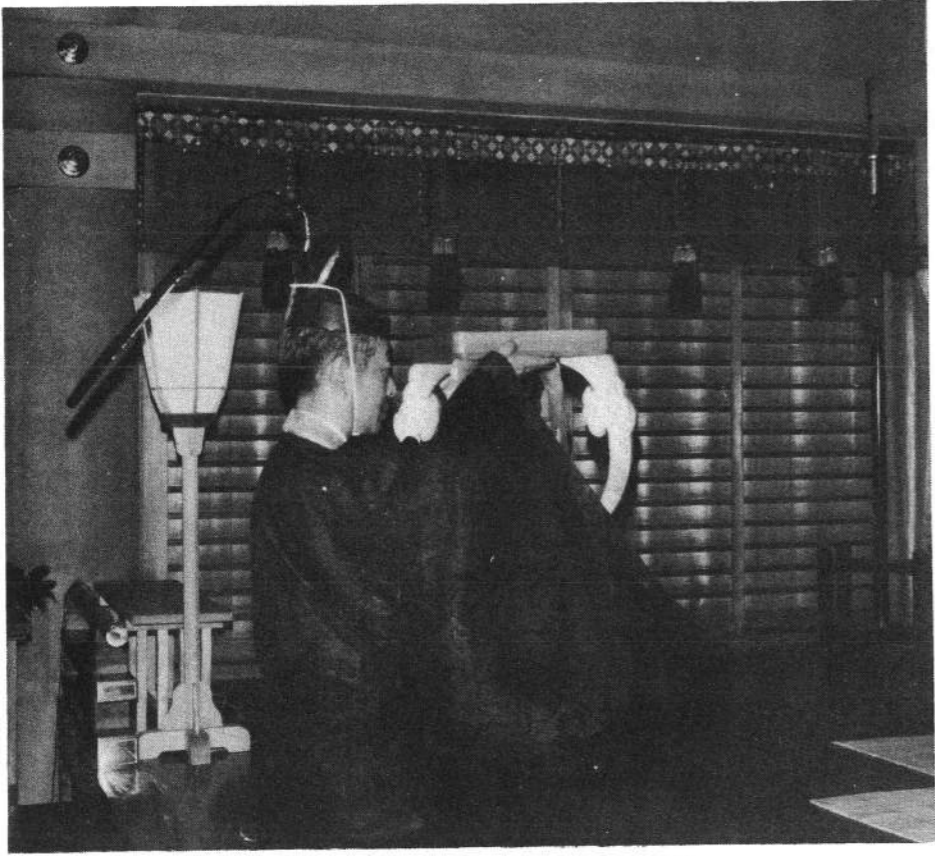
境内一面の献灯

七月二十五日 式年みたま祭

式年祭該当祭年
三十年祭 昭和二十五年歿
四十年祭 昭和十五年歿
五十年祭 昭和五年歿
六十年祭 大正九年歿
七十年祭 明治四十三年歿
八十年祭 明治三十三年歿
九十年祭 明治二十三年歿
百年祭 明治十三年歿
百十年祭 明治三年歿
該当御遺族は御一家で揃って御参列御参拝下さい。
八月十五日 終戦記念祭
九月二十三日 秋分祭



昭和55年 7月1日発行
発行所 三重県護国神社
津市広明町387
☎(0592)29 2559
〒514
発行責任者 宇治土公貞幹



幣饌料を奉る

天皇 両陛下には幣饌料を御下賜 謹んで奉幣祭を斎行す
天皇皇后両陛下には、第三十一回全国植樹祭に御臨席のため、当三重県に行幸啓遊ばされましたが、かねてより当社に幣饌料御下賜の御沙汰があり、去る五月二十二日、御来県第一日目賢島の御宿所へ宮司伺候し、謹んで拝受致しました。
御神前に幣饌料を奉る奉幣祭は、臨時大祭として重儀をもって五月三十日午前十一時より厳肅裡に斎行された。菊花御紋章燦然と輝く唐櫃におさめられた幣饌料は、宮司の手により神前に献ぜられ、此度の両陛下の畏き御心を拝しつ、皇室の繁栄、国家の隆昌並に、今回の全国植樹祭にあたっての御手植の樹木を始め、植樹された木々がすく〜と成長し緑茂り成す事を祈念し祭典を終了した。

献身の勇士

皇学館大学長 田 中 卓



「われわれの前に残されている大事業は、奴隷解放ということに、ここで身を捧げるべきは、むしろわれわれ自身であります。それは、これらの名譽の戦死者が最後の全力を尽して身を捧げた、偉大な主義に對して、彼らの後をうけ継いで、われわれが一層の献身を決意するため、これら戦死者の死をむだに終らしめないよう、われらがここに堅く決心をするため、またこの国家をして、神のもとに、新しく自由の誕生をなさしめるため、そして人民の、人民による、人民のための、政治を地上から絶滅させないため、でありませぬ。」(若文庫「シンカン演説集」二四九ページ)

戦後の学校教育では、占領軍の命令で、「道徳」(修身)が廃止になりましたが、やがて平和条約が結ばれ、独立をとりもどした昭和三十三年から、やっと「道徳教育」が復活しました。つまり敗戦後の十三年間は、日本の学校教育に「道徳」は失われていたわけです。国家にとっても、国民にとっても、本当に不幸な時代であったといわなければなりません。

これはベンシールヴェニア州のゲティスバーグにある国有墓地での慰霊祭に臨んでの演説であります。「偉大な主義」— 奴隷解放という理想のために戦い、そして亡くなった「名譽の戦死者」の徳をたたえ、その人々に感謝し、戦死者の死をむだに終らしめないよう、われら自身が「彼らの後をうけ継いで、一層の献身を決意せよ」と説いているのであります。「献身」こそは、偉大な主義・理想を實行するための原動力にほかなりませぬ。さて、皆さんの父祖、夫子・兄弟にあたるれる英霊も、日本の国家のため、身を捧げて戦われた名譽の戦死者であります。世間の一部には、太平洋戦争は日本の侵略戦争で、戦死者は犬死であったなどという愚にもつかぬことをいうものがあります。

亜戦争は、アジア諸国の植民地からの独立と、共存共栄を願って立ち上った日本の正義の戦いであったのに、敗戦の結果、戦勝国が武力を背景に、一方的に日本を悪者扱いにした。四百年來のアジア侵略史をみれば、明らか事実です。

そして現に、大東亜戦争の後に、アジアに植民地からの独立運動が湧きおこり、その影響でアフリカにも独立国が陸続として生まれ、いまや世界の国の数は三倍になったのです。そして日本も、いまや五指にかぞえられる先進国の一に発展しました。身を殺して仁を為す、という言葉があります。日本は敗戦の悲劇の中からもよみがえり、世界から植民地を解放したのであります。そして英霊の方々は、この世界的な大事業に身を捧げられた名譽ある勇士なのであります。

遺族のたより

亀山市安知本町 宮崎 ふみ

拝啓 御手紙戴いてから、十六日の合祀祭を待ちに待ち、子供に会わせて貰う気持で参拝させていただき、何と申して良いか言ひようのない思いで御座居ました。宮司様初め、多勢の神主様にお祈りいただき真に有難う御座居ました。舞女様のお世話でお座敷へ通して貰い、香りの高いお茶を戴き、拝殿ではたくさんの神主様の御奉仕で、ていねいな力ではとてもお宮に祀っていただき、自分の力でではとてもなわね事と、みな神様の御陰と喜び申し上げます。又、神社の映画も見せて戴いて、心尽くしの御馳走になり、迎へに来た孫にも戴かせて貰い、一生一代忘れ難い事のできない日でありました。本当に有難う御座居ました。 敬具

万灯みたたま祭 式年みたたま祭

七月二十三日・二十四日・二十五日 午前七時

昭和四十六年から始められた万灯みたたま祭は本年でちょうど十回目を迎えることとなった。今日では御遺族の衷心からの献灯を始め、崇敬者各団体からの大提灯、また県内外の著名人並に子供の献書画を加えて四千余灯になり、この他英霊に御供覧いたたく神賑芸能、子供みこし、子供の大じまん大会、盆踊り大会などの諸行事も年々盛大に催されており、本年も昨年以上の御献灯のもとに数々の諸行事が予定され、準備が進められている。

永代神楽講入講者芳名

自昭和五十四年十月二十一日 至昭和五十四年十二月三十一日
桑名市 西田よし子/安田はま子/和藤むつ水谷かず子/吉村文子/広田武夫/松野美恵子 四日市市 長谷川はつる/豊田志ゆ/足尾ツネ/尾崎津加/川島はる/高田嘉男/伊藤鐵夫/鈴木志な/福田せつ子/城山ひさを岡田時子/伊藤つる/綾谷すず/小林房子/古川甚助 鈴鹿市 伊達まき/杉本みさを



原田てる子/古田菊子/寺尾嘉吉/長谷川かき/森本明/森栄三郎/早川み津/杉野平三郎/館みつる/田中なみ/伊東としを 亀山市 近藤志ん/近藤ささへ/麻生高義/天野あき子 津市 佐野登代/堀切春子/荒川さず子/佐脇半蔵/河合きみ子/内藤ゆき/河合きぬへ/笠江こう/田中清/伊東正一/村田この/真弓順子/岡田よし/須川志すへ/川合きよ/青木ゆき子/川合ふぶ子/芳村清子/谷川貞子/藤田まさる/山口よしを/富田忠夫/服部榮郎/川合直之/中村文一/真

行事

- 二十三日 子供みこし 午後五時半
- 子供献書画表彰式 午後六時
- 二十四日 二十四日 詩吟奉納 午後五時より
- おじまん大会 午後六時より
- 神賑芸能奉納 午後七時より
- 拝殿前並に境内特設舞台上にて行なわれます。尚、盆踊り大会は三日間午後七時半より

中部十県護国神社実務担当者 研修会開催さる

去る五月十二、十三日の両日、当神社に於て第一回中部十県護国神社実務担当者研修会が開催された。

兼ねてより全国の護国神社宮司が靖国神社に会する全国護国神社会、更に中部地区の護国神社が持回りで開催する中部護国神社会があり、英霊顕彰の至誠を尽し奉仕すべく、幅広い研究が進められているが、これに加えて神社の実務の運営に携わる称宜や権柄宜の研究交流を図る目的で、本神社から提唱し、第一回目開催の運びとなった。

今回の研修会には中部地区十県十二社の各護国神社から十七名の神職が出席し、神社の祭典行事の中で最も重儀である「例祭」について、各神社の実情また関連する諸問題について熱心な研修が行なわれ、意義ある第一回の実務担当者の研修会を終了した。

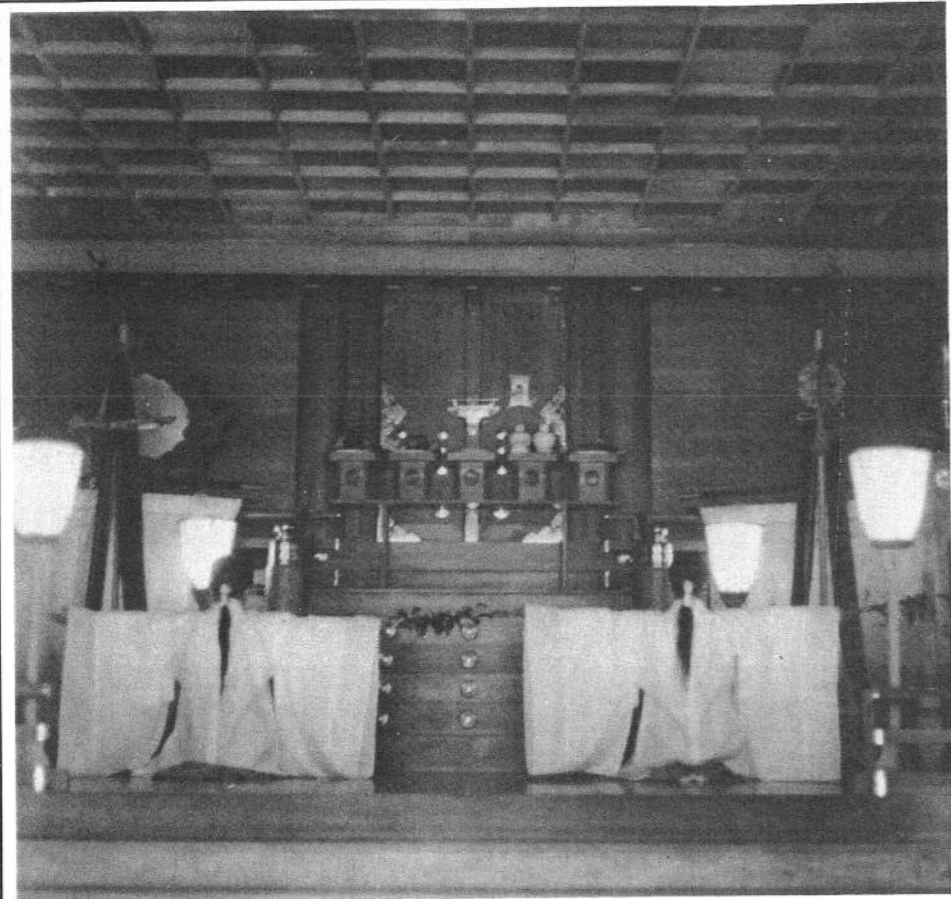
建設地鎮祭 一五一聯隊戦死者慰霊碑

前号でお知らせした元歩兵第一五一聯隊戦友の長年の悲願であった戦死者慰霊碑の建設計画が進み、去る六月十五日、宮司以下職員が奉仕により、戦友約二十名が参列し地鎮祭が斎行された。慰霊碑は兼ねて建設された元歩兵第一三三聯隊慰霊碑の南に建設される。尚除幕式は十月十九日に予定されている。



- 一志郡 工藤ちま/飯田さわ/高永育/山口ふみ/長嶋ふゆの/石川文子/今井み江/奥田あきの/佐々木きみ代/辻原美也子/小畑なを/鈴木はなへ/竹内志まゝ/豊田八郎/宮路さき/松本ゆり/中野ちよ/斎藤美枝/小畑まさる/永井とみ/中森げん/谷口トワ/奥村ハル/岡田よし/阿部ふみ/小畑つじ/稲垣かつ/大森たのめ/上川とめ/小林直/西川澄子/田中みさを/谷口茂一/飯南郡 坂本つる子/小椋長生/杉本うめの/磯田よそ/田中みち/佐々木いわゑ/滝野キヌエ/杉田斎吉/杉田しず/田中つたの/青木いとへ/広きよの/村田兼松/多氣郡 宮田きみ子/元坂伝吉/小林ひさの/前川みえ/池田かん/大西きよ/村瀬静/永野きよ/西浦くに子/中村徳一/中井長嗣/野呂恒治/三田正之/山際さた/吉田幸則/吉田すゑの/天野ひろ/中瀬トミ/西ます/森とも 度会郡 渡辺栄/長嶋文子/清水たつ/林かつみ/吉田はつる/新谷やゑ/世古シマ/松田嘉四郎/西村なつ/山澤元三/小嶋謹三/東さい/奥出董/山本サダヨ/畑綾子/倉野よし 志摩郡 浜口さき/阿山郡 木津潔子/福村治 名賀郡 岩野喜助/萱善之助/川西満子 北牟婁郡 笹山かつる/西くに/竹田辰郎/河岸正二/萩原かの子/高岡康二/東はるゑ/玉貫しまゑ/畦地ミツマ/平野みや/柳田みゑ/小高久子/濱口良二/高内茂子/伊藤とし/出口てる/垣内一太郎/井戸上嘉子/浜田秋 南牟婁郡 原田米太郎/赤井はつ/元屋敷花枝/尾宇江しげ子/大門いしの/西本きりゑ/冷水フミコ/田中さだ江/土尻みち/堀よし/原田はまゑ 愛知県海部郡 平瀬津矢子 愛知県東知郡 伊藤磯 名古屋市 川本清一郎/武内幸子/山本みち枝 埼玉県北足立郡 西英典 岐阜県益田郡 鈴木俊都子 大坂市 田中保 (敬称略)

訂正 前号名張市順川保三は順井保三の誤りです。お詫び訂正申し上げます。



昭和55年10月1日発行
発行所 三重護国神社
津市広明町387
☎(0592)252559
〒514
発行責任者 宇治土公貞幹

英霊奉斎基金について

英霊奉斎、永久祭祀、神社維持運営のため戦友の方を始め崇敬者の皆様に基金の篤志奉納をお願いしております。

英霊奉斎基金奉納者芳名(一口二万円)

一口 北口幸雄(兵庫県 元歩兵第十四大隊) / 宇治土公貞幹(伊勢市 元歩兵二八三三部隊) / 折口トシ子(鹿児島県 元歩兵第五十一聯隊第四代隊長遺族) / 表政五郎(津市 元備第四三七二部隊)

ご厚意

テント設置奉仕 英霊にこたえる会三重県本部
清掃奉仕 三重県遺族会青年部
大宮町遺族会

献木(テングイウヤク) 前川須介氏(志郡一志町波瀬)
※テングイウヤク・クスノキ科の常緑灌木。中国原産、秦の時代、始皇帝が臣下の除福ために不老長寿の薬として船で捜しに行かせたという故事がある。

献木並植樹(キャラ木) 大宮町遺族会
額一額奉納 土山真一氏(上野市桑町)



植樹されるキャラ木

主な団体参拝

自昭和五十五年三月 至昭和五十五年五月
三月 島ヶ原村遺族会
日本詩吟学院岳岳会
志摩郡遺族会

四月 大山田村遺族会
上野市花之木地区遺族会
阿山郡伊賀町小杉地区遺族会
四日市々遺族会

五月 大山田村炊村、千戸地区遺族会
近歩二会三重支部
大王町波切地区遺族会
上野市猪田地区遺族会

四日市々共同地区遺族会
大山田村平田、富岡地区遺族会
名張市平尾老人会
名張市遺族会
青山町比々岐神社敬神婦人会
上野市東高倉地区遺族会

主な慰霊祭

自昭和五十五年三月 至昭和五十五年五月
三月 善友会慰霊祭
元独立歩兵第十四大隊戦死者慰霊祭
五一会慰霊祭



元十四大隊慰霊祭

野呂厚生大臣参拝さる

去る五月十一日、厚生大臣野呂恭一氏が来社された。戦後三十五年にしてようやく旧満洲への慰霊団派遣という悲願が実現した。中国東北地区死没者遺族友好訪中団の団長として訪中され慰霊追悼の式を中斷、その帰朝の報告をかねて参拝されたものである。参拝の後、宮司と懇談し、その折の模様等を詳しくお話された。

慰霊祭斎行の予定

十月十九日 午前十時
元歩兵第一五一聯隊戦死者慰霊祭並慰霊碑
除幕式
● 川合俊次 松阪市伊勢寺町八三七
十一月三日 午前十一時
三重翔飛会慰霊祭
● 伊藤文次 桑名市新地北六五

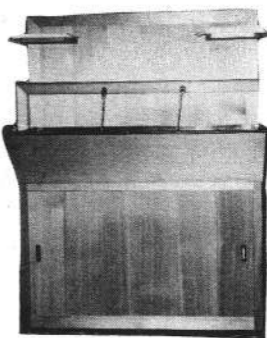
ビデオ機器(VTR)購入

神社で一年間に行なう祭典行事は、春秋慰霊大祭万灯みたま祭を始め相当数のにほりまします。これ等祭典行事を資料として記録し、また都合により参列出来なかつた方々にも再生しご覧いただけるようにとビデオ機器(VTR)を購入致しました。
今回さっそく春季慰霊大祭を収録し、三十分程度に編集致しましたので御参拝の折等、御覧いただけますのでお申し出下さい。



お手水所を新設

昇殿参拝に先だって、手を洗い口をすすぎさらに心をも洗って、清く清々しい心身で御神前にお進みいただいております。この度翼廊の西はしにある陶製の洗手水に代えて、神社の造りに合うよう、またお二人づつお清めいただけるよう、檜造りの銅板張りのもので新設致しました。



お手水所

境内駐車についてお願い

会議集会等で御来社の節、なるべく自動車での御来社は御遠慮下さい。境内の駐車場は約三十台程度と限りがあり、参拝者の便宜のためにはありますので、祭典行事等の都合上、会議集会等での駐車を御断わりする事もあります。よろしくご協力下さい。

おことわり

永代献灯者芳名について、今号は紙面の都合上割愛させていただきます。

お願い

左記社報を数部お持ちの方は、一部を社務所宛御郵送賜われれば幸甚に存じます。

昭和五十年十月一日発行 第十四号
昭和五一年四月一日発行 第十五号

編集後記

夏の宵に ま心の行燈 あかあかと 人の行き交う みたま祭 御家族ごぞつて御参拝賜われます様、お待ち申し上げます。

おもな内容案内

県下の慰霊社・忠魂碑……………一頁
世界に真の平和を……………二頁
宮司 宇治土公 貞幹
一五一聯隊慰霊除幕式近づく……………二頁
万灯みたま祭に思う……………三頁
万灯みたま祭協賛会長 北村 幸爾

これからの主な祭典

十月二十一日～二十二日 秋季慰霊大祭
十一月三日 明治祭
十一月十五日 七五三詣
十一月二十三日 新嘗祭
十二月三十一日 大祓式
十二月三十一日 除夜祭
一月一日 歳旦祭
二月十一日 紀元祭
二月十七日 折年祭
三月三日 ひなまつり
三月三十一日 春分祭

県下の慰霊社・忠魂碑

招魂社 (桑名招魂社)

鎮国守国神社境内社 宮司 嵯峨井 守
御祭神 戦歿英霊一五三二柱を祀る
例祭日 五月十三日
御創祀 明治九年五月十三日
御由緒 明治九年五月松平越中守第十三代定敬公の提唱により旧桑名城内に創祀。元治の変に殉じた旧桑名藩士三柱を祀る。次いで明治二十二年戊辰の役に殉じた一〇九柱、西南の役に殉じた八十二柱を合祀。同三十年日清戦争に殉じた六柱を合祀、その後日清・日露戦争を始め日独、支那事変、大東亜戦争に殉じた霊一三三二を合祀して今日に至る。

殉難英霊碑



旧桑名城本丸鎮座 桑名招魂社
本殿入母屋瓦葺 5.55坪
拝殿入母屋瓦葺 19.25坪

鎮国守国神社境内 桑名市吉之丸九番地
宮司 嵯峨井 守
慰霊柱数 一一二柱
祭典日 五月十三日 八月十五日
御創立 明治二十年十二月
碑文 (表碑文抜粋)
忠哉義哉桑名主民守節取義各殉其難郷党追慕
建碑招魂嗚呼忠節永照千春
御由緒 松平越中守第十三代定敬公提唱され有志により旧桑名城天守閣跡に建立、堺町御門の変及び戊辰の役西南の役に殉じた旧桑名藩士の霊を祀る。



旧桑名城天守閣跡 殉難英霊碑
鉾型銅製 (碑高約5m、全高約10m)

世界に真の平和を

宮司 宇治土公貞幹

全国植樹祭が今年県下で行われ、両陛下をお迎えして盛大に終了したことよろこばしい事でありましたが、その際当社神前に幣饗料のお供えを賜わり、奉獻の臨時祭を齎行出来ました。両陛下の御親拝の感激の憶い出も新たに、謹んで奉仕させていただきます。一層神明奉仕の責任の重大さを痛感致しました。終戦記念祭を執り行いました八月十五日、鈴木新総理をはじめ各閣僚の、靖國の御神前に参拝は、喜ばしいニュースでありました。「祭る」という心の基本は、唯単に個人の宗教的信条ではありません。まつり・まつろは事は家を挙げ世を挙げ國を挙げてこそまことのみつりです。殊に靖國護國の英霊の祭祀は特にそうではないでなりません。終戦記念の日の国式典では、英霊に対して黙禱が行われ、当社でも祭典に続いて、陛下のお言葉をラジオで拝聴し、共に黙禱をさせていただきます。この黙禱で忘れられない事があります。ジャバパンタイムズ

万灯みたたま祭齋行さる

七月二十三日、二十四日、二十五日の三日間に亘り、夏の万灯みたたま祭が齋行された。春秋の例祭に次ぎ重儀をもって御英霊翌年十年目毎にお祭り申し上げる式年祭では該当祭神九百一柱をつがなく慰霊申し上げた。御遺族崇敬者の衷心よりの献灯も年々増加の一途をたどり、本年の献灯総数は四千余灯にもなった。特に子供献書画においては約四百灯と昨年比一五〇灯の増加で、次代を担うお子様お孫様の書画を御英霊も御嘉納のうちに供覧いただいた事と存じます。高、来年の子供献書画の夫々の題は左記の通りです。

昭和五十六年度子供献書画

習字 低学年「みあかし」

高学年「献灯」

正月の御家族お揃いの初参りの折には、「申込の要項」をお渡しできるように用意致します。おおいに参加御応募下さい。

万灯みたたま祭に思う

万灯みたたま祭協賛会長 北村宰爾

護國神社の年間最大の重儀の一つである春季慰霊大祭が終って、神域の葉桜が色を増す頃になると、町の人々の間に、また学童仲間でも夏の万灯みたたま祭のことが話題にのぼるのであるが、その頃には既に神社当局では手慣れた段取りで準備業務が始まっているのである。社務所は初夏のおとずれとともに日を追うて繁忙を加えていくのである。今から十年前に「式年みたたま祭」の協賛行事として、民間有志の積極的な発意によって創められた「万灯みたたま祭」が、このように神社の一大行事として定着したことは、ご神威の然らしむるところであることは当然ながら、英霊に対する庶民の自然発生的な感謝と祈りの心の現われに他ならないと思われる。近時、靖國神社の国家護持とか公式参拝等について兎角の意見が出されてきたが、祈りに傾づく人達の敬虔な姿を、またその祈りを中心を軍国主義の復活とか軍事思想の高揚に結び付けること自体に矛盾があると思われなければならないのであって、そこには純粹素朴な人間としての只管な感謝と祈りの心があるのみである。

私の関係する経済団体である商工会議所では、去る昭和五十三年の秋に、その総元締めである日本商工会議所会頭の提唱によって、全国四百七十余の商工会議所が結果として、わが国商工会議所制度創設百年の記念行事を東京都において盛大に挙行したのであるが、皇太子殿下・同妃殿下をお迎えしての厳肅な式典のほか、産業経済に関する展覧会、講演会、シンポジウムなどの協賛行事が都内各地で開催された中で、最も異彩を放ったのが秋晴れの下に代々木の国立競技場に、天皇陛下の行幸を仰いで繰り展げられた一大絵巻物とも云うべき「全国郷土祭」の行事であった。

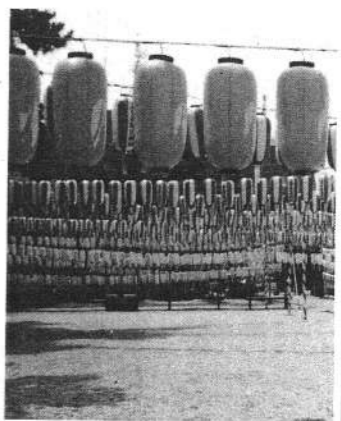
「三重県の護國神社の神域は他県のそれと比較して狭隘ではないのか、もつとく提灯を張り巡らせる場所が欲しいなあ」という声が、最早やこれ以上の数は無理ではないかと思われる程までに、境内一杯に張り巡らされた今年の万灯を仰ぐ人達の間で交わされていた言葉であった。(津商工会議所 専務理事)



獅子神楽奉納(勝手神社)



子供のどじまん大会



一五一聯隊戦死者慰霊碑 除幕式近づく

去る六月に地鎮祭を行った元歩兵一五一聯隊慰霊碑の建設工事が、除幕式を十月十九日にひかえて、着々と進められている。七月には基礎工事、八月には台座の据えつけ、現在、碑本体の設置の段階である。碑の題字は田川三重県知事の揮毫による。その本体は万成石を、台座には白御影石を用い、高さはおよそ五メートルとなる。除幕式には戦友並びに御遺族多数の参列が予定されている。

永代献灯者芳名

自昭和五十五年三月一日

- 桑名市 山川はつの/阪武夫/水谷こゆき/後藤政子/石川はな/伊藤敏雄/松岡あけ
- 松田さわ/水谷むねの 四日市市 田中けい
- 宮川ハス/西脇ち江子/伊藤昭二/石塚登志子/平田滋宜/細井とし/川瀬ひさを
- 鈴木さの 鈴鹿市 三林晃/棚瀬照子/伊藤まき/北川ハジメ/杉本みさを/谷田しづ子/飯田正太/安井てる/森あまゐ/前川千代子 津市 岡田きし/内田英一/中川よし池田あや/植田登志/森岡すて/谷口幸夫
- 藤村嘉郎/行方りえ/館せよ/伊藤とくの
- 高村トミ/早川さわ 伊勢市 堀かつ 松阪市中出すへ/阪口たき/長谷川幸/高尾はつ子 伊勢市 西山なを/西山秀夫/西村久生/小笠原あゑ/中田小きく/鈴木とく/安岡新平/山下ぬい 鳥羽市 上井ゆきゑ 上野市 中林鹿太郎 名張市 大矢あけ/松内トヨノ 尾鷲市 宮崎春江 桑名郡 稲垣早三郎 川北つね/松永春男/駒田義男/芝田マスエ 会芸郡 倉田すま/海野輝夫/前田あん/林よね/篠原英代子/篠原幸子/篠原みさを 一志郡 山中俊樹/吉田ことゑ/岸岡のぶ/海老沢さいこの 多気郡 松本きよ柳瀬ふる/三田正之/本田喜久生/西村けい世古口きみ/村林ふみゑ/阪井絹子/森田さだ子/井坂きぬ/竹内愛子/東やすの/奥田隆助/金高健也/中出すじ/宗林卯七 飯南郡 藤本亀造/山下義弘/山口さい/大林みづ子/松本屋枝乃/松本のお 度会郡 山本ふみ子/松田とみへ/三柳貞八/小倉欣一/神谷あさ 志摩郡 西田輝夫/福岡将治郎 阿山郡 西口はるへ/西口寿子 八尾市 山鹿辰雄

現在の永代献灯総数は八六六灯です。配線の関係で目標を一千灯としておりますので、御希望の方は早めに申し込み下さい。(敬称略)

永代神楽講入講者芳名

自昭和五十五年六月三十日

- 桑名市 森田江美子/平林きみ/加藤ひさの
- 後藤鈴/加藤つま/近藤信子/伊藤みね/松岡あけ 四日市市 小林政三/高橋睦夫/林忠男/川村秀郎/磯部行雄/田中きぬゑ/藤井信一/中山よね/国保はな/斎藤よしゑ/寺本たづ子/星野馨/田中知吉 鈴鹿市 山中橋松/杉本清孝/馬場きくゑ/坂たきゑ/館智/庄山みさ/牧田くに/伊藤喜代松/浜口文子 龜山市 宮崎ふみ 津市 田中美枝 倉田武夫/金藤いゑ/名倉環/山口越夫/古寄昌子/田口キン/服部章 久居市 伊藤喜三郎/内山きみ子 松阪市 鈴木愛子/岩下勇/吉田善助/末良寅三/上山まさゑ 伊勢市 富岡よしゑ/中西才吉/榎原さき 鳥羽市 山下栄一 上野市 中村ちゑ子/松本敏明/峠喜太郎/宮脇百合子/原二三/山下宣勇 名張市 中西よしゑ/中森房子/西森なら尾/宮本絹子/岡村芳子/副島治代/中村市子/浦かつへ/津崎静子/西村雛子 尾鷲市 川口武吉/崎地信 桑名郡 伊藤正/伊藤たまゑ 員弁郡 富永静/瀬古久子/瀬木ます 稲見おおく/加藤はな 三重郡 伊藤八重乃/出口武/柳生かる/北井保雄/山下禎生 安芸郡 小林光一/練木よしゑ/笹野千鶴子/落合公平/角田茂 一志郡 田中はる/脇田重雄/山村正/藤岡達夫/大西とみへ/梅田トモエ/中村みね子/近藤久治/近藤よしゑ/粕谷政男/野瀬たね/鈴木露子/大谷周三 多気郡 村林ひでの/藤原公夫 度会郡 奥村きん/河井見つ/角谷よ祿/浜田泰幸/小山清見/森下春生/山根たま 志摩郡 磯和清十郎/西岡そのの/中西たい/数内榮/坂中武生/北井とい 名賀郡 廣田政北半妻郡 浜田元子 南半妻郡 山口茂市 愛知県知多郡 加古早苗 名古屋市 山本みち枝/境幹雄 京都市 坂志津 滋賀県蒲生郡 伊藤敏子

英霊奉斎基金奉納者芳名

(一口一万円)
 一口 古市俊雄(安芸部 沖繩戦没者友の会) 土性正
 雄(津市 元歩兵第五十一聯隊第十二中隊) 西井新助
 (伊勢市)
御造営献金奉納者芳名
 一、金老万円 河井 見つ殿(玉成町日町)

主な団体参拝

自昭和五十五年六月 至昭和五十五年八月
 六月 阿児町軍恩連盟
 七月 阿山郡大山田村真泥地区遺族会
 大山田村阿波地区遺族会
 阿山郡遺族婦人部
 熊野市五郷町遺族会
 松阪市遺族会婦人部
 一志郡高岡神社敬神婦人会
 八月 安芸郡遺族会慰霊祭
 一三八ビルマ会慰霊祭



安芸郡慰霊祭

御厚意

万灯みたま祭準備および御奉仕
 万灯みたま祭協賛会員
 一志町高岡神社敬神婦人会
 国児学園
 清掃奉仕
 傷痍軍人家族の会



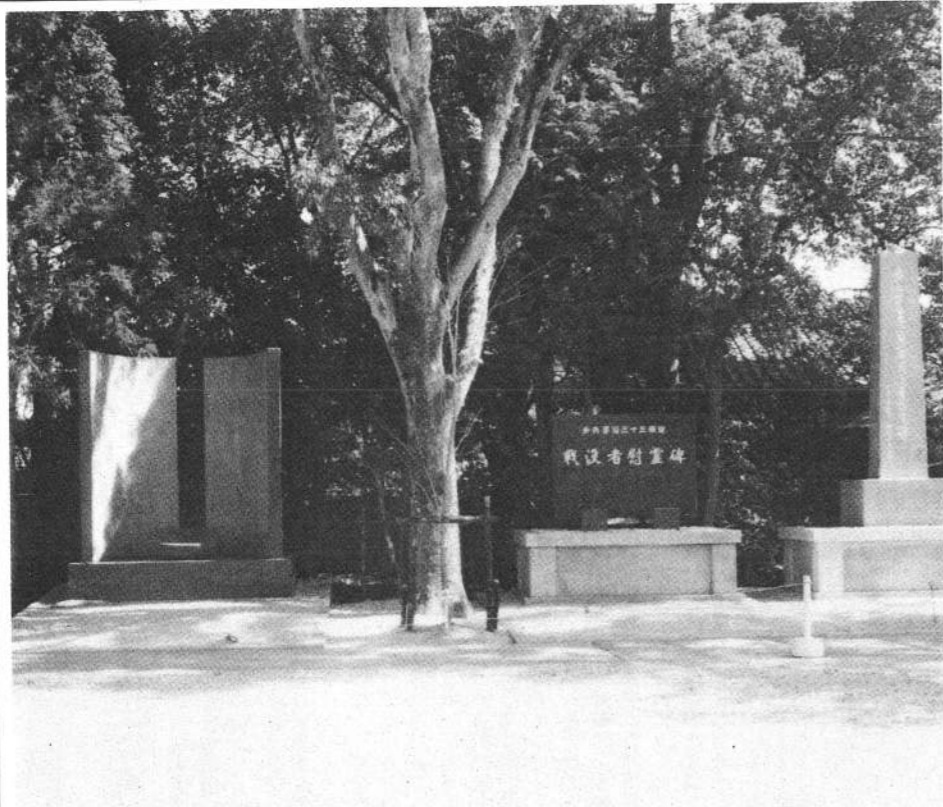
清掃奉仕

慰霊祭斎行の予定

十月十九日 午前十時
 元歩兵第一五一聯隊戦没者慰霊祭並慰霊碑
 除幕式
 (連) 川合俊次 松阪市伊勢寺町八三七
 十一月三日 午前十一時
 三重翔飛会慰霊祭
 (連) 伊藤文次 桑名市新地北六五
 四月十二日 午前十一時
 元歩兵第五一聯隊戦没者慰霊祭
 (連) 高瀬貞一 津市米町三丁目六九
 四月十九日
 元歩兵第一三三聯隊戦没者慰霊祭
 (連) 前田隆治 阿児町鶴方一六八五一



昭和56年4月1日発行
 発行所 三重護国神社
 三重県津市広明町387
 津市(0592)262559
 〒514
 発行責任者 宇治土公貞幹



元第五一聯隊・元第一三三聯隊・元一五一聯隊境内建立の郷土三聯隊の慰霊碑

奉納 新能

とき 十月二日(木) 午後五時半始(雨天順延)
 ところ 当社社境内
 主催 喜多流長袖会
 後援 津市・津市教育委員会
 問合せ先 ○五九二〇九〇二九・赤塚亮一

みたま慰の舞

やすらかにねむれとぞおもふ君のため
 いのちささげしますらをのとも

この御歌は昭和十二年十一月三十日に皇后陛下より戦没者に賜われたもので、国のために命を捧げられた多くの護国の英霊の上をお慰びになられてお詠みになったものである。
 諸国神社では昭和十六年十二月に多田朝氏に作曲、振付を依頼し、それ以来恒例の祭典をはじめ毎日の永代神楽に神前に奉奏して御祭神をお慰め申している。

永代神楽講入講料の変更についてお知らせ

現在入講料は左記金額となっております。
 思い違いをされてお申し出をされる方がいますので再度お知らせ致します。
 一、入講料 五万円(御一柱)

人事異動

出仕 尾間時弘 七月二十五日付
 権称宜に任ず
 退任 巫女 豊岡久美 七月三十一日付

おもな内容案内

一五一聯隊戦没者慰霊祭
 並に慰霊碑除幕式斎行さる……………二頁
 神意奉行……………二頁
 レコード発売される……………三頁
 慟哭の歌「あさいばん」に俺は泣く……………三頁

これからの主な祭典

四月一日〜三日 就学折願祭
 今年、小学校へ入学する児童を対象に学業成就の祈願並に交通安全の祈願を致します。
 四月二十一日 春季慰霊大祭
 四月二十二日 春季慰霊大祭
 おしらせ

県下の慰霊社・忠魂碑

英霊殿 飯南郡飯南町
 柿野神社境内社 宮司 野村太郎
 御祭神 戦没英霊二五七柱を祀る
 例祭日 三月十日



英霊殿 (1.96㎡、柱間1.4m)

お願い

慰霊祭典の案内について、郵便にて御遺族のお手許にお届けする通知に、一つは永代神楽祭案内通知(往復葉書)、もう一つは命日祭案内通知(単葉の葉書、但し永代神楽講入講者には案内はなし)の二つがあります。このいづれか一方の御案内を差し上げる事になっておりますが、左記の方には御案内をしておりません。

一、県内在住の御遺族で住所を変更され、当社に新住所が登録されていない方。
 二、本籍が県外の御遺族で県内に移住され、御英霊を当社にお祀りしていない方。
 そのうち一に該当の遺族は手紙なり電話で変更をお知らせ下さい。直ちに祭典案内の通知がお手許に届きますよう手続きをさせていただきます。二については諸手続が必要で直ちにというわけにはまいりませぬが、とりあえず手紙なり電話でお知らせ下さい。

〒514 三重県津市広明町三八七
 電話 (0592)262559
 三重県護国神社事務局

編集後記

今夏は冷夏という異常気象で過しやすしい日々でしたが、作物の生育にはやはり夏らしい暑い夏であってほしいものです。
 夏休み中は子供づれの家族揃っての参拝が見られました。健康な御両親、幸せな妻、そして成長した遺児、まして英霊の孫にあたる子供達が神前に見よう見まねで拝する姿をいかが思召していらつしやる事でありました。う。お喜びいただいている事と思えます。
 夏休みに限らず時々は御一家揃って参拝下さい。参拝の子供達には御英霊の御機威によって心の教育をしていただけるものと思えます。
 社報内容の充実等に努力しております。お気づきの点等御寄稿下さい。

拝殿調度品(几帳)奉納さる……………三頁

四日市々の大野様より見事な几帳を奉納いただきました(御厚意四頁)
 これからの主な祭典……………一頁
 県下の慰霊社・忠魂碑……………一頁
 慰霊祭斎行の予定……………四頁

忠魂碑

柿野神社境内 宮司 野村太郎
 慰霊柱数 二五七柱
 祭典日 三月十日
 御創立 昭和六年十月
 碑文(表) 忠魂碑 陸軍大将、一戸兵衛書(裏) 昭和六年十月建之
 帝国在郷軍人会柿野町分会



忠魂碑 自然石前面研磨 (碑高3.1m、全高5.7m)

神意奉行

宮司 宇治土公貞幹

御英霊の御加護のもとに、御遺族崇敬者の皆様にはいよいよ御健康で、良い陽春を迎えられましたことと拝察申し上げます。

最近の世相を見るにつけて、戦後生れの人の方が多くなり、いよいよ本格的な戦後の悪弊も出て来た気が致します。

その一つの現われが、中学校暴力の問題であります。今、世界的にこの問題があると聞きますが、諸外国の例は生徒同士の暴力事件が多いのに対して、わが国はそれは多く先生に対する暴力であることは、洵に嘆かわしいことです。昨年中の国内の犯罪者は成人の場合千人に二・五人であるのに対して、少年は十五・四人で、実に六倍以上となっております。

この原因については、社会・学校・家庭がその出発点であることを十分に認識して、あらためて真剣に対処して行かねばなりません。そして少くとも義務教育の期間に於ては、知育以上に人間として正しく生きて行く基本を

祭事録

昭和五十五年
 ○奉納新能 十月二日………写真①
 第三回目の奉納。喜多流長袖会主催、津市・津市教育委員会後援。県内各地はもとより県外からも多数訪れ、その数も年々増加する。

○秋季例祭 十月二十一日・二十二日
 大祭委員長には野村伸三郎鈴鹿市長に就任いただき、来賓の田川三重県知事を始め県下各界の代表や御遺族が参列。

○七五三詣 十一月三日・二十五日
 県下全般より約五千人が参列して、子供達の健やかな将来の生長を祈願した。

○大祓式 十二月三十一日

夕刻より、新年を迎えるために、穢をのぞいて心身を清浄潔白にする大祓式が斎行され、県下より集められた人形約七千体を大河路に流して終了した。

昭和五十六年
 ○歳旦祭 一月一日
 新しい年の幕開けを祝い、皇室の繁栄、御遺族崇敬者の平安、並に国家の隆昌を祈願する。

○ひなまつり 三月三日………写真②
 内裏さま、おひなさま、三人官女に扮した子供達は祭典終了後、準備された離壇に可愛い顔も晴れやかに並び、一生の思い出に御父兄の方により記念写真の撮影がされた。

一五一聯隊戦死者慰霊祭並に慰霊碑除幕式斎行される

昨年、十月十九日郷土部隊元歩兵第一五一聯隊戦死者慰霊祭並に慰霊碑除幕式が当神社境内に於て厳粛裡に斎行された。

十月には希な激しい雨が降り続くなかを早朝より県内外の各地より集まった戦友の方々を始め遺族多数が詰めかけ、境内に設置された大テントの中で祭典開始を待ちのぞんだ。

十一時に始まった祭典は、祝詞奏上に続いて川合俊次戦友会会長の祭文奉読の後、二人の子供の手によって慰霊碑の幕が除かれ、参列の戦友御遺族の眼前にその姿を現わした。題字は当日来賓として参列された田川亮三三重県知事の揮毫によるものである。

玉串拝礼ののち、川合会長の挨拶と続いたが、その中で、いよいよ激しさを増して降り続き、大テントをとおしてしぶく雨足にふれて「まさにそれは、我々九死に一生を得た戦友の痛恨の極みであるインパール攻略戦にて、雨期のビルマのジャングルを勇戦奮闘、行軍して、風土の異なる辺境故に、物質の補給もままならず、悪条件の雨期故に、悪疫に悩ま



されて、次々と戦友が落伍していくのをなす術もなかった。あの時の豪雨を思わせ、慰霊碑除幕の時にあたり亡き戦友の慟哭のような万感胸に迫るものがあつた。

この後、戦友遺族は遺族会館に会場を移し、ありし日の戦友、ありし日の父、夫を偲んで語り合った。

尚、これで郷土の四つの聯隊の戦死者慰霊碑も全て建設されたことになった。

永代神楽講入講者芳名

自昭和五十五年七月一日
 至昭和五十六年二月二十二日

桑名市 岡田文江/石原志乃/伊藤紀長/平野ミチエ/山田ふみ子/近藤ぬい/伊藤ふさ
 四日市市 安田三蔵/高橋睦夫/伊藤たつ
 近藤栄球/小林美栄子/小林政三/伊藤みつ江/今村たき/笠井英子/佐藤ふで
 中川半三郎/岡本しま子/大杉周三郎/浜岸まつ江/浅田三雄/飯田清吉/藤田一/渡辺あい子/山崎もと/小崎ひな/大野豊松/橋本兵之助/小林いづ子 亀山市 元原藤四郎/小川孝茂/葛西みきへ/木葛西せつこの/下ちよの/練語音一 津市 山川いく/斎藤恒

三重県遺族会 青年部執行委員長 谷 嘉昭

私達遺族青年は今、子を持つ親となり、成長する我が子の姿をみて、あらためて自分の父親に想いがつのる昨今であります。この度上野市の川本君が父の散華した南の島へ遺骨収集に参加して父を想い精いっぱい歌った歌を県遺族会青年部発足二十周年記念事業としてレコードの制作を致しました。この歌は決して川本君の歌ではなく、県下の遺児の共通の心からの叫びであります。そして戦没者の遺骨収集を速みやかに解決致さねばならないと強い願いをこめて制作したレコードです。

世の一人でも多くの方々にこの歌をじっくり聞いていただき悲惨な戦争が二度と起こらない運動に役立てたいとおもいます。



レコードの制作 川本真澄
 私は昭和52年2月、政府主催の第10回マリアナ諸島遺骨収集団の一員として父の眠る玉碎の島サイパンへ渡りました。

僅か20日間の収骨作業でありましたが、その現状は今も私の脳裏から離れることができません。まだまだ先の大平洋戦争で散華した多くのご英霊の御遺骨が戦跡に野ざらしになっております。一刻も早く、一体でも多く故国へお迎えし繁栄する祖国で安らかに眠っていただきたいと思っております。そんな願いをこめて自ら体験した涙でつづった歌を聞いて下さる方々に、

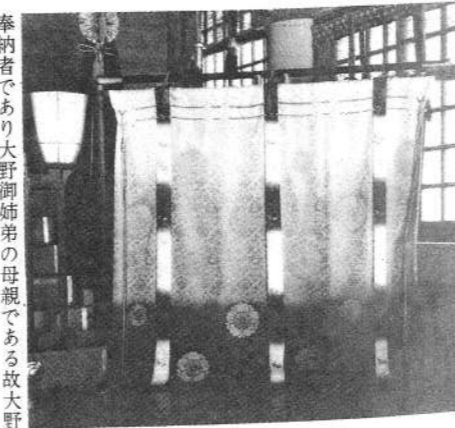


幣殿調度品「几帳」
 奉納奉告祭斎行される
 去る三月四日、当神社幣殿に常設される几帳の奉納奉告祭が斎行された。

大野房子さん、大野秀雄氏御姉弟ら三人が参列、御神前に玉串を捧げ拝礼し、御奉納の由を奉告された。祭典後宮司より感謝状、記念品を贈呈し、厚く謝意を述べた。直会の席に移り、本来の

奉納奉告祭斎行される
 去る三月四日、当神社幣殿に常設される几帳の奉納奉告祭が斎行された。

大野房子さん、大野秀雄氏御姉弟ら三人が参列、御神前に玉串を捧げ拝礼し、御奉納の由を奉告された。祭典後宮司より感謝状、記念品を贈呈し、厚く謝意を述べた。直会の席に移り、本来の

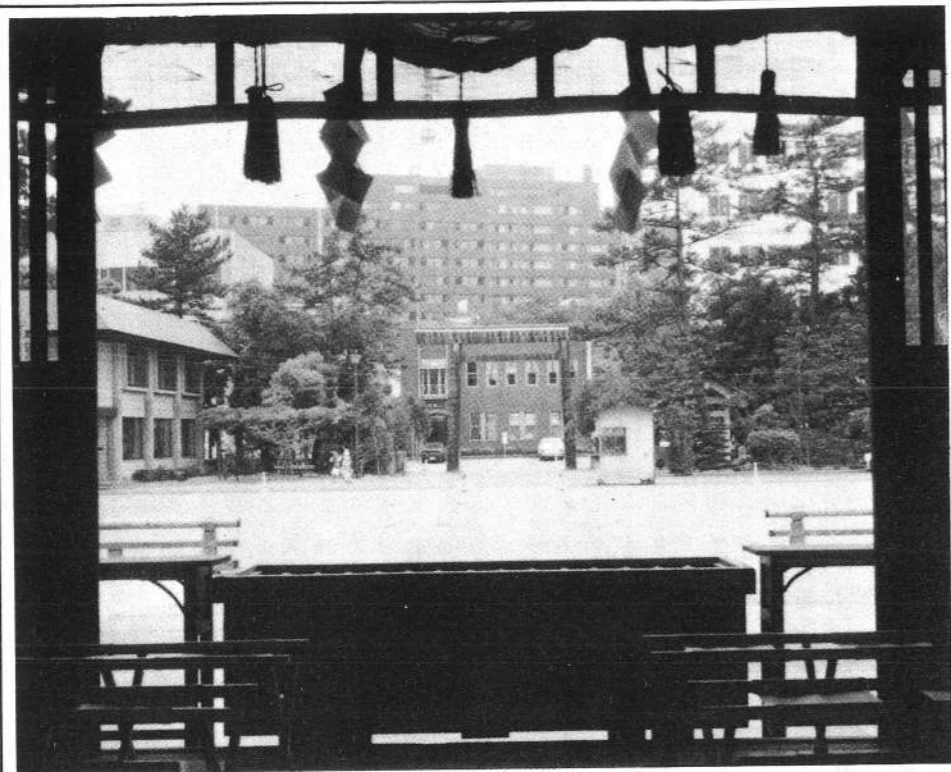


奉納者であり大野御姉弟の母親である故大野きくのさんのお話に終始した。

これまであつた几帳は十年前にきくのさんの御主人、故大野与惣右エ門氏より奉納いただいたもので、十年の歳月を経て色褪せ処々風化による破れが目立ち始めたため、昨年の春当社より几帳の布部分の新調を奥さんの大野きくのさんに無心したところ、御主人の遺志を受けつがれるとの故をもって御快諾いただいた。直ちに京都の装束店に発注したが規格寸法より大きく、染め上げも特注の特注品のため長期間を必要とし、八ヶ月後の十月にようやく納入された。早速、奉納奉告祭を計画し、大野きくのさんにもその旨連絡し、その日を心待ちにされていたが、急に健康を損われ、几帳を御覧いただく間もなく、惜しくも昨年十月他界された。

年改まり今回改めて奉告祭を斎行し、御神前に奉納の由を奉告すると共に大野御夫妻の篤志を偲んだものである。

尚、大野御夫妻にはこれまで英霊奉斎、遺徳顕彰にご尽力いただいております。几帳奉納(社報第9号)の他、社名旗奉納(社報第3号)、社標用木製看板奉納(社報第10号)等の篤志がある。



拝殿より境内南面を眺む



昭和56年7月1日発行
発行所
三重県護国神社
津市広明町387
電話(0592)292559
〒514
発行責任者
宇治土公貞幹

主な慰霊祭

自昭和五十五年九月至昭和五十六年二月

九月 元歩兵第三十三聯隊第一大隊第一中隊・昭和九年同期生慰霊祭
雄飛会慰霊祭
元歩兵第一五一聯隊慰霊祭
並慰霊碑除幕式

十月 元歩兵第一五一聯隊慰霊祭
並慰霊碑除幕式

十一月 三重翔飛会慰霊祭
元歩兵第一五一聯隊第二中隊慰霊祭
各航会慰霊祭
元野砲兵第一二二聯隊山吹会慰霊祭

十二月 南牟婁郡遺族会
飯南町遺族会
大山田村中島地区遺族会
飯高町波瀬地区遺族会
中勢地区遺族会婦人部
四日市々山之一色地区遺族会
伊賀町柏野地区遺族会
伊賀町下柘植地区遺族会
阿山郡遺族会
伊賀町御代地区遺族会
吼山流詩吟道三雲吟詠部
津市橋北地区社会福祉協議会
三重近鉄タクシー津営業所
津市桜橋三重トヨタ津営業所
笹村測量設計株式会社
百五銀行津駅前支店
三交ホーム株式会社津支店
日本旅行津営業所
東洋信託銀行津支店
第三相互銀行津支店
全日本自動車販売労働組合中部地区
三重日産自動車支部
三重ハイム株式会社
近鉄江戸橋保線区
大和ハウス工業株式会社津支店
津市遺族会
中部管区警察局三重県通信部
大川学園剣道部
健康会
三重県建設業協会
三重県総合荷役株式会社
四日市市水沢地区遺族会
安芸郡遺族会
上野市遺族会第二分会
三建会
三重県遺族会
鳥羽市遺族会婦人部
北勢町遺族会
伊賀町柘植地区遺族会
鈴鹿市牧田地区遺族会

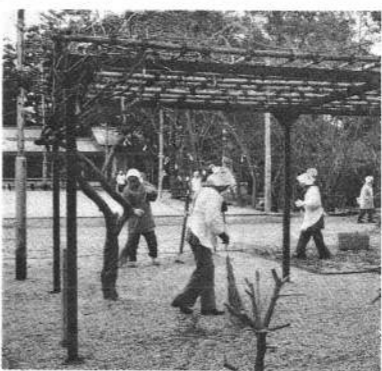


翔飛会慰霊祭

一、厚意

遺族会婦人部
遺族会婦人部の方々には遺族会館宿泊の折には早朝より清掃奉仕をいただいており、年十数回に及びます。
三重県遺族会青年部
大宮町遺族会
伊賀町遺族会婦人部
雑巾寄贈(殿内清掃用)
几帳奉納(幣殿調度品)
大野きくの(四日市々城山町)

清掃奉仕
遺族会婦人部
遺族会館宿泊の折には早朝より清掃奉仕をいただいており、年十数回に及びます。
三重県遺族会青年部
大宮町遺族会
伊賀町遺族会婦人部
雑巾寄贈(殿内清掃用)
几帳奉納(幣殿調度品)
大野きくの(四日市々城山町)



清掃奉仕

英霊奉斎基金奉納者芳名

(一〇二万円)

一口 多田利雄(龜山市 元野砲兵第二十六聯隊) / 辻勝征(松阪市) / 新守名(津市) / 西村光三(志摩) / 吉田ふみ(伊勢市) / 田中修(志摩) / 元一五(聯隊中部) / 三十八部隊 / 諸戸政義(桑名郡) / 元大津校(九期十六中隊) / 佐脇昭信(四日市市)

御造営献金奉納者芳名
一、金金参万円 羽後 義忠(名張市長瀬町)
一、金式拾万円 堀 志行(名張市長瀬町)

慰霊祭斎行の予定

四月五日 午前十時半
雄飛会慰霊祭
堀祐一 津市垂水二六七〇の一〇〇
四月六日 午後二時
元歩兵第三十三聯隊第一機関銃中隊慰霊祭
鈴木力男 津市栗真町屋町四三〇
四月十二日 午前十一時
元歩兵第一五一聯隊戦死者慰霊祭
高瀬貞一 津市栄町三丁目六九
四月十三日 午後一時
凶南会慰霊祭
山本常弘 四日市々八千代台二丁目一の五六
四月十九日 午前十一時
元歩兵第一三三聯隊戦死者慰霊祭
前田隆治 阿見町鶴方一六六五の一
五月十日 午後一時
階行会慰霊祭
小林敬直 津市大字藤方字茨子一六三
三二三重ヨコハマタイヤ販売株式会社内

人事異動
就任 巫女 阪井志乃夫 三月十四日付
巫女 竹内 久枝 三月十四日付

編集後記
梅の香ただよう今日この頃、御遺族崇敬者の皆様には御健勝の事と存じます。
家庭内の暴力、学校内の暴力と教育の荒廢が世上大きな問題となっており、一つには私達日本人が祖先から受け継がれてきた伝統の欠如からくるのではないかと考えられます。
明治天皇の大御心による「教育勅語」には「徳器成就」―受験戦争をのりきり、いい点をとるためのだけの教育でなく、立派な徳の高い人格を形成する教育―が述べられています。
祖先をうやまい、御英霊に感謝申し上げる日本人の心遣いを、御遺族に伝えたい。

おもな内容案内

「遺族の願い」……………二頁
浜地 文平
県政国政に長期に亘り尽力された氏が、一遺族としての立場から寄稿
万灯みたま祭のご案内……………二頁
三日間の祭典及び神賑行事のご案内

これからの主な祭典
七月二十三日、二十五日 万灯みたま祭
皆様の衷心からのご献灯は年々増加の一途で、今年は五千灯を超えるものと思われ、夏の夜の一時、ご近所お誘い合せ御参拝下さい。尚期間中昇殿参拝(早朝より午後三時まで)の方には記念の「万灯うちわ」を呈呈
七月二十五日 式年みたま祭
みたま祭の中日に斎行されます式年祭には本年該当祭神八百五十柱を、例祭に次ぐ重儀をもって特に慰霊申し上げます。
おことわり
従来万灯みたま祭にご献灯されました方々には、祭典及び行事の御案内葉書を差し上げておりましたが、甚だ勝手ながら都合により本年より中止させていただきます。御了承願ひ申し上げます。参列証は従来通りお届けします。
八月十五日 終戦記念祭

県下の慰霊社・忠魂碑
招魂碑 久居市稲葉町 四六二番地 宮司 岡 昊
稲葉神社境内 宮司 岡 昊
慰霊柱数 日露戦争戦歿英霊二柱
祭典日 十月十日
御創立 明治四十年四月
碑文(表) 招魂碑(他戦歿英霊二柱の位階級勲等、御名、戦歿年月及戦歿地を記す)
(裏) 明治三十七八年戦役陸軍者、(以下三十三名の位階級勲等、氏名及び発起人氏名を記す)

忠魂碑 久居市稲葉町 四六二番地 宮司 岡 昊
稲葉神社境内 宮司 岡 昊
慰霊柱数 四十六柱
祭典日 十月十日
御創立 昭和二十八年十月
碑文(表) 忠魂碑 三重県知事 青木理書
(裏) 戦歿者芳名
日支事変(以下英霊名五柱)
大東亜戦役(以下英霊名四十一柱)
御由緒 稲葉村民一同の願いに依り、日支事変及び大東亜戦争に於て戦歿せられた戦歿者遺家族の為、稲葉村々々議員全員の決議をもつて全費村費により建立す。以来毎年十月十日に戦歿者慰霊祭を執行している。

招魂碑 自然石前面研磨 (碑高1.7m、全高3.0m)
忠魂碑 石碑 (碑高2.5m、全高3.5m)

遺族の願い

浜地文平



大東亜戦には私の長男も召集されてインパール作戦に従軍し、戦況不利になって後退する途中、敵弾に股を貫通され其の場で自決、屍を印度の奥にさらしたのであった。戦争勃発当時、召集をうけて出征する時は萬歳歡呼の声に見送られて景気よく家を立ち出たものであったが、戦況はだんだん吾方に不利となり、敗戦の色濃くなるにつれて人々も物資の欠乏などで戦死者のこともかかわっている余裕も無くなって、出征兵士に対しては冷たくなっていった。私は長男の遺骨だというて白い布で包んだ小さな箱を県庁から渡され、それを頭にかけて家に帰る途中、ヤミ市で人だかりの中を通ったのであるが、もうこのころには戦没者の遺骨とわかっていても一瞥をくれる程度で冷淡な姿勢である。つまらぬ戦争に行つて大死にしたら男の遺骨などと思つて見過しているのかとおもつて、哀しくおもつたことである。家へついてから二、三日して市役所から仏壇へ提灯一つと、けて

呉れただけであった。遺族としては別に戦死者の家庭へ対して、國家に特別な待遇を要求するなどはほめたことでないが、私は今遺族扶助料として毎月八万円を國からいただいでいて家計は助かっている。ありがたいとおもふ。

併しここに吾等の最も解し得ぬことは戦後四十年近くにもなつた今日、まだ戦没者英霊を祀る靖國神社に総理大臣が参拝するを憲法違反とか何とか屁理屈を言つて反対する國民もあることである。一体どこをたいてこんな理屈は出るのであるのか、私はこれに對して反論もしたくない。彼の人たちも同じ國民である。愛し親しむべき同胞である。いつかは正常な國民思想に立ちかえつてくれるであろう。それを念じて今は戦死者遺族だけでも心を合せ、しっかりと手をつないで英霊を守り抜こうではあるまいか。

私は神様は吾等の味方であることを信じている。戦没諸兄の御霊は燦然として國中に輝くは近き将来に必ず出現するであろうことを信じて疑はないのである。

△浜地文平氏略歴▽大正11年度会郡吉津村長、大正12年三重県議會議員當選、以来在任14年間、昭和12年衆議院議員當選、以下當選7回、昭和36年9月学校法人皇學館大理事、昭和42年8月同副理事長、昭和55年6月同理事長(伊勢年鑑抜粋)

祭事

春季例祭 四月二十一日・二十二日
二日間に亘り約七千名の御遺族が参列され、田川亮三大祭委員長のもと、県下各市町村長を始め各界の代表の列席を得盛大裡に肅行された。尚、祭典は県神社庁を始め各郡市の代表神職の方々の御奉仕をいただいた。

合祀祭 三月二十二日
新祭神を招魂合祀申し上げる合祀祭が、午後六時より厳肅莊重に肅行された。県内若手神職の神道青年会員の奉仕を得、十四柱の御英霊は参列御遺族の見守る淨壇の中を、宮司により御神殿の奥深くお鎮りいただいた。

録

永代神楽講入講者芳名

自昭和五十六年二月二十三日
至昭和五十六年五月三十一日

桑名市 丹羽紀良/平野すま 四日市市 小井克一/森良/伊藤勘一/伊藤ちよ/吉原ハマエ/渡辺つるる/林ひと/森田千代子/山本きぬる/堀田まさる/森川きぬへ/鈴鹿市 杉本春恵/松山九十郎/市村シズエ/山原勲 北條平八郎/真弓政一 龜山市 国分きぬる 葛西せつ/加藤たつる/加藤正弘 津市 田島公子/北山志郎/秋田匡策 松阪市 村田まつ/中井まさ/丸山さか/松田光三郎 伊勢市 中川ふさ/中沢さい/佐波平幸/西世古喜美江 鳥羽市 青木照子/木場寿美恵 上野市 長井すみ/池永陽 名張市 井上みつる/葉山登喜枝/岡中ふみ 尾鷲市 川上作太郎/世古武夫 員弁郡 広田とみへ 稲見まさ 三重郡 福田八重子/中川知哉 安芸郡 吉川きよ 一志郡 長岡貞子/中山ハマ/松本良平 多氣郡 上岡りせ/田中利明/西村しな 度会郡 山本次助/藤下富子 志摩郡 天白まさ 阿山郡 田中きみ 中静子 (県外)京都市 口羽章子 大阪市 飯柴ハギ 海部郡 船戸鐘一(順不同敬称略)

戦後すでに三十有余年がすぎ、御老翁の御遺族様には御参拝も思うにまかせぬ事も多からうとお察し申し上げる次第であります。御参列の有無にかかわらず、神楽を奉奏しての特別の祭典を肅行し御神慮をお慰める永代神楽講に、未入講の御遺族様には三十七年の由をもって篤志御入講下さるよう御案内致します。尚永代神楽祭は次の通りです。

案内 往復乗書でご案内します。御祭神縁りの方は多数で参列下さい。不参列の場合も慰霊の祭典は奉仕し、その旨後日ご連絡します。祭典 午前十一時より左記次第により肅行、修祓・一拝・献饗・御祭神御名奉誦・祝詞・神楽奉納・玉串拝礼・撤饗・一拝・高主挨拶直会(別室にて昼食を用意致しております)

永代献灯者芳名

自昭和五十五年七月二十三日
至昭和五十六年五月三十一日

桑名市 滝川トノエ/伊藤ふさ/井後ち江子 水谷みさ/水谷みゆき/水谷せつ子/伊藤太平/後藤さみ/堀田美智/加藤せつ子/水谷こはる/安田はま子/安田兵三郎/和藤むつ 四日市市 池田ますへ/南川はつる/川村まつ/西井健二/森善清/今村たき/水谷政治郎/伊藤美次/鈴木清太郎/服部なつる/今村浩子/川北たづ/稲垣充/北川一視/後藤よしへ/国安院重信/成田可津子/伴ゆり 森やすき 鈴鹿市 浜口アイ/堀江しのぶ/小出ふみ子/早川み津/大塚こや/保科とへ/馬場きく/山中しず子/北川さかへ/小河きりの/福本マツ/結城よし系/樋口美代子/坂倉国夫/坂倉つるの/北川安子 龜山市 吉田きぬ江/岸保/加藤たつる/加藤正弘 津市 伊藤とめ/和仁イト/山川正嗣 北山志郎/安田いし/東みつへ/前田文子/河辺千代子/坂越みすむ/斎藤幸男/近藤ヤスエ/木下勲/藤井ミヨ/伊藤キミエ/大橋和枝/青木すず/保田タツエ 松阪市 萩田和郎/加藤美代子/塚本重夫/松島こう子 岡なみ/中村と志子/中村政次郎/北村くに伊勢市 杉山朝治/田中清作/伊藤重/西川キミ/福田一郎/越川晴/中西なか/荒木留藏/野田わき/右京うめ/小川タマ/小川はつ子/山口きよへ/北森数子/上西ふじ系/上浦孝 尾鷲市 竹本友恵 桑名郡 加藤義雄 上田ます/丹羽清一/矢田タイ 員弁郡 藤田敦子/山下武一/服部てふ/森嶋浅吉/三輪せきえ/伊藤津や/外川五郎/鈴木アキエ 谷口アキノ/葛山てる枝/葛山つた系/井後

万の灯をもってみたまを慰め
護國の神様に平和を感謝し
幸福と繁栄を祈念しましょう

万灯みたま祭

七月二十三日・二十四日・二十五日

式年みたま祭

七月二十四日 午前十時

「式年みたま祭」 二十四日午前十時より、大祭式をもって式年該祭神の十年毎の祭典を肅行致します。

「万灯みたま祭」 二十三日・二十五日の両日、早朝より午後三時まで随時昇殿参拝をしていただきます。尚昇殿参拝の御遺族には、「万灯うちわ」を差し上げます。

「点灯式」 二十三日夕刻、御神前に献灯の奉告の後、境内いっばいに掲げられた提灯行列約五千余灯を修祓し、午後七時に協賛会長の手により一斉に火を点じます。

行事
二十三日 子供みこし 午後五時半
子供献書画表彰式 午後六時
二十四日 詩吟奉納 午後五時
のどじまん大会 午後六時
神事芸能奉納 午後七時
盆踊り大会(三日間)午後七時半
(行事内容は変更することもあります)



今年も夏のみたままつり「万灯みたま祭」を賑々しく肅行すべく準備を進めております。かつての困難に際し、家族と郷土と國家とを護らんとし、御楯となって命までも捧げ尽された護國の御英霊にお一人一灯のみあかしをおあげ下さい。

百人であれば百灯、千人であれば千灯、万人であれば万灯、万の灯をもって神の庭を明るく照らし、護國の神様と共に心和やかに、心安らかに、心楽しく一夜をお過ごし下さい。

「あんどん」の奉納(子供献書画)

絵や習字をかい
神さまに奉納しましょう

題(絵) 「花」を題材にしたもの
(習字) 低学年「みあかし」
高学年「献灯」又は「献燈」

応募資格 小学校児童、中学校高等学校生徒
応募要項 神社に用意してあります
及び用紙 (郵送希望は六〇円切手添付の事)
展示期間 万灯みたま祭期間中
締切 七月十日までに到着の事
賞 参加賞の他、優秀なものには賞状
賞品が贈られます

表 影 七月二十三日午後六時より
※子供献灯は毎年行なわれま。来年度の題はみたま祭期間中に発表します。今年応募出来なかつた人も是非応募献灯してください。

昨年奉納された
「あんどん」
書と絵

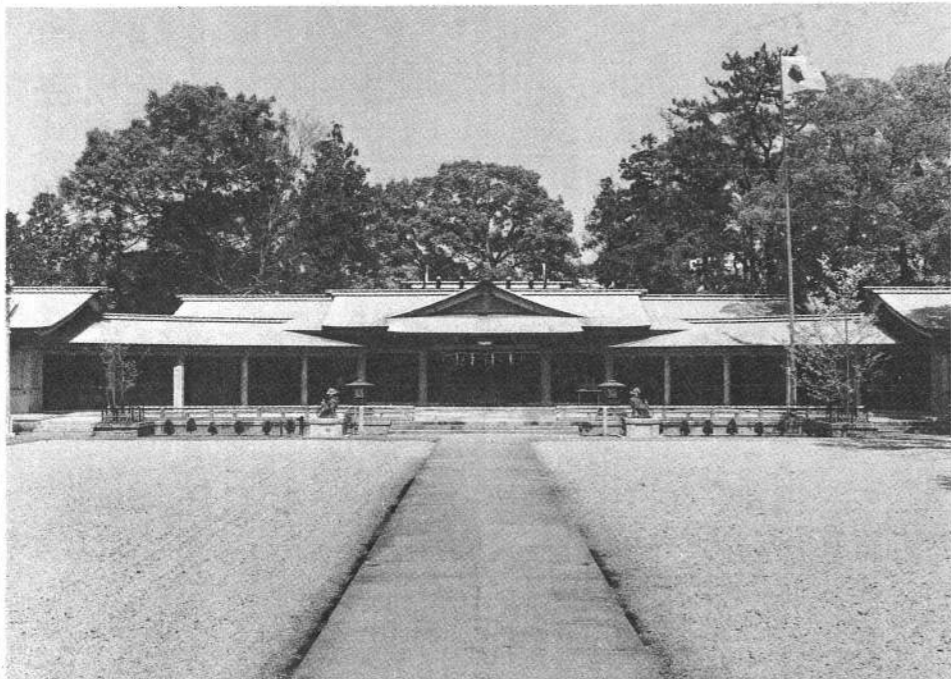


献灯について特別にお願い

皆様より寄せられました本年度献灯につきましては、六月二十日現在に於てほぼ配線電灯数に達しておりますので、万灯みたま祭の期間中「七月二十三日」二十五日」に申込まれた場合は提灯を掲げる余裕がなく、献灯出来ない事もありますので予め御了承下さい。尚配線工事中(七月十五日頃まで)に増加の献灯分がわかれば追加配線を致しますので早めに献灯申込み下さるよう切にお願い致します。

御造営を推進

御社殿修復・参集所社務所新築



昭和56年10月1日発行
発行所 三重護国神社
津市広明町387
☎(0592)262559
〒514
発行責任者
宇治土公貞幹

御造営事業計画

社殿修復
御本殿、祝詞殿、拝殿、翼廊等の修復
参集所社務所新築並に諸施設の移築
参集所、社務所の新築並に諸施設の一部移築

境内整備
玉垣、参道等の修復整備、境内整備等尊厳護持を計る
本事業完成の上で奉拝回廊の建設と御神徳発揚教化事業をも進めたいと存じます。

事業予算 二億円

(内訳)

- 社殿修復費 九、〇〇〇、〇〇〇円
- 参集所社務所新築並に諸施設の移築費 二一、〇〇〇、〇〇〇円
- 境内整備費 一一五、〇〇〇、〇〇〇円
- 事務費及諸経費 九、〇〇〇、〇〇〇円
- 予備費 二八、〇〇〇、〇〇〇円
- 尚用地購入三七、〇〇〇、〇〇〇円はすでに終了しており、総経費は二億三千七百万円となります。

御造営期日 昭和五十七年春着工

おもな内容案内

- 「御造営が始まります」……………二頁
- 「八〇年代の果敢」……………三頁
- 「三重県知事 田川 亮二」……………一頁
- 「御造営事業について」……………四頁
- 「御造営事業概要説明」……………四頁
- 「みたま祭斎行さる」……………五頁
- 「終戦の日英霊感謝祭」……………五頁
- 「永代神楽講入講者・永代献灯者芳名」……………六頁
- 「二厚意・各種献金奉納者芳名」……………六頁
- 「慰霊祭斎行の予定」……………六頁
- 「(県下の慰霊社・忠魂碑)は休みます」……………六頁

主な慰霊祭

四月 雄飛会慰霊祭 四〇名
第三三聯隊第一機関銃中隊 四二名
戦死者慰霊祭 三八〇名
第五一聯隊戦死者慰霊祭 六二名
関南会慰霊祭 一、〇〇〇名
第一三三聯隊戦死者慰霊祭 一、〇〇〇名
倍行会慰霊祭 三七名

五月 第133聯隊戦死者慰霊祭
第51聯隊戦死者慰霊祭

献詠

「句」
新年の御慶めでたし神も賀す
八十路こし今年も健やか初詣
初春や七たびめぐり己が年
亀山市 中根 完(八十四才)

「歌」
宮の森ラバウル小唄こだませよ
南方のみたまやすかれ伊勢路にて
山六 松阪市 松田三郎

追浜に育ちたる若鷺は羽ばたきて
比島のほとり水に入りけり
短かき縁影清えて
尋ねるに由なし星の降る夜
亀山市 小林 寛(七十三才)

御造営献金奉納者芳名
一、金五万円 仲 ゆき殿(津市乙部)

主な団体参拝

三月 島ヶ原遺族会婦人部
岳風会
鈴鹿市遺族会
志摩市遺族会
伊勢市遺族会婦人部
名張市遺族会婦人部
松阪市飯南郡多気郡遺族会婦人部
上野市遺族会花の木分会婦人部
大宮町遺族会
島ヶ原遺族会青年部
志摩町遺族会婦人部
大王町遺族会(波切地区・名田地区)
四日市市遺族会(共同地区)
北勢四地区遺族会婦人部
三八ビルマ会
美杉村遺族会(下之川地区)
多賀大社多賀講

英霊奉斎基金奉納者芳名 (二〇二万円)

一口 谷口美代(貞部) / 大塚すて(富田) / 七里高栄(津原) / 中川虎次(青柳) / 平野よし(松阪市) / 市川行男(鈴鹿市) / 中田征治(熊野市) / 元歩兵第五十一聯隊 島影や糸子(吉原市) / 中村正道(北牟婁郡) / 元歩兵第五十一聯隊 八中隊 / 西尾亦八(阿部) / 原田惣七(鈴鹿市) / 元歩兵第三三聯隊 土中隊 / 尾本喜三(雄山口) / 元歩兵第五十一聯隊 藤原三郎 / 坂巻良男(津原) / 元歩兵第五十一聯隊 軍医 / 渡辺義則(亀山市) / 末富栄治(山田) / 百々久一(富田) / 元歩兵第五十一聯隊

樹木の移植奉仕

境内整備
大宮町遺族会
境内樹木の移植等御垣内の整備を御奉仕いただいた。
献木並植樹 (榊・樟・山茶花・柘植)
玉城町遺族会青年部
藤原整備
三重県遺族会青年部

旅館・ホテル案内

万灯みたま祭期間中(七月二十三日〜二十五日)の遺族会館の宿泊は満室の状況です。で神社附近の宿泊施設を紹介いたします。いずれも直接電話にて予約して下さい。

松屋旅館 六千円 食事含む 神社より三分
(税・サ込) (〒515-0402)

グリーン 四、三千元 食事別 神社より七分
ホテル (税・サ込) (食堂有) (〒515-0702)

ホテル (税・サ込) 食事別 神社より三分
ホテル (税・サ込) (食堂有) (〒515-0702)

慰霊祭斎行の予定

八月二十九日・午後一時
元西宮海軍航空隊戦死者慰霊祭
米山典男 多気町相可一七三番地

人事異動

就任 実習生 江原不可止 四月五日付

三重護国神社奉納新能

三重護国神社境内特設能舞台
昭和56年10月2日(金)
午後5時30分(雨天順延)

主催 喜多流長袖会
能組(予定)
能 「巴」 長田 曉
能 「黒塚」 大島久見
その他 狂言・仕舞 (伝説的能文)

編集後記 社報編集を終えてホッと一息、しかしこれが大変、いよ／＼夏の祭典「万灯みたま祭」の本格的な準備に入る。境内の緑を守る事も我々の仕事であるが、何分にも経験不足。各方面からの御奉仕に大いに助かっている。神社周辺も最近ビルが建ち並び、神社の社をより一層大切に思う。社務所より眺める新緑が美しい。小林記

御造営事業概要

(一)御社殿修復工事
 本殿 木造神明造銅板葺 六、五〇坪
 神宮(内宮)東宝殿を頂戴し建設されたもの
 ◎雨漏り箇所を始め御屋根の修理
 棟、金具等の脱落、主要部の補修
 塗装部の塗装、大戸の補修あつく洗い
 瑞垣東西御門の修理
 瑞垣
 ◎雨漏り箇所を始め屋根の修理
 壁面、柱等のひび割れの補修
 金具等の脱落、錆とり等の補修
 塗装部の塗装、大戸の補修あつく洗い
 瑞垣東西御門の修理
 紋帳、壁代、御簾等の新調
 ◎御神座等の調整
 御神座の修理
 ◎御神座の調整及び一部補修修理
 儀式殿及び木造和室の移築
 儀式殿 木造瓦葺 五二、一二坪
 神宮の五丈殿を頂戴し建設されたもの
 ◎参集所社務所の新築用地の確保と一貫した
 建物配置の上から北側へ移転し、基礎部を
 高くし床下の湿気を考慮する。
 和室、木造平家建瓦葺 二〇、五〇坪
 貞明皇后様が溲齋所として使用された由緒
 ある建物である。
 ◎儀式殿と同じく北側へ移築し、同じく基礎
 部を高くし保存に留意する。
 ◎参集所社務所の新築
 ◎現建物面積分約二〇〇坪は確保した建物で

鉄筋コンクリート製の境内景観に合う外観

の建物とした
 ◎参集室、参拝控室あるいは直会場として、
 遺族会戦友会等の集会場に、また大祭みた
 ま祭等にも有効に利用出来るよう配慮する
 附属施設としては厨房、配膳準備室、
 ◎参拝控室 日々の参拝の控室、御遺族様
 はご自分のお家の延長としてゆつくりと
 くつろいでいただけるよう和室を考慮、
 附属施設は湯茶室、
 ◎社務所、参拝の受付、社務全般の執務室と
 して機能的な配置とする。附属施設は印刷
 室・書庫・図書室・直室・応接室・湯茶室・台
 所・他
 ◎斎館施設 慰霊大祭には神社職員、奉仕神
 職、世話人等約四〇名が二夜宿泊参籠する
 のでその参籠室、溲齋所、参籠食を調理す



▼移築予定の和室1棟



▲移築予定の儀式殿

永代神楽講入講者芳名

自昭和五十六年六月一日
 至昭和五十六年八月三十一日
 桑名市 山本さだ/伊藤貴代/近藤伝二/佐藤弘/平野政雄/中村しず子 四日市市 吉原本す江/伊藤淑子/山本幸雄/森島竹雄/矢田助一 鈴鹿市 浅川みづ子/城勝三 亀山市 中島いちへ/山口きを/豊田忠市 津市 三谷アイ子/鎌田三栄子/石崎房子 松阪市 竹内正一/小島美代/大浦ヒサ 伊勢市 寺井てう/浜地文平 鳥羽市 大山とく 上野市 徳田千代/福沢実/沖島ことら/宮本文子/中西かず美/山中つや子/山中おきん/山中政次郎 名張市 山岡義一 尾鷲市 北村志げ/大川はるの/竹本友恵/浜こわか 員弁郡 川瀬タマノ/出口勝/山本とらを 三重郡 伊藤利/渡辺はるへ 鈴鹿郡 川中敏子/亀田ちか/山中すみ美 名賀郡 田中茂 安芸郡 駒田嘉太郎/飯田美重子 一志郡 辻田こむら/溝口喜代和/小林ふじ子/山岸節蔵/森岡まちる 多気郡 山本七平/北岡みよの (県外) 鎌倉市 山田見之助 新城市 井野秀一 富田林市 柴谷都也子 名古屋市 柳瀬宗平 甲府市 竹口はる子 神戸市 田中孝一 京都市 広出つる尾崎市 浦田こひで (順不同敬称略)

秋から春までの主な祭典(行事)

十月二十一日 秋季慰霊大祭
 二十三日 明治祭
 十一月三日 七五三祭
 十一月十五日 七五三祭
 十二月二十三日 新嘗祭
 十二月三十一日 大祓祭
 除夜祭
 昭和五十七年
 一月一日 歳旦祭
 一月十五日 注連縄焚上
 早朝六時より正午までの間行います。
 二月十一日 紀元祭
 皇紀二千六百四十二年となります。
 二月十四日 合祀祭
 二月十七日 祈年祭
 三月三日 ひなまつり
 二月二十八日(日)にも行います。
 三月二十一日 春分祭
 四月二十一日 春季慰霊大祭
 社名板屋根修理
 昭和五十年の行幸啓に際し境内の整備を行いましたが、その折堀江遺族会副会長の御厚意により神社北側の津駅に面して鉄骨製の社名板をご奉納いただきました。初めて参拝の方々にも神社の所在がよくわかり、特設看板による祭典行事等の案内も喜ばれてまいりました。しかし空気の汚染と落葉のため度々の塗装にもかかわらず屋根部分のいたみが激しく、来社の度毎に心配をされておりました奉納者の堀江様の再度の御厚意により、此度銅板の屋根にふき変えられ修理されたものであります。去る七月十一日神前に奉告参拝の後宮司より感謝状と記念品を贈呈し、感謝の意を表しました。

永代献灯者芳名

自昭和五十六年六月一日
 至昭和五十六年八月三十一日
 桑名市 片岡文雄/山本しげ/松田さわ/小池弘/法山清子/中村しず子 四日市市 落合賢一/近藤源之助/加藤きの/久保はな 鈴鹿市 小林次雄/三井らく/林あさ子/岡正樹/山田こふじ/今岡優雄/名村志つを/名村雨人/森せつ 亀山市 中尾りを/奥岩はるへ 津市 古崎昌子/奥山久子/立松トミ子/藤井治男/山川まさ/山川昇/海野とへ/木平美奈/木平喜広/社本つる/倉田卓次/朝井文子/山本カネ/三松たつる 松阪市 水本たつる/中西きりへ 伊勢市 亀田六次郎/萩原幹也 鳥羽市 河村寅正/大山とく 上野市 亀井ぬい/鳩岡喜一/山口修 名張市 松原富子 桑名郡 道藤良枝 員弁郡 川瀬しづ/片山スエオ/片山むめ/片山とみえ/林正博/林はな江/松宮安男/杉山たま/近藤はな/一木正之 三重郡 広田新太郎/松尾俊男 鈴鹿郡 北澤富男/平子美津 安芸郡 保地光男/小黒宣夫/高山美子/黒宮きよ/倉田きみ美 一志郡 辻用こむら/溝口喜代和/北出光雄 飯南郡 村林ひな/西村つるる/寺谷光雄 度会郡 岡本悦子/堀之内正幸/西村康一 阿山郡 松山美代子/東正昭 (県外) 富田林市 柴谷都也子 横浜市 秋山君子 名古屋市 加藤むめ 春日井市 門幸雄 知多郡 加古早苗 (順不同敬称略)

昭和五十七年度子供献書画募集要項

「野菜・果物などの静物」
 習字 低学年「とりい」
 高学年「敬神」
 神社へ御参拝の折には「申し込みの要項」を、お渡しできる様、用意致します。おおいに参加御応募下さい。



▲飾付けが終り点灯をまつ境内



▲子供みこし

みあかし奉り 万灯みたま祭 はなやかに齋行さる

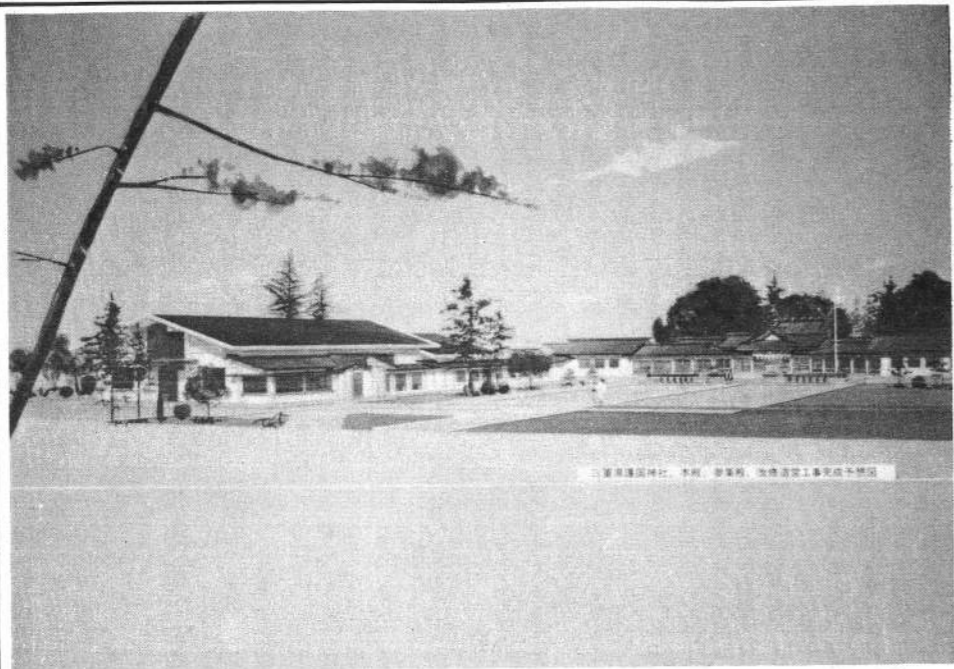


▲子供あんどん表彰 奉納神振芸能八幡獅子

本年度献灯総数 五一〇〇灯
 奉納しようちん 四五〇〇灯
 奉納あんどん 六〇〇灯

終戦の日英霊感謝祭

去る八月十五日、「終戦の日英霊感謝祭」を斎行致しました。これは昨年までは「終戦記念祭」という祭典名で斎行されておりましたが現代の世情を考え、ただ単に終戦を記念し慰霊を申し上げるだけではなく青少年にも解りやすい又本来の意味に合う祭典名に改め御英霊の御神徳を称え御英霊の御加護をたまわり平和への誓いをあらたにするため「終戦の日英霊感謝祭」と致しました。さらに「帰祭典を厳修し御神徳の発揚・顕彰に努力致す所存であります。



御造営完成予想図

御祭神の功績の如く御本殿を造り修め
日々絶ゆることのない参拝者のため緑こき
神苑にふさわしい参集殿が造営される



昭和57年4月1日発行
発行所 三重県護国神社
津市広明町387
(0592) 262559
〒514
発行責任者 宇治土公貞幹

「旅順入城の乃木将軍」の図

参拝の方々が参集所より御拝殿に向われる
時翼廊の入口に大型の絵が一面掲げられて
いる事にお気づきの方は少ないと思ひます。
この絵は「旅順入城の乃木将軍」の図で当神社
が昭和三十一年に御造営なつた折奉納された
ものであります。当時絵筆をとる市長として
有名な元熊野市長小林清栄画伯の手によるも
ので皇紀二千六百年を記念して描かれたと記
されて有ります。永らく行先不明であつた靖
国神社遊就館蔵の同様の絵が最近見つかつり再
び奉納されたという事でありましたが(靖国第
二二三号)御参拝の折御覧下さい。
尚、小林清栄氏は当護国神社のみたま祭の
行灯絵画の揮毫奉納を賜つて有ります。

▼護国神社蔵



▼靖国神社蔵



御厚意

万灯みたま祭準備および御奉仕
一志町高岡神社敬神婦人会
みたま祭協賛会員
国児学園
清掃奉仕
安濃町軍恩会
一志町遺族会婦人部
傷痍軍人家族の会
大王町船越群名地区遺族会
立正佼成会
四日市市四郷地区遺族会婦人部
三重県遺族会婦人部
三重県遺族会婦人部
堀江祥子氏(松阪市・遺族会副会長)

ビデオ用大型テレビ購入

「慰霊大祭」「万灯みたま祭」を始め神社
の年間の祭典行事をビデオテレビに録画し、
都合により御参列出来なかつた御遺族様に御
来社折御覧いただくに有ります。従来のテ
レビは家庭用のため五六人程度の人数しか
見れない状態でしたが、今回最新の大型テレ
ビを購入し二十三人の多くの方に見ていただ
ける事となりました。今後は特に参列の子供
達には御祭神について、神社また祭典につい
て深く認識してもらいたいと思ひますので御
参拝の折是非お申出御覧下さい。



主な慰霊祭

八月 西宮海軍航空隊慰霊祭 五五名
九月 員弁郡慰霊祭 四〇〇名
主な団体参拝
五月 三重軍恩連盟
六月 朝日町井後神社敬神婦人会
安濃町軍恩会
五一会
阿山郡遺族会
安芸郡遺族会
一志町遺族会婦人部
軍恩連盟長島支部
上野市遺族会友生分会
伊賀町郷友会
七月 飯南町粥見神社敬神婦人会
一志町高岡神社敬神婦人会
傷痍軍人家族の会
大王町船越群名地区遺族会
南勢町遺族会
島ヶ原村遺族会
伊賀町遺族会
員弁町遺族会
八月 全国戦歿者追悼式出席者代表
安芸郡遺族会
四日市市四郷地区遺族会婦人部
三重県遺族会婦人部

英霊奉斎基金奉納者芳名

(二〇一〇万円)
一口 生川政雄(四日市市) 木村敬恵(津市)
山下昇三(天王町) 元歩兵第五十一聯隊(柴谷郡) 也子
(富田林市) / 日々野正一(津市) 元歩兵第五十一聯隊(柴谷郡) / 柏木
四郎(大宮町)
御造営献金奉納者芳名
一、金十万円 松本六次郎(伊勢市)
(以上の御献金は今回御造営事業決定
以前に奉納いただいたものです)

おもな内容案内

御造営工事を開始
お礼と報告とお願い……………二頁
遺族会創立三十五周年にあたって……………三頁
遺族会事務局長 谷 嘉昭
御造営事業について……………二頁三頁

これからの主な祭典

四月一日〜三日 就学祈願祭
今年、小学校へ入学する児童を対象に学業
成就の祈願並に交通安全の祈願を致します。
四月二十二日 春季慰霊大祭
四月二十九日 天長祭
六月三十日 大祓式
七月二十三日〜二十五日 万灯みたま祭
お知らせ
三月末より御造営工事着工となりました。
日々の祭典をはじめ春秋の御例祭、諸祭典等
は今までと変わる事なく御案内参拝致します。
境内が一変し御参拝の折には何かとご不便を
おかけしますが御了承下さい。みなさんおそろ
いで御参拝賜ります様御案内致します。

県下の慰霊社・忠魂碑

たいれい
大霊神社 多気郡明和町
大淀乙一七四番地
森 福男
竹大与村神社境内社 宮司 森 福男
大霊神社
木造銅板葺3坪

御祭神 戦歿英霊八〇柱
例祭日 十一月二十三日
御由緒 昭和二十六年九月二十七日
御由緒 終戦後遺族会長の提唱により前宮司
が本庁の承認を受け、創祀された。例祭は遺
族を始め氏子五十余名が参列し参拝される。
日々参列する者は絶えない。尚例祭費等は竹
大与村神社予算計に経上されておられ、管理
運営面で遺族会を始め氏子の協力を得ている。
招魂碑 阿山郡大山田村
平田六九番地
宮司 奥 隆
植木神社境内
慰霊柱数 一八九柱
祭典日 随時
御創立 明治三十二年九月
碑文(表) 招魂碑(碑銘揮毫者官等級氏名
建設委員、発起人の名を記す。)
(裏) (上段に御英霊名を記す)
御由緒 旧山田村住民の発起にて明治三十二
年に建立。其の後大正五年に改築起工、九月
二十四日竣工除幕現在に至る。昭和四十年頃
には碑前に於て神仏交互の慰霊祭を参拝して
いたが現在は公民館にて行なっている。

碑石
魂磨
招研
碑高2.9m、全高3.5m

慰霊祭斎行の予定

十月二十五日 午前十時三十分
三重翔飛会
中村照男(三重郡朝日町小向五七三六
十一月三日 午後一時
津市慰霊祭
社会福祉センター 津市丸之内二七
十一月二十二日午前九時三十分
ラバウル方面会
山端利一(津市大門二五一〇)

御奉仕のお願い

本紙に掲載致しました御造営事業につきま
しては来年春より着工の予定であります。
建設地また資材置き場等の用地にかかる樹木
の移植を、工事着工に先立って移植に適當な
時期である今秋から来春にかけて作業を行
い度く存じます。各団体の方々の衷心よりの御
奉仕をお願い申し上げます。

編集後記

今回の社報は、いよいよ開始の運びとなり
ました御造営の内容を主とし、御造営の趣旨、
事業の内容、概要の説明等を中心に編集し特
集と致しました。
◎工事着工は来春の予定で、春季慰霊大祭の
前後を考慮しております。当然建設に先立って
現在の参集所社務所は取り除かれる事になり
ますが、残された建物に臨時の建物をも設置
して、日々の祭典を始め御時日祭永代神楽祭
また恒例祭典万灯みたま祭慰霊大祭等は今ま
で通り進め、御社頭の御参拝もいよいよ盛
んにしなければならぬと存じます。御参列
の皆様には何かとご不便をおかけ致しますが
御理解の程お願い致します。
◎御造営の事務に関しては現職員に若干の備
人を加えて進めていく予定であります。一般
事務以上の事務量が予想されますが、職員一
同誠心誠意努力致しますので御協力の程願
い致します。
小林記

御造営工事を開始

お礼と報告とお願い

宮司 宇治土公貞幹

御英霊の遺徳の顕彰と神社の祭祀運営について、いつも御高配をいただきありがとうございます。殊に今回の造営事業の推進については格別の御支援を深く感謝致します。

造営の必要性目的につきましては、前号に申し述べたところですが、要は前回の造営から二十五年以上を経過して、御英霊の永遠の奉祀のために百年の大計をもって建設を進めることとす。そのために各方面の御意見を拝聴しながら準備を完了しましたが、当初の予定に比べて内容を随分充実し、変更も致しましたので現状と今後の計画につき説明させていただきます。

工事計画の内、社殿関係に重点を置きまして、御本殿のかさ上げをして御神威を高め、お屋根は一部葺替の苦でしたがやはり全体を葺替えて参ります。前回の銅板は割合薄手のものですが、今度は厚手のしっかりしたものを、より本格的な葺方で完成します。金具を全部新らしく、全体に洗清め塗装も新たに床面の痛みも新らしい石面に替えることとなりました。

由緒深い儀式殿と参籠棟との移築につきましても充分立派なものとし、新築の参籠棟につきましても一層御遺族崇敬者の御参拝に重点を置いて玄閣正面を東面とし、少くともこれまでの参拝受入面積を下まらぬ様、又屋根は社殿の連続にふさわしいものとします。

設計につきましては、神社建築最高の権威である神宮營繕部に当たっていただきました。これについては神宮御当局の特別の御理解をいただき、且極めて奉仕的にお世話になっておりますことを感謝を込めてお知らせしたいと思います。

施工につきましては、申請のありました県内外の一流の建設業者の中から厳選して指名入札を行い、二月末に日本土建株式会社にて決定しました。日本土建は津市の地元で、県下の代表的な会社であり、前回の造営も手がけた近年も神社庁等の施工に当たっており、特に今回価格的にも大へん無理を聞いてもらいました。この決定を喜びましたことより、大分増額をしなければならず、実行予算として

御造営事業について

御造営事業計画の概要及び事業予算の内訳について前号にて詳しくお知らせ致しましたが、その後建設委員の方々を始め、護国神社の将来を熱心にお考えいただく方々の、温かくまた真剣な御意見をお聞かせいただきました。これ等の御意見を何とか実現致すべくたびたび役員会を開いて研究致しましたが、その結果次の様に追加変更致しました。

事業計画

- 社殿修復 現在御本殿の御屋根は拝殿の屋根にかけられる為、御本殿の基礎を五〇センチ程度上げて御屋根が充分荷がえるようにする御本殿を始め現在銅板葺の諸殿舎の屋根を全て葺き変える。
- 瑞垣の屋根を銅板葺にする
- 拝殿内、東西翼廊内の床面の塗り直し
- 拝殿前のコンクリート敷石の部分は石面様の床材で張り替る
- 遺品館施設 現在遺品等は東西翼廊の陳列所に奉置してあるが、今回東翼廊を遺品館として改造し、各御遺品を系統的に奉置し、参列の方々の拝観は幼論青少年教化に努力する事業予算 三億六千万円
- 内訳
 - 祭儀費 一五、〇〇〇、〇〇〇円
 - (祭典費、御神宝費、調度費)
 - 建築費 三〇、〇〇〇、〇〇〇円
 - (社殿修復費、参集殿社務所新築費、雑工事)
 - 境内整備 六、〇〇〇、〇〇〇円
 - 備品費 二、〇〇〇、〇〇〇円
 - 教化費 五、〇〇〇、〇〇〇円
 - (遺品館関係費)
 - 事務費及諸費 一三、〇〇〇、〇〇〇円
 - 子備費 二、〇〇〇、〇〇〇円
 - 尚用地購入三七、〇〇〇、〇〇〇円はすでに終了しており総経費は四億円となります。

祭 事 録

昭和五十六年
○秋季例祭 十月二十一日、二十二日
台風接近の雨にもかかわらず、二日間に亘り約五千名の御遺族が参列され藤田幸英大祭委員長のもと県下各市町村長を始め各界の代表の列席を得盛大裡に斎行された。

○七五三詣 十一月三日、二十三日
県下各地又県外より約七千名が参列して子

供の健康、将来の健やかな成長を祈願して、又一時は参道が人の波で動けなくなるほどの賑いを見せた。

○大祓 十二月三十一日
新年をむかえるにあたり、一年の罪穢をのぞく大祓式で遺族崇敬者三十名の参列を得て厳粛に行なわれ、県下より集められた人形約八千体を大河路に流して終了した。

昭和五十七年
○紀元祭 二月十一日

日本国家二千六百四十二年の誕生をお祝した。先ず榎原神宮巡拝に始まり、神社責任役員、戦友会を始め多数の参列の中斎行された、祭典終了にあたり紀元節の歌を奉唱し、参列者に建国だんごが授与された。

○合祀祭 二月十四日
新祭神を招魂合祀申し上げる合祀祭が斎行された。比度の合祀神は国事困難に殉せられた英霊二十六柱で、参列御遺族の見守る中御本殿奥深くお鎮まりいただいた。

遺族会創立三十五周年にあたって

三重県遺族会事務局長 谷 嘉 昭



護国神社の御造営事業がいよいよ本格的に進められます。社頭のしだれ桜もまたかもし業の無事完工を祈るかの様に春の陽ざしを受けほころびかけております。県民多数のご英霊に対するところが御社に集って居ります。昨今私達はこの機会に戦争は昔のご英霊にと去られる前に改めて平和の尊さのご英霊にこたえる感謝の念を更に広くその輪をひろめなければなりません。時あたかも同じくして本年は三重県遺族会創立三十五周年を迎えます。

戦後のあの混乱の中で県下の戦没遺族の団結により三重県遺族互助連盟として結成され爾来三十五年ご英霊のご遺志を高く掲げてその父母が妻が子が肉親を国に捧げた遺族であるのを誇りとして一家の再建と平和国家の再興に励んでまいりました。その歩んだ県下の遺族はもとより全国の戦後の我が国の精神的支柱となり繁栄への荷った役割は大なるものがあります。又その力は自らを守るためにも護法の創設恩給の復活そして年々その改善を実現し会員一人一人の福祉の増進にも努め一方では婦人部青年部の結成等組織を強化して目的の貫徹に邁進してまいりました。しかしこの永年の願望にもかかわらず靖国神社の国家護持は未だ実現されず公式参拝の実現すら

永代神楽講入講者芳名

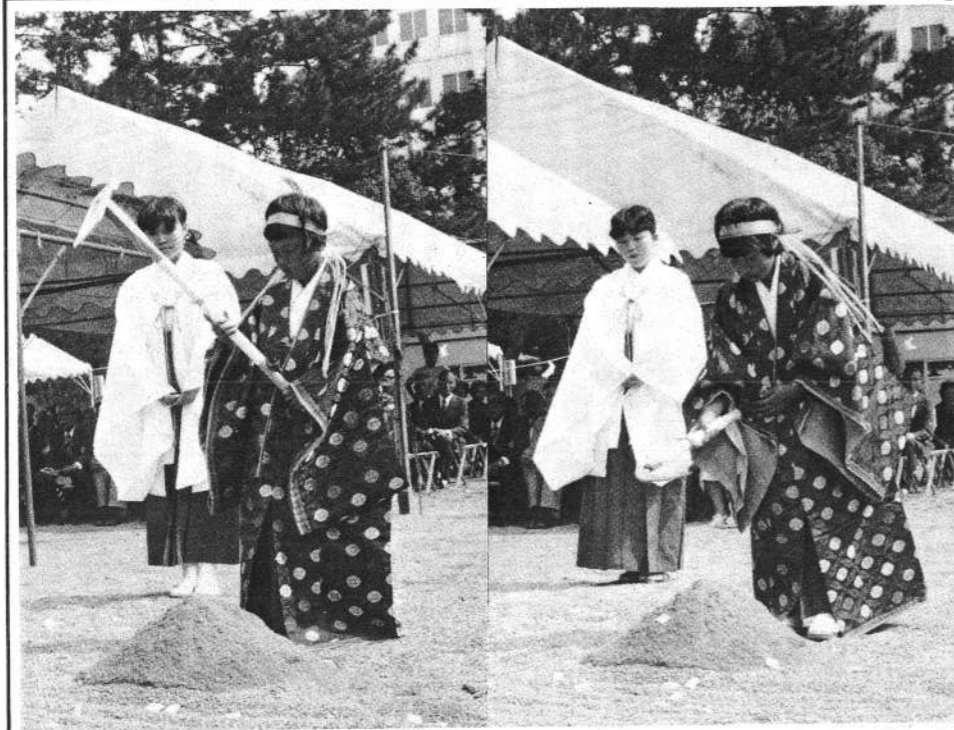
- 自昭和五十六年九月一日
至昭和五十七年二月二十八日
- 桑名市 安藤ちよ子、瀬古志づ子、四日市市 坂本喜一、東山八郎、東山力松、伊藤辻、生川三子、伊藤嘉子、今岡たづね、星野かね、清水一郎、山本やえ子、鈴鹿市 大野すて、青井さか、坂倉ユキエ、松浦あけ子、垣内よ志、田中愛子、伊藤ひさ子、西口はしはし、近藤敬直、亀山市 中原さき、服部みよ津市 乾タキエ、浅沼つとむ、西岡くに、杉山七八九、松阪市 長谷川金次郎、伊勢市 嶋田美津枝、上野市 滝本田鶴、山中おもと、名張市 寺田君子、寺田いえ、三浦ミズエ

永代献灯者芳名

- 自昭和五十六年九月一日
至昭和五十七年二月二十八日
- 尾鷲市 森本ツルエ、榎本惣五郎、桑名郡 鷹野光子、伊藤よし子、三重郡 内田栄、森谷重次、樋口ひろ、安芸郡 山中増男、若林喜男、黒川とみ子、松谷よし、松村こと、中村とく、前川美幸、片岡たみの、松本志志、山岸さし子、一志郡 松島つゆ、高見達、寺下コウ、伊藤栄太郎、眞柄務、飯南郡 大林みつ、度会郡 小倉国治、吉村鶴枝、藤原川、志摩郡 浜村俊三、和田登、山村彦二、濱田ツナ、濱口輝三、山村の、阿山郡 町井熊蔵、名賀郡 長谷川うら、北牟婁郡 泉兼太郎、南牟婁郡 須川タミノ、▲県外▼ 東京都 村島保法、豊田市 伊藤千代、海部郡 藤森しず、富田林市 野田よし江(順不 同敬称略)

経 過

- 昭和56年
- 3月7日 神社役員会に於いて、御造営準備について協議、予備調査にはいる。
 - 6月22日 神社総代会に於いて、御造営事業について協議。
 - 7月11日 県遺族会山本副会長、堀江副会長、谷副会長と御造営に協議。
 - 8月21日 中川英霊にこたえる会会長と御造営事業に協議。
 - 8月26日 県遺族会評議員会に於いて御造営事業に協議、協賛の依頼、全評議員の賛同を得。
 - 9月4日 英霊にこたえる会運営委員会に於いて御造営事業に協議、協賛の依頼、全委員の賛同を得。
 - 9月7日 御造営事業に於いての神社役員会開催、県遺族会役員、評議員並びに英霊にこたえる会運営委員の諸氏に建設委員として協力、協賛いただく事を決定。
 - 9月19日 献金依頼始まる。
 - 10月3日 田村遺族会会長に経過報告並に今後の進め方について相談。
 - 10月5日 境内測量及び地質調査の開始。
 - 12月10日 建設委員会開催についての打合せ
 - 12月19日 第一回建設委員会開催、事業内容等について協議。
- 昭和57年
- 2月1日 御造営事業に関する神社役員会開催、設計、予算、建設指名業者等協議。
 - 2月20日 入札指名業者への現場説明。
 - 2月27日 入札。建設業者は、日本土建株式会社に決定。
 - 3月8日 県遺族会評議員会に於いて、事業内容について経過説明。
 - 3月15日 県遺族会評議員会に於いて、事業内容について経過説明。
 - 3月19日 起工奉告祭。



地鎮祭穿初の儀

地鎮祭初初の儀



昭和57年7月1日発行
発行所
三重県護国神社
津市広明町387
(0592)2559
〒514
発行責任者
宇治土公貞幹

主な慰霊祭

- 十月 安芸郡遺族会慰霊祭 一〇〇名
 - 翔飛会慰霊祭 四五名
 - 十一月 津市遺族会慰霊祭 二〇〇名
 - 三重ラパウル方面会慰霊祭 三二名
 - 南集星会慰霊祭 五六名
 - 一月 各航会慰霊祭 一三名
 - 元一三三聯隊十中隊慰霊祭 四七名
 - 徴工会慰霊祭 五〇名
- ### 主な団体参拝
- 十月 三重県遺族会青年部
 - 大宮町遺族会
 - 磯部町遺族会
 - 三重県遺族会父母の会
 - 鳥羽市遺族会婦人部
 - 南牟婁郡遺族会
 - 十一月 三重県遺族会沖繩戦跡巡拝団
 - 五一会
 - 高ヶ原村遺族会青年部
 - 阿山郡遺族会青年部
 - 三重ラパウル方面会
 - 三重県遺族会婦人部旅行団
 - 十二月 阿山郡遺族会
 - 四日市市遺族会水沢地区青年部
 - 軍恩連頭馬羽支部
 - 五一会
 - 津市橋本地区社会福祉協議会
 - 三重近鉄タクシー津営業所
 - 三重県遺族会
 - 百五銀行津駅前支店
 - 東洋信託銀行津支店
 - 日本旅行津営業所
 - 池田組
 - 近畿日本鉄道江戸橋保線区
 - 笹村測量設計株式会社
 - 市川測量社
 - 第三相互銀行津支店
 - 第三相互銀行津西支店

桑名市遺族会

- 全日本自動車販売労働組合
 - 中部支部三重日産自動車支部
 - 三重ハイム株式会社
 - ボーイスカウト津第七団クラブ隊
 - 中部管区警察局長三重県通信部
 - 津市遺族会
 - 大和ハウス工業株式会社
 - 大川学園剣道部
 - 五一会ビルマ戦跡慰霊巡拝団
 - 清水建設株式会社
 - 三重県遺族会青年部
 - 三重県遺族会
 - 上野市遺族会第一分会
 - 安芸郡遺族会
 - 北勢町遺族会
 - 三重県神社スカウト協議会
 - 五一会ビルマ戦跡慰霊巡拝団
 - 三重県遺族会青年部サイパン慰霊団
 - 三月 桑名市遺族会
 - 名張市遺族会青年部
 - 岳風会
 - 三重県遺族会青年部
 - 志摩郡遺族会
- ### 靖国神社 献詠歌募集要綱
- 御創立記念日祭 靖国神社の御創立記念日祭には全国から献詠を募集し、神前に供え預選歌は当日披露の式を致しております。本年も左の要綱により募集されます。靖国神社の献詠として御祭神奉慰にふさわしい歌をお寄せ下さい
- 一 兼題「光」
- 一 献詠要綱 一人一首として所定の書式により歌、住所氏名を記す(押印不要)
- 一 受付締切 自一月十五日、至四月二十日
- 一 献詠送付先並問合せ先(詳細資料請求先)
- 東京都千代田区九段北三丁目一番一号
靖国神社社務所 弘報課(電話三三三六)

慰霊祭斎行の予定

- 四月十一日 正午
 - 元歩兵第五一聯隊戦死者慰霊祭
 - 高瀬貞一 津市栄町三丁目六九
 - 五月二十二日 午後二時三十分
 - 綿友会慰霊祭
 - 内田辰生 津市西丸之内三二
- ### 御厚意
- 清掃奉仕 鳥羽市遺族会婦人部 三四名
 - 伊賀町遺族会婦人部 四六名
 - 境内整備 大宮町遺族会青年部 八名
 - 三重県遺族会青年部 二七名
 - 御造営準備作業 名張市遺族会青年部 二二名
 - 三重県遺族会青年部 二五名
- 御造営工事について、特に六月六日に斎行された御造営工事地鎮祭の写真を多数掲載。又各界の絶大な御奉賛を賜り御造営献金も相当な額を奉納いただきました。取りあえず中間の御報告を致します
- 御造営事業について.....二頁
- 三月十九日以降の経過について、特に六月六日に斎行された御造営工事地鎮祭の写真を多数掲載。又各界の絶大な御奉賛を賜り御造営献金も相当な額を奉納いただきました。取りあえず中間の御報告を致します

女子職員(巫女)募集

女子職員(巫女)を左記により募集致します

- 一 募集人員 一名
- 一 資格 二十歳までの未婚女性
- 一 応募 履歴書、写真を神社宛へ送付下さい。面接日時を折り返し通知します。詳しくは社務所まで問い合わせ下さい

人事異動

退任 権柄宜 尾間時弘 三月八日 付
就任 出仕 江原不可止 三月十四日 付
出仕 青柳 智 三月二十日 付

編集後記

◎社報の編集、例祭の準備に加えて御造営事業の、献金のお願いに各関係への出向、建設業者との打合せ、樹木の移植、引越し荷造り等々、職員全員多忙の毎日を送っております

◎四月一日より現建物の取壊しが始まります。永年住み馴れただけに愛着もあり、いよいよ取壊されることやはり淋しいものです。

◎万灯まつりも例年どうり斎行し、献灯も境内いっぱい上げたいと存じます

今号に献灯申込書はさみ込みました。御献灯の程お願い致します。



3月14日三重県遺族会青年部奉仕

おもな内容案内

これからの主な祭典

- 七月二十三日〜二十五日 万灯まつり
- 七月二十四日 式年みたま祭
- 八月十五日 終戦の日英霊感謝祭
- 九月二十三日 秋分祭

おこしわり

御造営工事のため、万灯まつり祭の昇殿参拝は東西翼殿が控室休憩室となります。なにかとご不便をおかけしますが御家族おそろいで御参拝賜ります様御案内致します。

英霊顕彰殿

安芸郡美里村 北長野二二九番地
長野神社境内社 宮司 馬杉 宗伸
御祭神 御英霊百二十柱を祀る
御創祀 昭和三十年八月十五日
例祭日 八月十五日

御由緒 昭和二十五年境内英霊社の構想を馬杉シゲノが提案し、当時の安芸郡長野村議会で検討され小学校落成後同校の建築関係者によって設計施工がなされた。地ならし石垣

英霊顕彰殿 神明造
本殿 0.3坪
拝殿 15坪

忠霊塔

多気郡宮川村 江馬六三二番地
荻原神社境内 宮司 西村 善郎
慰霊柱数 二三四柱
祭典日 四月三日
御創立 昭和二十九年二月八日(再建)
碑文(表) 忠霊塔

御由緒 荻原在郷軍人会分会長及び、荻原村長の両氏より忠霊塔建設の提唱があり、村費並寄附金により昭和十二年九月一日に建設された。終戦後警察からの指示により取り壊されるが、後に再建することとなり現在地に以前の塔をつかい荻原消防団の奉仕により建設された。第一回慰霊祭を昭和二十九年四月三日に執行し、その後毎年四月三日に荻原神社春季大祭当日慰霊祭を執行している。

忠霊塔 塔石 2.4m
塔大理 2.4m
柱 2.8m
忠角 (全高)

御造営事業の経過

- 3月20日 仮事務所建設、引越始まる
- 3月23日 儀式殿仮遷座祭行
- 3月26日 引越完了
- 4月1日 社務所解体工事始まる
- 4月10日 儀式殿参籠棟建築確認申請許可
- 4月26日 社務所玄関を四日市洲崎浜宮神明神社(前林宮司本務神社)に移設
- 5月6日 儀式殿移設地に移動完了
- 5月15日 参籠棟移設地に移動完了
- 6月2日 神社総代会開催、御造営事業報告
- 6月3日 参籠棟社務所建築確認申請許可
- 6月6日 御造営工事地鎮祭祭行建設委員会を、始め来賓建築関係者一七〇名参列
- 6月14日 基礎杭打始まる

各界より多大の御献金にあづかりました事を厚く御礼申し上げます。六月十一日現在に於ける現況を別表により報告致します。尚一層の御協賛を賜ります様お願い申し上げます



地鎮祭に先立ち御神前にて拝礼

地鎮祭場に向う

敷地を祓う
▼鳴弦式



鎮物埋納



▲地鎮祭場

地鎮祭初日の儀奉仕童女 井村友美 井村専二郎命(昭和十九年十月二十四日ビルマにて戦歿)の孫にあたる地鎮祭穿初日の儀奉仕童女 仲 由貴 仲悦二郎命(昭和二十年七月十日フイリッピンにて戦歿)の孫にあたる



▲基礎杭打ち

▲参籠棟移動
▲儀式殿移動

御造営総予算額	400,000,000円	
現在総収入額	314,090,559円	(昭和57年6月11日現在)
内 訳		
名称	金額	件数
三重県遺族会	193,876,800円	34,198件
県外御遺族	1,172,500円	91件
県内神社神職	4,870,000円	412件
戦友会	33,345,120円	16,358件
(戦友会明細)		
三重県軍恩連盟	16,706,620円	12,676件
三重県傷痍軍人会	3,863,000円	1,785件
133会	5,892,500円	734件
51会	3,374,000円	406件
三八ビルマ会	1,276,000円	25件
三重県郷友連盟	1,337,000円	530件
三重県隊友会	182,000円	58件
三重県偕行会	273,000円	69件
明野忠魂塔顕彰会	180,000円	45件
三重翔飛会、ラパウル方面会、沖縄友之会、海交会		
雄飛会、歩33会、南集星会	261,000円	30件
崇敬者	15,919,000円	658件
(崇敬者明細)		
県内(個人、企業、団体)	12,011,000円	477件
県外(個人、企業、団体)	3,908,000円	181件
繰入金	63,852,000円	(造営積立金会計より)
その他収入	1,055,139円	

万の灯をもってみたまを慰め

護国の神様に平和を感謝し

幸福と繁栄を祈念しましょう

万灯みたま祭

式年みたま祭

七月二十三日・二十四日・二十五日
七月二十四日・午前十時

祭典

「式年みたま祭」二十四日午前十時より、大祭式をもって式年該当祭神の十年毎の祭典を斎行致します。
「万灯みたま祭」二十三日・二十五日の両日、随時昇殿参拝をしていただきます。
「点灯式」二十三日夕刻、御神前に献灯の奉告の後、境内いっばいに掲げられた提灯行列約五千余灯を修飾し、午後七時に協賛会長の手により一斉に火を点じます。

行事

二十三日 子供みこし 午後五時半
子供献書画表彰式 午後六時
二十四日 詩吟奉納 午後五時
二十五日 盆踊り大会(二日間)午後七時半
(行事内容は変更することもあります)



夕刻よりの昇殿参拝について

従来昇殿参拝の時間を早朝より午後三時までとさせて頂いておりましたが、御家族づれ夜の参拝が多くなり、夕刻よりの昇殿参拝も希望されておりますので、今年より御希望にそえよう努力致します。
尚、行事時間等の都合により祝詞奏上、神名奏唱を御奉仕できない事もあるかと思われ、ますので予めご了承の程お願い致します。

今年も夏のまたままつり「万灯みたま祭」を賑々しく斎行すべく準備を進めております。かつての国難に際し、家族と郷土と国家とを護らんとし、御桶となつて命までも捧げ尽された護国の御英霊にお一人一灯のみあかしをおあげ下さい。
百人であれば百灯、千人であれば千灯、万人であれば万灯。万の灯をもって神の庭を明るく照らし、護国の神様と共に心和やかに、心安らかに、心算しく一夜をお過ごし下さい。

「あんどん」の奉納(子供献書画)

絵や習字をかいて、神さまに奉納しましょう
「野菜・果物などの静物」を題材にしたもの
低学年「とりい」
高学年「敬神」
小学校児童、中学校高等学校生徒
あんどんにするため特別の紙が神社に用意してあります(郵送希望は六〇円切手添付の事)
七月十日までに到着の事
参加賞の他、優秀なものには賞状及び用紙
審査 七月十日までに到着の事
賞品が贈られます。
表彰 七月二十三日午後六時より
展示期間 万灯みたま祭期間中
※子供献灯は毎年行なわれます。今年応募出さなかった人も来年は是非応募献灯してください。



永代献灯者芳名

自昭和五十七年三月一日
至昭和五十七年六月十日
桑名市 藤本たまき/岡田文江/加藤しず
四日市市 野呂トク/松浦卓三 鈴鹿市 渡辺新一郎/飯田正大/岡本孝章/林こいさ
前田なみ子/西口はしを/垣内よ志系/坂倉ユキエ/伊藤ひさる/田中愛子/松浦あい子
阪井田須磨子/小林いつ子 亀山市 葛西み

昨年奉納された子供行灯

四日市市 荻須すま子/市川きみ/辻勲/青山弘 鈴鹿市 鈴木きよ子/北野まつ 亀山市 中川はしへ 津市 川尻辰佐/藤井省吾/西村しづへ/中村正子/和賀力 松阪市 西村寛一郎 伊勢市 青木幸司/服部妙子 鳥羽市 鎌田金一 名張市 松嶋正信 久居市 大原孝一 桑名郡 伊藤繁美 員弁郡 笹田貞一/日下佐太郎 安芸郡 飯田春吉 後久さた子/前川ツヤ子/坂口はつ/前田さみ系 一志郡 矢野育夫/辻りつめ 多気郡 宗林知七 志摩郡 三橋ふじ江/小川いゆ 阿山郡 中川周三 北牟婁郡 中村きみ子(県外)愛知県丹羽郡 松岡鏡一 名古屋 市上坂昇蔵 滋賀県甲賀郡 鶴山なつへ (敬称略)

永代神楽講入講者芳名

自昭和五十七年三月一日
至昭和五十七年六月十日
きへ/葛西せつ 津市 浅沼つる/長井千鶴子/田岡キン/辻はる/徳田貫一/伊藤サエ/川田房太郎/松本末子/別所英生/西岡くに系/岸田しず系 松阪市 沢村たせ 川口ひで/東條のぶ系/伊藤いな/高岡はつ系 伊勢市 木下末吉/荒木いつ 上野市 森島喜三郎/中森喜代子/中村とし/吉崎くに/中川静子/西口国朝/宮川幸子 名張市 木原シゲノ/道城新次/杉森みつへ/酒井ゆきの 尾鷲市 大門国市 桑名郡 伊藤繁美 加藤敏昭/石川伝一 三重郡 佐藤孝幸 安芸郡 岡本ハツラ/條原ふじ系/里川ふじ系 三井しづ系/鈴村芳子/鈴村ヒサ/山岸キクエ 一志郡 北川きぬへ/岡村たか 飯南郡 高尾恒男 多気郡 山中才之丞/坂井きよ (敬称略)

英霊奉斎基金奉納者芳名

(二〇一万円)
一口 南仁郎南半太郎 元歩兵第五一聯隊第十中隊/岡森俊雄(阿山郡)/高島輝子(滋賀県高島郡)

祭 事 録

春季例祭 四月二十一日・二十二日
 今回は御造営工事の為社務所等が取りこわされておられ、残された東西翼殿ではとうてい最少限必要な所までは及ばず、奉仕神職の参籠は神社庁舎を拝借し、神職神宮楽師の着装には遺族会館を使わせていただくというような状態で、各関係の方々の御援助をいただきて斎行された。

二日間に亘り、田川亮三大祭委員長のもと不自由にもかかわらず御遺族を始め各界代表多数御参列され盛大厳肅裡に斎行された。

ひなまつり 二月二十八日 三月三日
 このような形で子供の成長を願い、ひなまつりを行うのは当社だけで、各地からおひなさまや官女さまになろうと多くの子供達が参加した。付そいのお父さんお母さんは記念写真のカメラ係に早変わり、その日は親子共々楽しくにぎやかな一日だった。



主 な 慰 霊 祭

四月 元歩兵第五一聯隊戦死者慰霊祭 三五〇名
 五月 雄飛会慰霊祭 一三三名
 緬友会慰霊祭 五三名

主な団体参拝
 四月 近歩二会三重支部
 五月 須原大社氏子総代



51 会 慰 霊 祭

御 厚 意

清掃奉仕 大宮町遺族会 十二名
 玉城町遺族会

祈願絵馬掛けの設置

日々の参拝には御遺族様のみならず、いろいろな願事をもって多くの方々が祈願参拝に來られます。近年、学業成就、良縁祈願、交通安全等々の願ひ事は是非祈願絵馬に託したいと言ってお出し出が多くあり、設置場所形状等を検討してありましたが此度拝殿前の両側に約二百程度の祈願絵馬が掛けられる絵馬掛を設置致しました。

絵馬は正五角形の当社特製の祈願絵馬で早速受験生徒や親御さんの合格の願ひを始め数々の願ひを祈念する絵馬が掛けられており、尚、例祭等には祭典に支障ないよう移動出来るものです。

遣族会館案内板の移動

神社北面屏ぞいにバス停の屋根が設置されました。これはかねてより三重交通から強く要望されていたもので地域住民のバス利用者の便宜の為やむなく許可したものです。又これにともない駅より見た時、バス停屋根、遣族会館案内板が重なる事になり、神社案内板の東側に移設させたものです。



おもな内容案内

「御本殿工事の奉行」……………二頁
 御造営事業の経過……………三頁
 御造営工事竣工にむかつて……………三頁
 事業経過並に募財状況を報告致します。
 竣工に向つての御協賛の程願ひ上げます。

これからの主な祭典

十月二十一日・二十二日 秋季慰霊大祭 明治祭
 十一月三日 七五三祭
 十一月十五日 新嘗祭
 十二月三十一日 大祓式
 一月一日 歳旦祭
 二月十一日 紀元祭
 二月十七日 祈年祭
 十月二十八日 「御造営関係祭典」 仮殿遷座祭
 十月二十八日 御神殿修復に先立ち、御祭神に工事期間中仮御殿にお遷りいただく仮殿遷座祭を斎行致します。仮御殿は西翼殿の西側に移築修復された儀式殿の予定で、修復工事完了の本殿遷座祭（来年三月の予定）まで御鎮座いただきます。社殿修復工事期間中は参道正面に参拝所を設けますのでここで御参拝下さい。尚昇殿参拝は仮御殿の儀式殿にて斎行致します。

県下の慰霊社・忠魂碑

平井神社境内社 宮司 福永 国治郎
 御祭神 御英霊四十九柱を祀る
 御創祀 昭和二十三年三月十日
 御祭日 九月二十三日
 御由緒 戦後、平井神社の境内社として創祀戦没英霊を祀る。その後破損箇所がみられ、昭和五十三年十月五日に地区経費により改築。例祭日は秋の彼岸と定め自治会の主催で、遺



慰霊祭斎行の予定

三重翔飛会
 十月二十四日午前十一時斎行
 （連絡）中村照男 三重郡朝日町小向五三六
 （電話）〇五九一三七七―二五四六

編集後記

◎毎日境内には工事の音が響いております。地鎮祭を斎行し、いよいよ本工事の開始となりました。

祭典行事等は従来とほとんど変わることなく続けてまいりたいと思ひます。御不便をかけますが、よろしく御理解の程お願い致します。

◎北半球の中東紛争、南半球のフオークランド紛争を始め、全世界に争事が有り、続いております。

百の国があれば百の正義があると言いますが自国の正義と存続のための戦いとは言え、非常に不幸な事であります。

多くの戦死者を出し、その周りには不幸な人々が多勢おります。

国の礎となられた御英霊を祀るお社に奉仕する者にとつて、平和の日が一日も早く訪れる事が最も強く大きな望みです。 小林記

参拝に関する位置図

十一月より御社殿の修復工事にかかります。ご参拝の位置及び順路等が変わります。これからの主な祭典……………一頁
 浄間の袖に仮殿遷座祭を斎行し、御祭神には仮御殿にお鎮まりいただきます。



忠魂碑

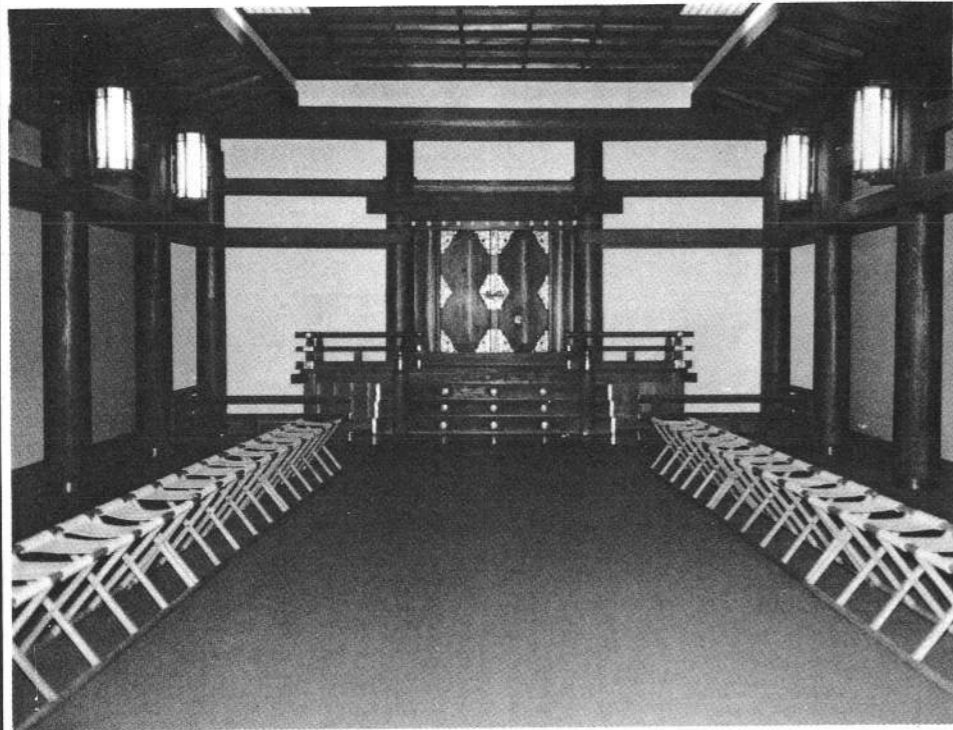
上野市小田町 一三〇番地
 平井神社境内 宮司 福永 国治郎
 慰霊柱数 五十柱
 御創立 昭和七年三月
 碑文（表） 忠魂碑
 第十六師団長山本鶴一 謹書
 （裏） 勅諭下賜五十周年記念
 昭和七年三月之建



忠 魂 碑
角柱研磨石
（碑高8尺 全高11尺）

仮 御 殿

仮殿遷座祭(10月28日)から本殿遷座祭までお鎮まりいただきます



昭和57年10月1日発行
 発行所
 三重県護国神社
 津市広明町387
 ☎(0592)262559
 〒514
 発行責任者
 宇治土公貞幹

御本殿工事の奉行

宮司 宇治土公貞幹

家の内外に事ある毎に、国の内外に事ある毎に、御英霊の上を想わぬことにはありません。昨今のようにあらためて民族の生き方が問われ、戦争の痛手を問われ返されるとき、尊い一身を捧げられた若い勇姿に思いをいたさずには居れません。御英霊の御恵みと皆さまの御協力のもとに奉仕の日々を続けさせていただけることをありがたくお礼申し上げます。

造営の工事につきましては、今春から予定の通りに進めさせていただいております。これ亦神恩と共に、御遺族の熱誠あふれる奉賛と戦友の方々はじめ心ある県民の多くの方々の御助勢の賜物と感謝の他ありません。その後ますます神宮宮務部の御熱心な御指導を受けながら、日本土建株式会社関係の懸命の努力を以て完成へのうれしい見通しが立つて来たように思います。由緒ある建物としての儀式殿と参籠棟とは既に移築を終り、夏のみたま祭には臨時に使用出来るようになりました。

秋の慰霊の例大祭は又多くの御参拝を得て意義深く斎行させていただきましたが、このお祭りを終りますと、儀式殿を假の御本殿として假遷座祭を予定し、今その御殿内の清祓い整備を進めております。

假殿への臨時の御遷座と共に、境内中央に奉拝所を奉製して普通には其処を通して奉拝していただき、日常の祭儀をおつとめ致します。御遺族を特にお招きしての永代祭や命日祭等は儀式殿内で行いたいと存じております。

そこでいよいよ御本殿をはじめ社殿全体の工事がはじまり、御神宝御装束類の奉製が進められます。その間御参拝につきまして出来

るだけ御不自由のないように努めて参ります積りですが、それでも何かと御迷惑も少なくないと思存いたします。予め御了承賜りたくお願い申し上げます。

参集殿の基本はすつかり出来上り、今後御社殿と共に目に見えて完成に向って来ると思っています。多くの参拝を迎えたときの境内便所の外、予定外の工事も進めて参ります。青少年BSのための参集舎や祭事倉庫の建設も含まれます。

連日御参拝の方々はもちろん、県下各地で造営についての心厚いお励ましの言葉をいただき感謝しており、来春の完成、本殿遷座祭と奉祝祭とに向けて努めます。については、どうか一層の御指導を賜りたく切望申し上げます。

祭 事 録

万灯みたま祭 七月二十三日より二十五日

三日間に亘り五千灯余のみあかしを掲げ万灯みたま祭を斎行した。初日の二十三日は好天に恵まれ、祭典を始め時刻よりの諸行事も盛大に執り行われた。子供みこしが市中へくり出し子供あんどん奉納作品の表彰に続いて点灯式の始まる頃になると境内には参拝者が急にあふれて、いよいよ夕間もせまり北村協賛会長の手によって全献灯に灯が点じられると境内の参拝者の中から歓声と拍手がわき賑やかな諸行事が繰り広げられた。初日という事もあって境内に入りきれない程の人出で賑わった。

一転二日目、三日目は天候不順の為雨にのみまわれたが、式年みたま祭等各祭典は県下各地から熱心な遺族様のお参りを得て斎行されたいと存じます。みなさまからの篤志御奉賛御奉納をいただきたくお願い申し上げます。

御造営献金奉納者芳名を社頭に掲げました。此度の御造営事業に篤志御奉賛を賜り有り難く御礼申し上げます。御献金いただきました方々の方々の御芳名を鳥居の両側に掲げさせていただきます。御奉納いただきました方々は五万名を越え、掲上方法の都合により今回造営献金を御奉納された方のみ掲げる事に致しましたので御了承下さい。

御造営事業の経過

- 6月18日 基礎杭打終わる
- 7月27日 基礎コンクリート打設
- 8月13日 土間コンクリート打設
- 8月20日 型枠組立始まる
- 9月10日 配筋検査
- 9月13日 柱、壁面一部コンクリート打設

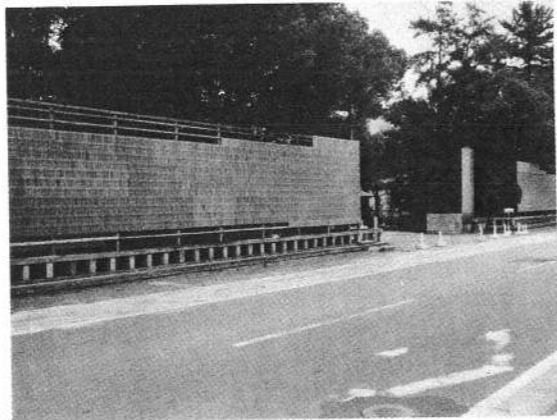


工事竣工にむかって

建築指導にあたる設計管理、神宮司庁宮務部次長安藤信也氏。

境内整備について
御造営工事にともない樹木等の仮移植の奉仕をいただきましたが、いよいよ来春二月末頃には建物周辺の整備にかかれるものと思われまます。新しい参集殿に合うようすがすがしい神苑に合うよう、当社社にもつともふさわしい緑地整備を望んでおります皆様方の整備計画についての助言並に御奉仕をお願い致します。

常夜灯設置について
万灯みたま祭の掲灯の掲上方法が変わる事により境内の電柱が不用となりました。この電柱は夜間照明用の常夜灯がついており非常に非常に目立ち又神社景観にあわないため撤去する予定です。常夜灯については神社の境内にふさわしいものを設置し



募財について
遺族会のみなさんを始め戦友会、神社関係者、崇敬者より多大の御献金をいただきました。厚く御礼申し上げます。

ただいまは各団体、会社等にお願ひして下さり下図のとおりまだ総予算とはだいぶひらきがあります。予算充足にむけて建設委員の方々のご指導をいただきながら神社責任役員、職員、一層努力をつづけてまいります。よろしくお口ぞえの程をお願い申し上げます。

御造営総予算額	400,000,000円
現在総収入額	329,445,170円
(昭和57年9月11日現在)	
内 訳	
名 称	金 額
三重県遺族会	196,370,800円
県外御遺族	1,269,500円
県内神社神職	4,940,000円
戦友会	33,822,620円
崇敬者	24,830,000円
繰入金	64,252,000円
その他収入	3,960,250円



▼点灯を行う北村会長

▲子供みこしの出発

戦後の日英霊感謝祭 八月十五日
戦後三十七回目の八月十五日に感慨深く「終戦の日英霊感謝祭」を斎行した。

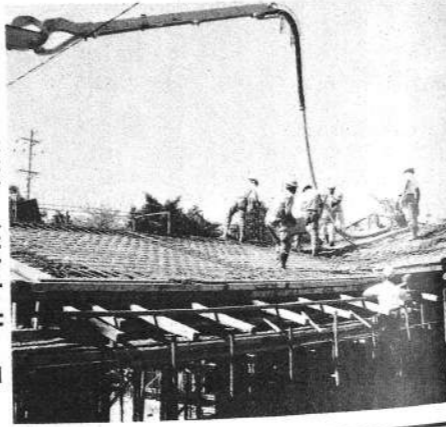
祭典は神社役員を始め町村長、郡市の遺族会長、戦友会の代表の方々の参列を得、東京九段の武道館で行われた全国戦没者追悼式の中で御名代の皇太子殿下による天皇陛下のお言葉を拝聴して祭典を終った。

永代献灯者芳名

- 自昭和五十七年六月十一日
至昭和五十七年九月十日
- 桑名市 後藤典男/三輪豊子 四日市市 山本正春/山本タツ/村上照雄/齊木源一/森田千代子/丹羽ふじ/水谷清八/吉田安喜尾/中島正夫/早川さくら 鈴鹿市 岡田昭生/山際一二/森川たつを/桜井信弥/鈴木孝山/佐野きよへ/近藤ささへ/近藤志ん中根完 津市 島上清一郎/宮崎保夫/脇田きぬ枝/古市静子/岡副ユキ子/赤塚とみ/今川ゆき/森田好三 伊勢市 小松順子/橋爪利一/大木りつ 上野市 辻堀みつ/山下宣勇/保田淑子 安芸郡 倉田チャウ/倉田新一/松田正巳 員弁郡 長野卓夫 一志郡 大谷周三 鈴鹿郡 西川恒弘 多気郡 西村さよ 南牟婁郡 岡村まき/中納節子/河辺みつ/河辺みなる/河辺マスヨ 北牟婁郡 久保勝代 (敬称略)

永代神楽購入講者芳名

- 自昭和五十七年六月十一日
至昭和五十七年九月十日
- 四日市市 三木敏子/川瀬すみ江/樋口権吉 早川さくら/山宿ヒデ/水谷たま/水谷一郎 服部武/川村キミエ 津市 和賀力/行方浜子/伊藤重嗣/青木淳子 松阪市 長島つね田中さとえ/岡野きぬ系/中井敬夫 伊勢市 北村あいの 名張市 山崎ヒロ/新す系のへ新たきへ/奥田民子/萩森つや/福西とらへ 川崎正雄/山中たね 亀山市 伊藤広一/田中岩夫/原田しよ 桑名市 笠井正通/加藤しげの 熊野市 亀井はな系/森下皆次 久居市 庄山昇 桑名郡 早川ゆり 員弁郡 服部すき系/中村志すへ/山川文子/早川志ま/山川きくを/川瀬千代 安芸郡 前田まつ子/前田たけ 三重郡 山本清一 度会郡 松葉恵三/山口ノブ/大西晋 一志郡 北山トキ/今城古う/西山小友 阿山郡 奥きよへ/中川やす/奥美与子/岡島盛男 飯南郡 久保かず系 北牟婁郡 岡本とく系 (県外) 大阪府富田林市 坂かつえ 岐阜県揖斐郡 弓削ゆき 福岡県田川市 日高九子 愛知県 稲沢市 山羽志津 (敬称略)



▲子供奉納献書画表彰式

主な団体参拝

- 六月 御浜町遺族会
- 七月 傷痍軍人家族の会
- 一志町高岡敬神婦人会
- 島ヶ原村遺族会
- 伊賀町遺族会
- 九月 飯南町遺族会婦人部
- 万灯みたま祭準備および御奉仕
- 一志町高岡神社敬神婦人会
- みたま祭協賛会員
- 国児学園
- 清掃奉仕
- 傷痍軍人家族の会
- 飯南町遺族会婦人部

千支絵馬 祈願絵馬 について

当社特製の千支絵馬は県内外から好評を得ており、千支(えと)の図は津市在住の日本画家村田清風先生の手によるものです。来年は亥(いのしし)の年ですが、村田先生にはすばらしい亥の図を揮毫いただけるものと存じます。尚千支絵馬は正月一日よりお領ち出来るように準備を進めてまいります。又正月ご参拝の折には一年の願いを絵馬に托し、ご社頭に祈願絵馬を掲げて下さい。護国の神様として国を護る事は勿論の事、私達に身近な神様方として、私達の様々な願いをも聞きとどけてくれるものと存じます。特に来年受験の方々には是非合格を衷心より祈願し祈願絵馬を奉納下さい。



祈願絵馬

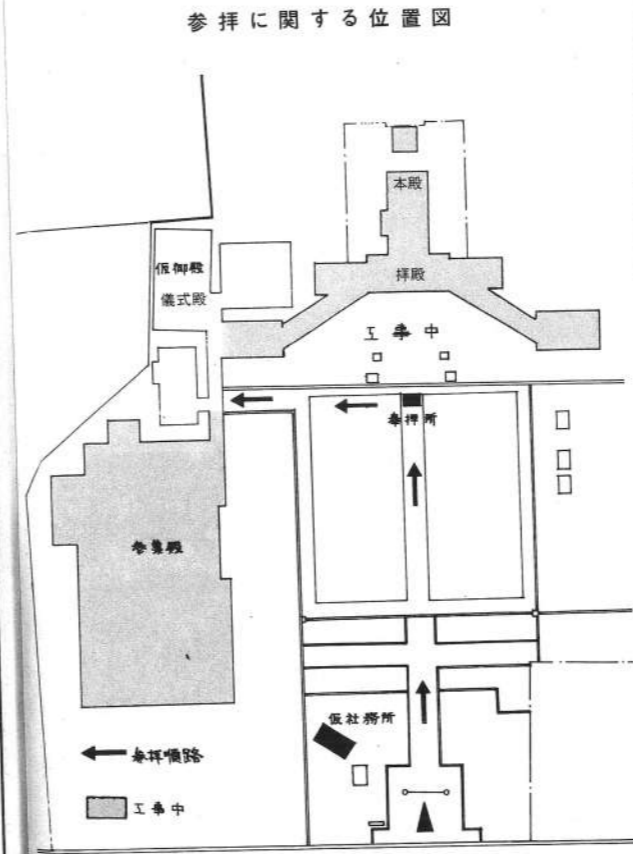


千支絵馬 (昨年のも)



宮司県公安委員に就任

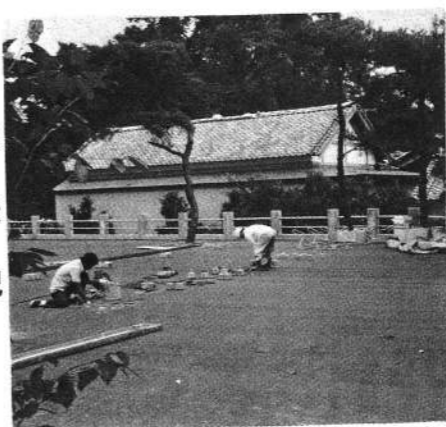
この度当社宮司は三重県公安委員に推され就任致しました。前林宮司も長年にわたって就任されておりましたので続いての事であります。神職としてまた三重県内の神社の統括組織の三重県神社庁長として、全国組織の神社本庁の役員として社会に奉仕してまいりましたが、今回から公の立場でも社会に奉仕する事となりました。又当社ボーイスカウト津七団団員長として青少年の育成に力とめておりますが、近々にはボーイスカウト日本連盟の役員をも兼ね、多忙をきわめる事となりそうです。日々の祭典で参拝遺族様と親しく接する機会が少なくなりました事を残念に存じております。今後とも春秋の例祭、夏の万灯みたま祭等の御奉仕を通じ、尚一層の御厚誼をお願い致します。



編集後記

◎今年の夏の異常気象に続き矢つき早やの台風の襲来で被害が相ついであります。殊に台風十号九号と又今回の十八号と甚大な雨災害となりました。被災者の方々につつしんでお見舞い申し上げますと共に一日も早く復興されまじやう、祈念申し上げます。

◎秋の御例祭も造営工事のため、春の御例祭と同様に斎行致します。参列の方々を始めご奉仕下さる方々にも何かと御不便をおかけ致します。竣工までご奉納下さい。江原記



自転車置場の設置について

今度九月二十五日県立美術館開館のはこびとなり、それに至るまでの道路及び周辺整備事業が推められております。特に駅周辺における放置自転車の問題は当面重大な課題で、津市では多数の自転車を収容出来る敷地を駅近辺に求めておりましたが、神社西側に隣接する偕楽公園の一部をこれにあてる事となりました。当社では神社の尊厳が損なわれまいやう、又公園地としてふさわしい景観でありやう、充分配慮されるやう当局に申し入れました。尚自転車置場は九月二十二日に完成されました。



昭和58年3月22日発行
発行所
三重県護国神社
津市広明町387
電話(0592)262559
〒514
発行責任者
宇治土公貞幹

御造営竣功特集号

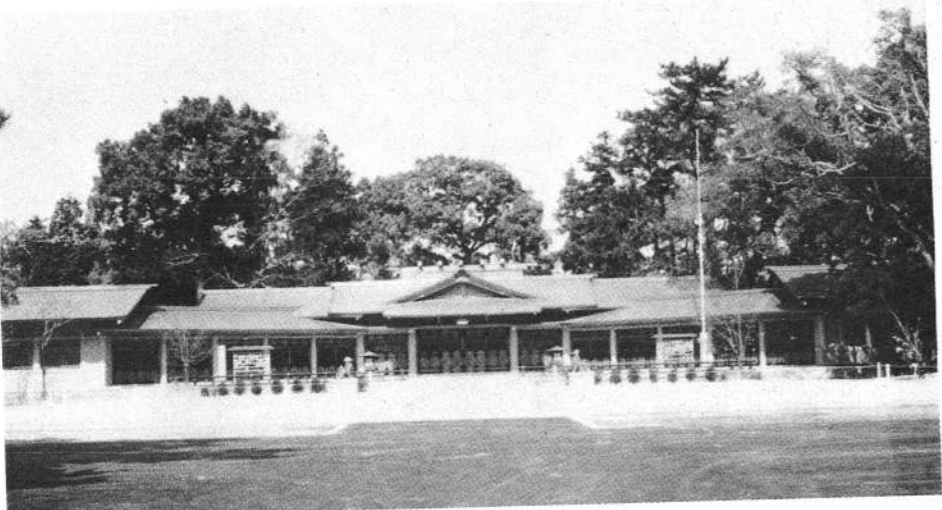
本紙をかりて、御造営竣功のご報告並に、ご支援ご奉賛の御礼を申し上げます。



本殿遷座奉祝祭にあたり

心からお礼申し上げます
宮司 宇治土公貞幹

御造営竣功



御英霊のおみちびきのもとに、造営の全工事を完工し、御本殿の千木堅魚木の金銅金具と社殿参集殿の新らしい銅板とが春の陽光に輝く中で、本殿遷座奉祝祭の盛儀となりましたこととありがたく存じます。

御社務所の旧態を憂い、御英霊奉祀の将来を思いながら、役員総代の方々の御指導のもとで、造営事業を進めて参りました内であって、何と言っても一番の中心になつて御理解御協力をいただきましたのは三重県遺族会の皆さまでした。

建設委員会の中核となつて推進をいただいたことをはじめ、分会のひとり一人が大へんな御奉賛をいただきました。

婦人部青年部の方々には、造営中の植木の移植、庭石の移転、境内清掃にと御努力をいただく姿に御英霊もさぞかし御満足のことと存じました。県外遺族の方々も格別の御理解を賜りました。

英霊に應える会を中心に各戦友会も亦積極的な奉賛活動をいただき、今回の造営を意義深いものとして頂きました。

三重県神社庁に關する神職の方々もそつとて申し合せ浄財を奉納されました。従来から全支部代表が祭典奉仕を願つておりましたが、県下全神職が奉賛という例は他に無いのではないのでしょうか。

県民の志厚い方々からも心をこめた奉納をいただき、未だそのあとを絶つておりませんし、県出身の有力な方々からもお心を寄せ励ましてもらいました。

工事につきましては、神宮宮繕部の神社界最高の技術

と御好意とによる設計監督をいただくことが出来、完成を見た今日あらためてさすがにと感服しております。

社殿につきましては全般に予定以上の造修が出来ましたことを喜んでおります。御本殿を高く上げ奥行を広く、金具を全部新らしくし、塗装も全体に改め、床面にタイルを張り開干を改めることが出来ました。

平素は拝見することが出来ませんが、本殿内の御神宝威儀物も全体に新しく手を入れました。

参集殿については御覧の通り立派に新築され、特に御遺族参拝の玄関口から一本の廊下を通しましたことを最もうれしく思います。

儀式殿と参籠棟とは由緒ある建物として大切に保存されるやうになり、他に御英霊遺品室、青少年ハウス、団体便所を備え、境内参道、駐車場を従来より広く整備することが出来ました。唯消火施設や浄化槽や消防関係の法令の変化にともない、予定しました以上の経費を必要と致しました。

施工の日本土建株式会社関係者は終始大へん良く努められ、所期の目的を立派に完遂して下さいたことを感謝します。

御指導御奉賛下さった方々の御芳名は予定通り銅板に刻して永久に保存することは勿論であります。唯、唯単にそれ留まらず先づ私自身の生涯の心に留めて語り継ぎたいと存じます。

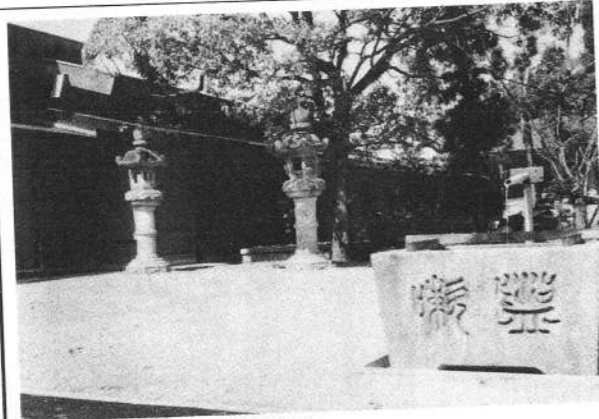
御英霊の永遠の奉祀の基礎はお陰で出来上りました。然し本当の祭祀の心を世に興させる仕事はこれからです。一層の御鞭撻をお願い申し上げてお礼と致します。



整備された拝殿前



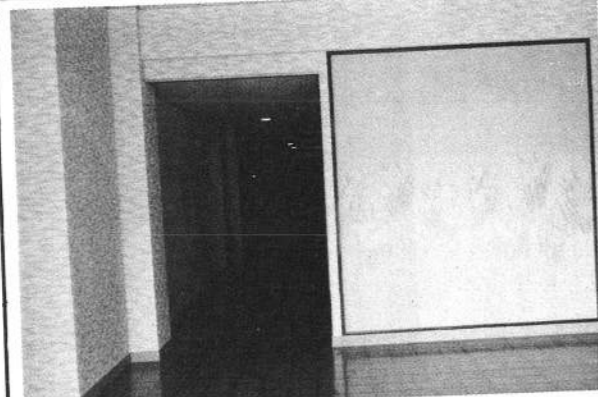
銅板を葺替え



齋館前庭より社所を眺む



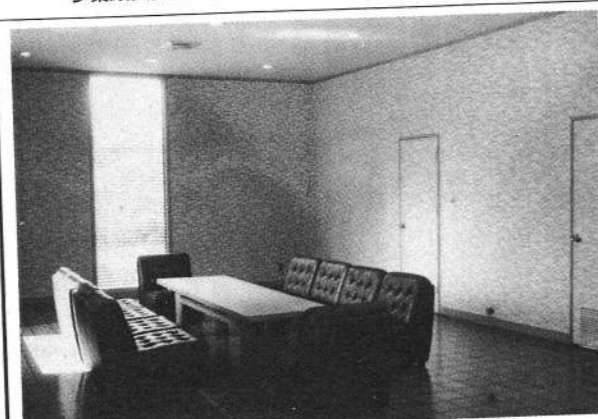
齋館玄関及び昇殿参拝受付所



参集殿玄関より参集室へ向う廊下



参集殿と社殿を結ぶ廻廊



参集殿ロビー



参集室



三重県知事

田川亮三



財団法人三重県遺族会

会長 田村 元

さきの大戦において、祖国の勝利を信じ、平和を念じつつ、数多くの方々が雄々しく散華されてきたから、早くも三十有余年が経過しました。

その間わが国は、経済に文化にめざましい発展をとり、今日や世界でも有数の経済大国と評されておりますが、今日私達が享受しております平和と繁栄は、いく多の尊い犠牲のうえに培われたものであることを忘れてはなりません。改めて深く感謝と追悼の誠を捧げるものであります。また、愛する肉親を失われました御遺族の皆様は、悲しみと今日までの御苦労に、心から御同情申し上げます。

さて、昭和五十六年十月に、平和を守りたもう御英霊の御神徳をさらに発揚し、祭祀を永遠に続けるため、関係各位の御尽力により、三重県護国神社の修理改築等御造

営事業が開始されてから一年六か月の歳月を経て、ここに立派に御本殿以下社殿の修復をはじめ、参集所、社務所の新築及び境内の整備等をめでたく竣功され、三重県護国神社の風格を高揚し、落着きと荘厳を加えられたことを心からお喜び申し上げます。

このたびの御造営につきましては、県下の御遺族をはじめ、各界の絶大な奉賛による造営献金が奉納され、実現の運びとなつたの事を聞き及び、さぞかし、御英霊には、こうした尊い御奉仕の心に、御満足のことと拝察申し上げます。このたびの大事業がこうして多くの方々の奉賛と奉仕のもとに全うされましたことは、人々の平和への願いと御英霊に対する感謝の賜れであると存じます。

ところで、英霊顕彰事業につきましては、国におきましても、昨年閣議において、毎年八月十五日を「戦没者を追悼し、平和を祈念する日」とし、この日に全国戦没者追悼式を挙行することと決定するとともに、かねてから実施しております外地戦跡巡拝及び遺骨収集等を強化することとしておりますが、県といたしましては、これらの事業の円滑なる遂行に努め、今後とも英霊顕彰事業の充実を図つてゆく所存であります。

終りに、三重県護国神社に鎮ります御英霊の加護のもと、御遺族はもとより、県民の皆様御多幸と御発展をお祈りするとともに、県政推進へのいっそうの御支援御協力を賜りますようお願い申し上げます、お祝いの言葉といたします。

また、御遺族の熱意あふれる御賛同と、戦友の方をはじめ、心ある県民多数の方々の御協賛を賜り御造営資金も順調に献納せられ、工事も神宮宮務部の御熱心な御指導と建設関係者の懸命の御努力により所期のとおり完工し、本日ここに奉祝祭を皆様とともに迎えられることは、非常な喜びでございます。これも御英霊の御加護と御遺徳によるものと深く感謝申し上げます。これも御英霊の御加護と御遺徳によるものと深く感謝申し上げます。

改装なつた御社殿はじめ一新なつた参集所、社務所等を拝観いたしますに、六万余の御英霊の鎮りますに、ふさわしい御社のため、すまいとなりました。今後とも益々日本の安泰と、郷土の繁栄のため一身を捧げて、護り給うた御英霊の御遺徳を一層顕彰し御遺志を後世に伝へ、戦争のない平和な社会の建設に邁進し、御志の具現にため御霊を御慰め申し上げねばならないと存じます。

今一度、御造営事業によせられました多数の方々の御協力に衷心より感謝を申し上げお祝のことばといたします。



祭座遷殿本 儀御の遷



昭和58年4月1日発行
発行所
三重県護国神社
津市広明町387
☎(0592)262559
〒514
発行責任者
宇治土公貞幹

靖郷神社 相鹿上神社境内に昭和十年創祀され、御由緒が提唱者その他詳細は詳でない、昭和五十年周囲の垣を作り整備をする、現在は春秋に

県下の慰霊社・忠魂碑

奉祝祭当日都合で参列出来なかつた方は、五月末日までに御案内状とおしるしをお引きかえ下さい。

四月二十一日 春季慰霊大祭
四月二十二日 修復が終了立派になりました御本殿で初めて齋行される慰霊大祭です。奉祝祭に都合で参列出来なかつた方もぜひ御参列下さい。
四月二十九日 天長祭
六月三十日 大祓式
七月二十三日、二十五日 万灯みたま祭

これからの主な祭典

『本殿遷座祭を終えて 百年の大計の発足』
御造営事業の経過
これからの主な祭典
祭事録

おもな内容案内

歌会始に入選
遺族会員の三輪さんが選に預りました
永代献灯者 永代神楽講入講者芳名
御厚意
昨年仮植しました樹木を移植し神社にふさわしい立派な庭園を作っていました。
遺族により慰霊祭が行なわれ維持管理は相鹿上神社に準じている。



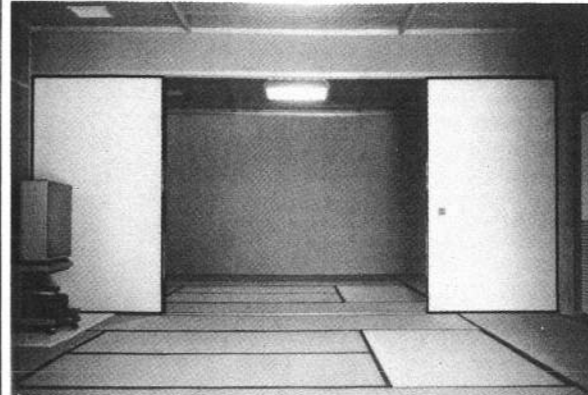
靖郷神社
間口1m奥行1m
木造9m

忠魂碑

員弁郡北勢町
北中津原二九一の一
中原神社社有地 宮司 伊藤 真作
慰霊柱数 四十四柱
祭典日 九月二十三日
御創立 昭和十五年七月十三日
碑文(表) 忠魂碑
(裏) (慰霊四十四柱各々軍階級氏名 戦歿年月日、戦歿地を列記)

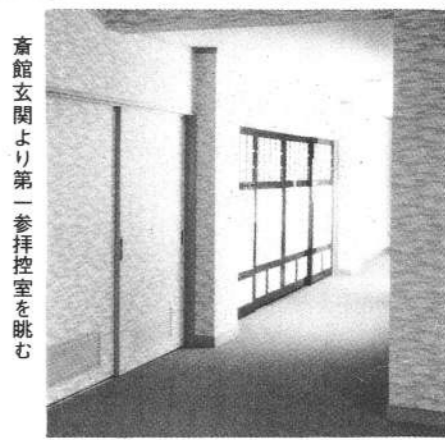
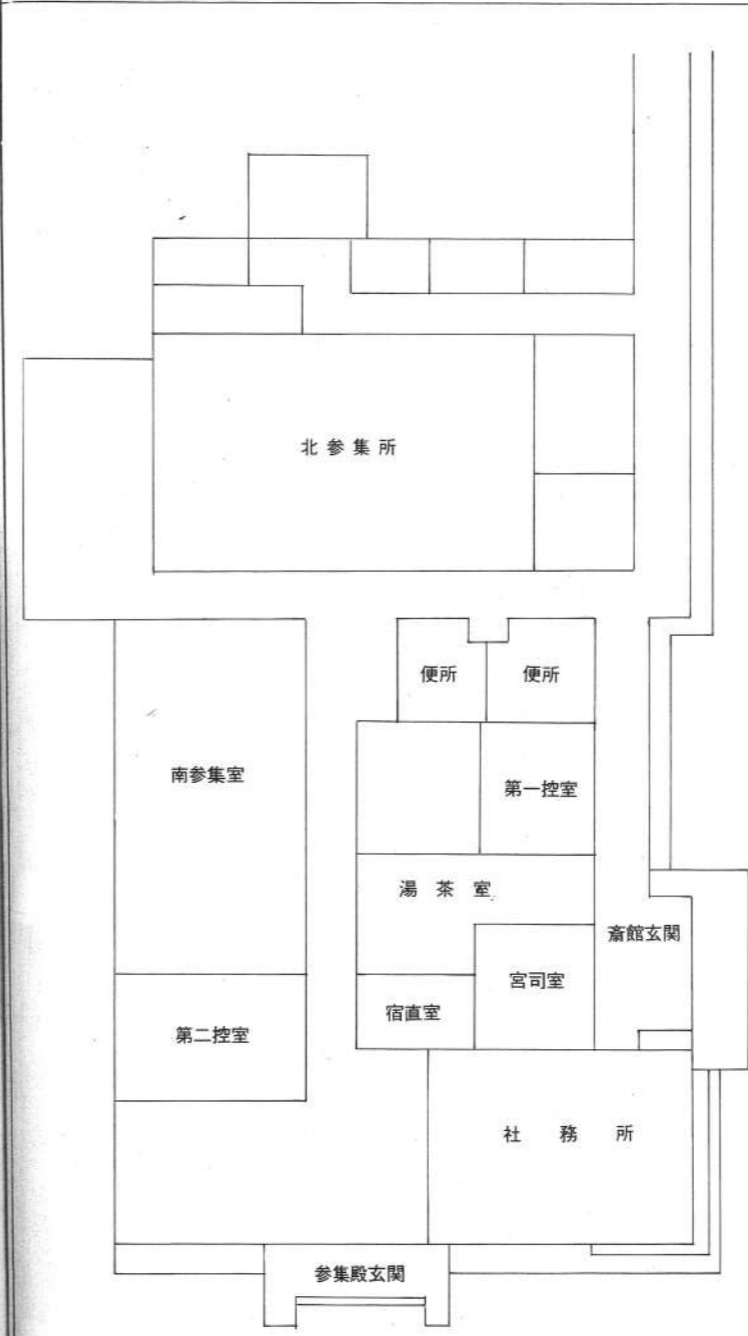
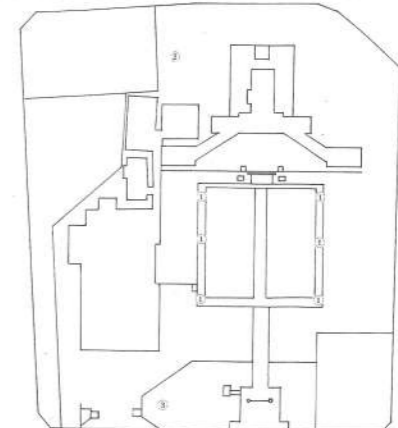


忠魂碑
自然石一部研磨
碑高10尺全高20尺



第一参拝控室

継続中の諸工事 (右図説明)
①常夜燈設置位置 青銅製六基
②青少年ハウス建設工事中
③参拝者用屋外便所建設予定地



斎館玄関より第一参拝控室を眺む



社殿に向う廻廊

皆様のご参拝をお待ちしております
昨年四月より御造営工事に入りおおよそ一年間、皆様方には参拝の折々非常にご不由ご迷惑をかけたかもしれませんが、ここに立派に竣功致しました。皆様のご参拝を心よりお待ちしております。
尚二十名以上の団体でご参拝されます場合には、まず計画の段階で日時等の打合せをさせていただきます。
新しい参集殿でゆつくりくつろいで、立派になった御社殿で清々しくご参拝いただき、また前後の予定も順調に運ばれますよう充分打合せ調整をお願い致します。ご一報下さい。
連絡先 電話〇五九二一六二二五五九

本殿遷座祭を終えて 百年の大計の発足

宮司 宇治土公貞幹

造営工事の完成を見て、厳重な検査の上で
施工者から神殿集積を受けとり、神殿清祓
の儀をとりこおりなく執り行わせていただき
ました。
三月十七日午後七時から、建設委員はじめ
代表参列の方々の参集を得て、待望の本殿遷
座祭を斎行することが出来ました。当日は春
の清々しい浄暗の中を前後陣の威儀の物更
に行陣、絹垣の奉仕を従えて、御英霊は假殿
から本殿へおそかにお遷りになりました。
奉仕者奉拝者すべての関係者は只深い感激に
打たれました。

引つづき三月二十二日から二十六日までの
五日間、午前午後各一回の本殿遷座奉祝祭を
行なわせていただき、御遺族崇敬者の沢山の
方々のお参りのもとに盛大なお祭りとしてい
ただきました。陽光の輝く中に、高くそびえ
た本殿の新しい千木堅魚木の金色と銅板と
が光りを増し、拜殿以下参集殿の新しい結
構がさわやかに拝見出来ました。
当社にふさわしい新参集所の姿はさすがに
この道最高の権威である神宮営繕部の設計と
感銘深く、施工に当った日本土建株式会社と
誠意を随所に見ることが出来ます。殊に御神
宝威儀物の様に御神前に最も近く普通に拝
見出来ない所まで全て改修出来、御英霊遺品
室も出来ました事が何よりのよろこびでござ
います。

皆様と御同慶の喜びを分ち得ますのは、御
英霊の御加護の賜物でありますことは申すま
でもありませんが、御遺族お一人お一人、遺
族会・英霊に應える会・戦友の会をはじめ関



本殿遷座祭「神饌を供す」

係者の方々、更には県下全神職をはじめ県民
崇敬者の方々、全ての方々のお心厚い御奉賛
のおかげであり、あらためて心から深くお礼申
上げますと共に、今後共永遠に忘れ去られ
てはならぬものと伝えて参りたいと存じてお
ります。
本殿遷座祭は造営完成の上、假殿から御本
殿に遷座されるお祭りであります。伊勢の神
宮では式年遷宮と云って、二十年に一回と定
られており、その他の神社では遷座祭と云っ
て式年の定めのあるところと無いところとが
あります。

当社の場合は前回の昭和三十一年から二十
七年ぶりの大祭です。神明をお祭りするには
通例、衣食住を奉獻します。その内、食し上

りもの(食)は毎日お供えします。おめしもの(衣)は毎年一回とか数年に一回とかお供えするのが普通です。神殿の造営(住)は数十年前に一度たてまつるのです。従って造営が出来上り、御本殿にお遷りになる遷座祭こそそのようにお参りをするに相成ります。そのようにお参りをするに相成ります。そのようにお参りをするに相成ります。そのようにお参りをするに相成ります。

祭 事 録

昭和五十七年
◎秋季慰霊大祭 十月二十一日・二十二日
御造営工事の為最少数必要設備がととのはず神社庁倉、遺族会館を使用させていただき奉仕しました。二日間に亘り雲一つ無きわやかな秋晴れに恵まれ、県下各地より多勢の参列者を得て塩谷辰巳大祭委員長のもと厳粛盛大に斎行されました。
◎七五三詣 十一月三日・四日・五日
御本殿修復工事の為假御殿で奉仕されました。工事中ではありましたが例年と変わらない多くの参拝が有りました。祭典終了後千歳あめを持った子供達をカメラに納めようと思霊陣の前で写真をとるなどほほえましい光景が境内各所で見られました。

◎祈年祭 二月十七日
古くは「トシゴヒノマツリ」とも読みならわし、トシとは穀物の事で有り五穀豊穡をコヒマツリ、五穀の実る豊かな国土の安泰を祈念する祭です。神社役員、遺族会の代表の参列の中斎行されました。
◎折年祭 二月十七日
古くは「トシゴヒノマツリ」とも読みならわし、トシとは穀物の事で有り五穀豊穡をコヒマツリ、五穀の実る豊かな国土の安泰を祈念する祭です。神社役員、遺族会の代表の参列の中斎行されました。

- ### 御造営工事の経過
- 昭和57年
9月15日 儀式殿屋根瓦葺きかえ
10月20日 大屋根コンクリート打設
10月28日 仮殿遷座祭斎行
御本殿の修復工事に先立ち御祭神には本殿より仮殿(儀式殿)に御遷座いただきました。神社役員を始め建築関係者、戦友会代表の参列の中、県下青年神職の奉仕を得て斎行。
11月1日 奉拝所設置
諸殿舎屋根銅板葺き替え作業始まる
11月26日 本殿基礎工事始まる
11月30日 本殿基礎コンクリート打設
12月8日 本殿かさあげ工事始まる
12月10日 本殿かさあげ工事完了
本殿屋根銅板葺き替え作業始まる。
12月27日 拝殿前石畳取り替え作業始まる
12月27日 拝殿前石畳基礎コンクリート打設
12月27日 拝殿諸殿舎塗装
1月24日 仮社務所撤去
1月30日 境内整地作業始まる
2月1日 境内整地作業始まる
2月13日 常夜灯設置につき打ち合わせ
2月22日 本殿屋根千木、堅魚木の金銅金具取りつけ完了
本殿拝殿並びに諸殿舎屋根銅板葺き替え作業終了
2月25日 境内舗装工事始まる
3月4日 消防検査
3月5日 日本土建社内検査
3月8日 建築竣工検査
3月10日 境内整地並に舗装完了
引き渡し
3月17日 本殿遷座祭斎行
神社役員、建設委員、神社総代の見守る中
仮殿より御本殿にお鎮まりいただきました。
3月22日、26日
本殿遷座奉祝祭

歌会始に入選

三輪タマオさん

皇室の伝統行事「歌会始の儀」に県下より
三輪タマオさんが選に預り一月十四日皇居松
の間で行なわれた、歌会始に招待され入選歌
が天皇陛下の前で朗詠されました。
三輪さんは昭和十九年ビルマ戦線に於いて
夫を亡した遺族であります。昨年なき夫の戦
友と共に戦死地をおとつれその想いを歌にし
詠進したものです。三輪さんより寄稿いただ
きました文章を掲げます。
「ビルマの月光」
員弁郡藤原町篠立八七一
三輪 タマオ

立哨の夫が浴みたる月光を 祖国はるけき島にいま浴む

一月十四日午前十時三十分、私は皇居新宮
殿の松の間の椅子にいました。黒塗りに菊の
ご紋の浮いている椅子。それは私が子供の頃
から憧れた椅子でした。
昭和十九年十二月十三日、夫はビルマで戦
死病いたしました。以来、現地供養をしたい
私の願いは、年とともに募ってまいりました。
車酔いの激しい私の体で行けるような所では
ありませんが、思い切つて、去年三月上旬、
三三ビルマ戦友会の方々の中へ入れて頂き飛
び立つていきました。始めて見る夫の眠る地
踏みしめる赤い砂の音が、夫の声のごとく
胸にひびいてまいりました。
「よく来た。生きていますからな。」
そんな夫の叫びは、車酔いを吹き飛ばして
別の私を作り上げてくれました。ある夜、私
は、月の光にぬれながら、しみじみと夫の
佛を追っていました。月は太い合歡の古木の
間から海のような空にのぼりました。
「あなた、ご苦勞さまでした。この月光を浴

みながら夜通しお立ちになったのですね」
とえ暫しの間でも、夫の浴みたる月光を浴
みて待つ私は幸せでした。軍服の若い夫は、
あの京都深草の営所で別れたと同じ声で、
夫婦の絆を蘇らせてくれたのでした。
今回、思いがけなくも、お題「島」に、預
選者の一人としてお拾い頂いたことは、身に
過ぐる光栄と存じております。
「あなたが作ったのではない。あなたの夫が
作らせたのだ」
誰もがそう言います。そうなのです。私は
詠進寸前まで、別の一首を温め通していまし
た。ところが筆を持った瞬間、
「ビルマで作った一首の方がいいよ」
どこからともなく夫の声がひびいてまいり
ました。私は即座に選んで詠進したのでした。
夫の体はもうどこにもありません。
「これですっかりあなたの戦後は終わりました
ね。人々はこう言います。
「いいえ、終るところが、私の生命のある限
り続きます。終る心の中には、永久に夫が生
きついで私を励まします。宮中へ頂いた、
天皇陛下のお言葉を忘れることなく、ビルマ
の月光を眼裏にやきつけて、私は詠み続ける
ことを誓います。夫に。世の人々に」。

仲公元宮司来社

去る九月三十日元三重護国神社宮司仲公
氏が来社されました。仲氏は終戦後朝鮮京城
神社より引き上げてこられ三重護国神社宮
司に就任しました。在任中には終戦時絶えて
いた大祭を二十一年十月より、又二十五年よ
りはまた大祭を復興するなど祭典の復興厳修
に努力され終戦時から約十年の長きに亘り戦
後復興期の三重護国神社宮司として御英霊
に奉仕してこられました。
今回御造営を機に当時の神社の様子、又苦
労話などお聞きしたく、おこしをお願い
致したところ御多忙の中を来社くださいまし
た。神社宮司、職員と二時間にわたる色々

永代神楽講入講者芳名

- 自昭和五十七年九月十一日
至昭和五十八年二月二十八日
四日市市 川村ふく子/中嶋三春/森つぎえ
清水つる/後藤のぶ/味香さく/村山實
伊勢市 永井ふゆ 津市 山内ひさの 松阪
市 酒井かね/荒木とめ/黒岩ひさる/蔵
城三恵/来光いね 上野市 板橋謙一/葛
原実/杉野文子 桑名市 滝川トエ/水谷
数市/水谷志子/野口武司 鳥羽市 小久保
頼 久居市 伊藤ちあ子 鈴鹿市 辻本佐六
杉浦ちよ/佐野つじ/伊藤留一/中濱一作
名張市 福田ひさる/藤井良子 森田末子
亀山市 浦野鈴子 尾鷲市 奥地とめ 熊
野市 中田征治 桑名郡 安田高 三重郡
松永こみさ/水越くわ/畑志づる 員弁郡
加藤系枝 一志郡 山内とし子/山内孝子/
松本銀蔵/柴山茂/玉野と志系/寺下すゝ
久保子エノ/田川ひさ 安芸郡 武藤きみ

永代献灯者芳名

- 自昭和五十七年九月十一日
至昭和五十八年二月二十八日
中西艶子/稲垣つう 多気郡 近藤やする
元坂和彦/木屋達雄/浜川きぬ 飯南郡 宮
本とみ/北垣戸清 度会郡 倉野はつ/山下
長五郎/山本かず 志摩郡 中西たつ/奥村
武夫 北牟婁郡 山下かる (敬称略)
右京区 岩本ゆわ尾
自昭和五十七年九月十一日
至昭和五十八年二月二十八日
四日市市 佐脇昭信/伊藤ツヤ子 伊勢市
岡春 津市 伊藤美保子 松阪市 竹内秋子
宇田くまへ 上野市 木津よう/城下よし
へ/小田菊枝 鈴鹿市 田中よね/森下コシ
ツ/黒田克子/辻きぬ/清水シン/名張市
木原しげの/尾鷲市 岡田よし 桑名郡 安
田高/古村末三郎 員弁郡 長野はる系/藤
田はる系 多気郡 尾西ふじ/下村すゝ系
一志郡 山口ハマ 度会郡 竹内とめの 阿
山郡 松岡かねよ (敬称略)

主な慰霊祭

- 十月 安芸郡遺族会慰霊祭 一〇〇名
- 十月 翔飛会慰霊祭 四四名
- 十一月 津市遺族会慰霊祭 二〇〇名
- 十一月 ラバウル方面会 五三名
- 二月 元一三三聯隊十中会慰霊祭三八名
- 三月 環瓊会慰霊祭 七五名



環瓊会慰霊祭

主な団体参拝

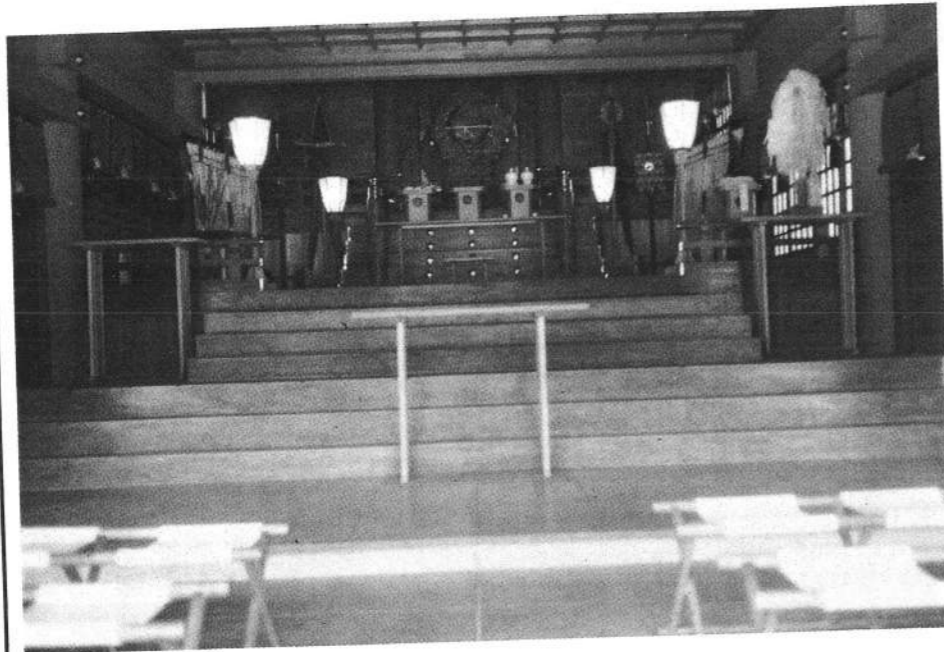
- 十月 大王町遺族会名田地区 飯高町遺族会波瀬地区 鳥羽市遺族会婦人部
- 十一月 三重県遺族会婦人部 三重県遺族会青年部 伊賀地区遺族会婦人部 度会郡遺族会 上野市遺族会 阿山郡遺族会 中勢地区遺族会婦人部
- 十二月 三重近鉄タクシー津営業所 池田組
- 一月 大和ハウス

二月

- 御厚意
 - 大宮町遺族会 六名
 - 鳥羽市遺族会婦人部 三一名
 - 伊賀地区遺族会婦人部 四七名
 - 中勢地区遺族会婦人部 三十名
- 清掃奉仕
 - 倉庫解体 九名
 - 三重県軍慰連盟
- 清掃奉仕
 - 大宮町遺族会 六名
 - 鳥羽市遺族会婦人部 三一名
 - 伊賀地区遺族会婦人部 四七名
 - 中勢地区遺族会婦人部 三十名
- 御厚意
 - 大宮町遺族会青年部 六名
 - 玉城町遺族会青年部 三一名
 - 岳風会 四七名
 - 五一会 三十名
- 御厚意
 - 上野市遺族会第二分会 六名
 - 三重県遺族会 三一名
 - 北勢町遺族会 四七名
 - 五一会 三十名
- 御厚意
 - 安芸郡遺族会 六名
 - 三重県建設業協会 三一名
 - 上野市遺族会第一分会 四七名
 - 三重県遺族会 三十名
 - 清水建設災害防止協議会 九名
 - 安芸郡遺族会
- 御厚意
 - 近畿日本鉄道江戸橋保線区 六名
 - 三重ハイム 三一名
 - 桑名市遺族会 四七名
 - 津市遺族会 三十名
 - 大和ハウス三重協力会 九名
 - ボーイスカウト津第七団カブ隊 六名
 - 大川学園剣道部 三一名
 - 五一会ビルマ戦跡慰霊巡拝団 四七名
 - 中部管区警察局三重県通信部 三十名
 - 三重県遺族会婦人部 九名
 - 清水建設災害防止協議会
 - 安芸郡遺族会



昭和58年7月1日発行
 発行所 三重県護国神社
 津市広明町387
 ☎(0592)262559
 〒514
 発行責任者 宇土士公貞幹



幣殿も石の階3段分がかさ上げされた

樹木移植

- 三重県遺族会青年部 四二名
- 大宮町遺族会青年部 八名
- 玉城町遺族会青年部
- 御造営竣工に光立ち青年部部員の方々に樹木移植の奉仕をいただきました。昨年仮植地に移植した樹木を手際よく再移植し、神苑にふさわしい庭園が作られました。
- ボーイスカウト関係者 十名
- 玉砂利奉納 森義高



中勢地区遺族会婦人部



遺族会青年部

お知らせ

靖国神社 献詠歌募集要綱
 靖国神社の御創立記念日祭(六月二十九日)

おもな内容案内

- 「万灯悠久」……………二頁
- 万灯みたま祭協賛会長 北村幸爾
- 万灯みたま祭案内……………三頁
- 祭典行事の内容予定・子供献書画の募集
- 永代献灯者芳名……………三頁
- 永代献灯奉納総数二二八三灯六月十日現在

これからの主な祭典

七月二十三日～二十五日 万灯みたま祭
 装いも新たになった境内で、「万灯みたま祭」を斎行すべく準備をすすめております。年々増加しております皆様の衷心よりのご献灯で社を明るく照らし、夏の夜を御英霊と共に過ごして下さい。尚期間中、参拝の方々には記念の「万灯うちわ」を呈呈致します。

県下の慰霊社・忠魂碑

- 安乘忠魂霊社 志摩郡阿児町 安乘八四四
- 安乘神社境内社 宮司 片山義雄
- 御祭神 御英霊百三十五柱を祀る
- 御創祀 昭和三十五年六月三十日
- 例祭日 十月十八日



安乘忠魂霊社 神明造四坪 銅板葺 (高1間幅1間) 瑞垣門(高1間幅1間)



表忠碑 自然石一部研磨 (碑高3.2m 幅1.25m 全高4.5m)

には全国から献詠を募集し、これを神前に供え預選歌は当日披露の式を致しております。本年も左の要綱により募集されます。靖国神社の献詠として御祭神奉慰にふさわしい歌をお寄せ下さい。

尚みたま祭にも俳句が募集されます。

一兼題「花」(草木その他すべての花)

一献詠要綱 一人一首として所定の書式により歌、住所氏名を記す(但し未発表作品に限る)

一受付締切 自一月十五日、至四月三十日

一献詠送付先並問合せ(詳細資料請求先) 東京都千代田区九段北三丁目一番一 靖国神社社務所 弘報課 (電)〇三二二六一八三二六

慰霊祭斎行の予定

- 五月二十二日 午前十時 三八ビルマ会
- 六月十九日 午前十一時 川合俊次 松阪市伊勢寺町八三七 雄飛会慰霊祭
- 七月三日 午後〇時三十分 堀祐一 津市垂水二六七〇の一〇〇
- 元歩兵第五一聯隊戦死者慰霊祭
- 高瀬貞一 津市栄町三丁目六九

人事異動

- 退任 権裕宜 江原不可止 三月二十日付
- 就任 出仕 鷲海 秀則 三月八日付
- 巫女 渋谷 美恵 三月八日付

編集後記

御造営の工事が終了しひと息をついた所で、しかしながら恒例の祭典は矢張り早やに來ます。御英霊奉祀の基礎は出来ました祭典奉仕、厳修に勤め益々御英霊の遺徳顕彰に務力する所存です。みなさま方に於かれましても身近な御祭神です。機会ある事に御参拝を賜ります様お願い申し上げます。江原啓一

県下の慰霊社・忠魂碑

- 御造営事業の経過……………二頁
- 付帯工事関係報告致します
- 御厚意……………四頁
- 平岡隊戦友会の世話人よりよせられました
- 御厚意……………四頁

表忠碑

御由緒 阿児町安乘地区遺族会の提唱に依り、造営の目的をもって第五十九回神宮式年遷宮に当り別宮伊雑宮の御古材二十四石の無償譲與を受け、昭和三十四年四月、氏子数名による御造営費用の寄進を得て御造営工事にかかり、昭和三十五年五月完成。同時に県護国神社より分祀を受け創祀されたものである。

表忠碑 度会郡玉城町 小社曾根七九四の四 宮司 高木重市

下外城田神社境内 八十八柱

慰霊柱数 八十八柱

御創立 昭和五年三月十日

御祭神 表忠碑

碑文(表) 陸軍大将一戸兵衛 書

(裏) 昭和五年三月 帝國在郷会下外城田村分会建立

御由緒 旧下外城田村出身数名のシベリア出征軍人が提唱し道路側に在郷軍人会により建立した。戦後荒れ果てて、道路拡張、圃場整理等により取り残され、かつ危険な状態であったが、遺族会の中より移転の動機あり、現在の地に移し終年々盛大に祭典が斎行されている。

万灯悠久

万灯みたま祭協賛会長
北村 幸爾

三重県護国神社が全国の護国神社に先がけて、毎年の重儀である「式年みたま祭」に新しく「みあかし」による慰霊を行うための「万灯みたま祭」を併せて齎行するようになったから早くも今年で第十四回目を迎えることになり、今では神社の大きな年中行事の一つとして、また県下で他に見られない夏の風物詩として定着するに至り、「遺族をはじめ多くの崇敬者や子供達の大きな楽しみになっている。

このお祭が全県下のご遺族から寄せられた奉納の提灯を中心に、各界の名士、各種団体、有力企業、あるいは崇敬厚き個人の心の籠った献灯によって英霊をお慰め申し上げることが本旨であることは申すまでもないが、そのほか境内一杯に張りめぐらされた万灯の下で三日三晩に亘って賑かに奉納される各種の神賑行事についても多くの方々の積極的な奉仕によって年々新しい趣向が凝らされていることも特記すべきことである。



表彰式に臨む北村協賛会長

今では初回の三倍余の数にものぼる五千余の灯の提灯が境内狭しとばかりに立体化された掲揚施設に整然と取り付けられて、天の川を

中心とした降る如き星のきらめく夏の夜空高く、社殿をかこむ亭々たる大樹の緑に映える美しさは、誠に英霊の在わします神の国も斯くやと思うばかりの壮麗さと清々しさに心洗われる気持ちであり、お祭神も唯かしご満足いただいていることと拝察申し上げるのであるが、このお祭が年々献灯の増加と多様な神賑行事によって年を追って盛大になって行くことは元よりご神徳の然らしむところとは云え、その陰には宇治土公宮司をはじめとする神社ご当局の並々なご苦心・ご尽力と、更には諸般の準備設営に奉仕していただく有識の方々の非常な努力添えがあるものである。免もあれ、老若男女を問わず全ての人がすっかり特をはずして、万灯の光を浴みながら、相集い語りつづ夜の更なるものも忘れて祭を楽しむ和気藹々たる姿は、他で見られない貴重な風景と云わねばならない。近時若い人達の神社への関心が離れがちであるが、このお祭には若い男女の参拝、行事への参加が多く見られ、しかも境内においての非行など皆無である。地方の時代と云われる昨今、こうした催事こそ地方文化の要と申すべきではなからうか。

万灯みたま祭

万の灯をもつてみたまを慰め 護国の神様に平和を感謝し、 幸福と繁栄を祈念しましょう

祭典
式年みたま祭 二十四日午前十時より齎行
式年該当祭神の御遺族には緑の参列証をお渡し致します。御参列下さい。

万灯みたま祭
二十三日、早朝より午後三時まで随時慰霊
祭齎行 午後七時より午後十時まで昇殿参
拜
二十四日 午後一時より午後三時まで随時
慰霊祭齎行、午後六時より午後十時まで昇
殿参拜
二十五日 早朝より午後三時まで随時慰霊
祭齎行、午後六時より午後十時まで昇殿参
拜

行事
点灯式 二十三日午後六時三十分点灯式祭典
午後七時協賛会長の手により一斉に点灯
子供みこし 二十三日午後五時三十分
神社より津駅周辺を練り午後七時神社到着
子供献書画表彰式 二十三日午後六時
拝殿前にて優秀作品を表彰
奉納詩吟 二十四日、二十五日午後五時から
六時 吟詩舞奉納団により拝殿前に於て奉
納
盆踊り 二十三日より二十五日の三日間午後
七時三十分より
のどじまん大会 二十四日、二十五日午後六
時から七時
写真撮影会 みたま祭期間中
審査、表彰、展示は後日行います。



夕刻も御参拝下さい

みたま祭期間中夕刻の点灯時から午後十時(消灯時)まで昇殿参拝を御奉仕致します。年々夕刻よりの御家族づれでの参拝が多くなり、昨年からご希望にそうよう、夕刻からの昇殿参拝を御奉仕しております。尚行事等の都合により祝詞奏上、神名奏唱を後刻とさせていただきます。後刻とさせていただきます。

御造営事業の経過

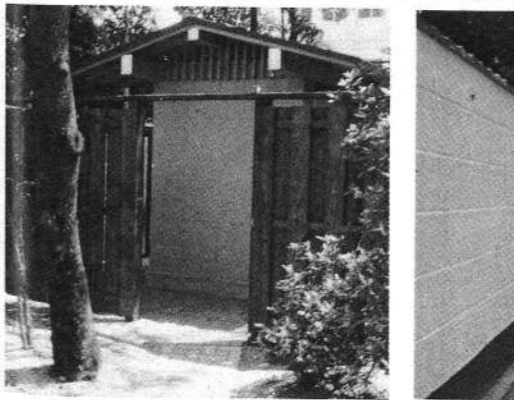
(特に付帯工事に關して)

倉庫一棟 (約四〇〇平方メートル)
神楽舞台、提灯支柱、能舞台、みたま祭関係提灯、行灯、舞台等格納、境内東北に建築、昭和五十七年九月中旬起工、十月中旬竣工
玉垣補修
南面玉垣補修及び一部移設工事、東面北面玉垣塗装工事、昭和五十八年三月施工
参道舗装並に駐車場整備
中央参道、横参道舗装工事、境内駐車場拡張舗装工事、昭和五十八年、三月施工
ボーイスカウト津第七団本部 (三三平方メートル)
当神社に所属するボーイスカウト津第七団の本部並に集会・活動の建物、境内西北に建築、昭和五十八年三月初旬起工、四月中旬に竣工
屋外便所 (一〇平方メートル)
境内南西に建築、昭和五十八年四月中旬起工、五月中旬竣工

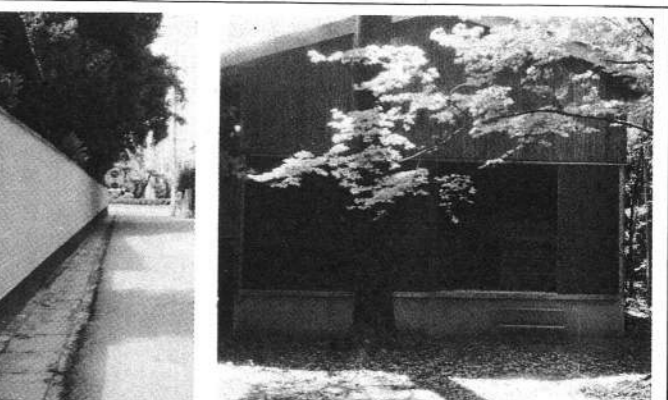


ボーイスカウト本部

拡張整備された駐車場



屋外便所



塗装された玉垣

倉庫一棟

「あんどん」の奉納(子供献書画)

絵や習字をかいて
神さまに奉納しましょう
題(絵) 「動物画」
(習字) 低学年「おみや」
高学年「堅魚木」
応募資格 小学校児童、中学校高等学校生徒
応募要項 あんどんにする特別の紙が神社に用意してあります(郵送希望は六〇円切手添付の事)
この外各市町村の遺族会長様を始め婦人部長さん宅青年部長さん宅にも届けましたのでお申出下さい
七月十日までに到着のこと
審査 参加賞の他、優秀なものには賞状及び用紙
表彰 七月二十三日午後六時より
展示期間 万灯みたま祭期間中
※子供献灯は毎年行なわれます。今年応募出さなかつた人も来年は是非応募献灯してください。

永代神楽講入講者芳名

自昭和五十八年三月一日
至昭和五十八年六月十日
四日市市 小村みつ子/田中二郎/川村フサ/伊藤薫/松永しげを/加藤たか夫/伊藤まさ/田中義保/小林たま/池田富茂/鈴木市/笠松ヒサエ/曾原はるる/長谷川大まつ/志田むね/鈴木フサ/栗山三千代/松本市
松尾清吉/森本勝/森本ちよの/一ノ木志を/江/宇田むね/野呂千代/西端格/谷さを
錦たけ/錦義博/吉井あひ/中森キヨ/伊勢市 西幸子/森下千恵 上野市 作守絵/谷口登/山本久夫 名張市 龍ミカ/川北源三 津市 山口きぬる/柴田太平/池山達/野田とみ/津村マキ 桑名市 星野とめ/斎藤茂 尾鷲市 下地あさる/三鬼ツギエ/浜

永代献灯者芳名

自昭和五十八年三月一日
至昭和五十八年六月十日
四日市市 東山力松/加藤としを/笠井なつ/山田ゆきを/山本武男/山本しずる/前川すい/加藤たか夫/堀田あやみ/稲垣タネ/森ふみへ 伊勢市 中村ふみ子 津市 小亀房子 松本市 笠井和子/田中まさへ/村田とし/瀬戸喜代 上野市 前野喜代子/岡澤ちか 鈴鹿市 大久保啓一/大久保ちよ子/北野まつを/伊東としを/志田むね/生川あきを/樋口あひ/田中さと/後藤宝子/伊東まさ/田中ヒサ子/田中まよい子 桑名市 加藤志げの/加藤ひさの/星野とめ 名張市 瀧ミカ 安芸郡 岡本きみを/野田征生/内山正樹/鈴木俊子 名賀郡 吉川ゆき/福永久美 阿山郡 吉岡正實 三重郡 井上みつへ 一志郡 竹内博/竹内ひな 志摩郡 坂本さとを 桑名郡 伊藤庄八 度会郡 宮原奈可 南牟婁郡 宇戸平正八郎/更家諦造
(県外) 京都市伏見区 中野宇一 (敬称略)

主な慰霊祭

五月 西部ニューギン平岡隊慰霊祭 三九名
三八ビルマ慰霊祭 一〇〇名
六月 雄飛会慰霊祭 二八名
(六月十五日迄)

主な団体参拝

三月 志摩郡遺族会
四月 近歩二会三重支部
南島町遺族会
六月 美杉村遺族会
五一会
四日市市山庄厚生年金受給者友の会
伊奈富神社敬神婦人会・江島若宮八幡
神社敬神婦人会
中部護国神社会

(六月十五日迄)



題 「御英霊に捧ぐ」
時間 約40分

御厚意

御造営竣工に当り、境内整備、参集殿設備
備品等に関して、多数の御厚意が寄せられ
ました。
献木並植樹
近藤清也氏(遺族会青年部)
山口よし子氏(津市遺族会婦人部長)
西洋石楠花五本
日本土建御造営工事現場担当者
しだけ桜一本

献木

川本誠一氏
むべ、紫陽花、紫式部、木樨、南天他
野垣内すま子氏
しだけ桜苗二本

絵入額奉納

岡和子氏(安芸郡遺族会婦人部長)
ししゅう画「鏡獅子」
近田くま氏
ししゅう画「鷹」

放送機器奉納

田名瀬茂雄氏
スピーカー一對、マイク、テープデッキ
徳富蘇峰揮毫の掛軸三幅奉納
吉田好氏(湯の山ホテル社長)

鏡一面(等身大)奉納

山廉平氏を介し当社に奉納された。
ワキタ商會
樹木消毒奉仕
近藤清也氏

樹木消毒奉仕

近藤清也氏



中部護国神社会総会

お便り

左記通信は西部ニューギン平岡隊三重支
部の世話人宮崎富三氏より寄せられました。
ここに掲載致します。

去る風かおる五月に、然も好天氣に恵まれ
新しく御造営された護国神社で厚きもてなし
に預かりその上懸なる祝詞の奏上を賜りまし
て、地下に眠れる英霊もさぞや満足された事
と存じます。川八での昼食もさること乍ら青
山高原の全山をお見事なる「つじ」の素
晴しい景観は三重の誇りとする最善の遊園地
の感を深くすると共に皆様の旅の思い出の一
ページを飾ること、思われました。
左記の短歌三首は名張出身の松本隆夫氏の
作でございます。

昭和五十八年五月十二日ニューギンヤ戦
友会遺族会にて
一、久方に会いし戦友恙がなし遺族を囲み
き戦友を偲ぶ。
一、戦に果てたる戦友の冥福をひたすら祈り
ぬ護国神社に。
一、青山の高原つじの花さかり遺族と戦友
と賞でて過しぬ。

中部護国神社会総会開催

去る六月八日、中部護国神社会が新装なつ
た当社参集殿を会場として開催された。
新潟・山梨・富山・福井・石川・長野・岐阜・静岡
・愛知・三重の十県十二の護国神社の宮司を
始め職員が出席し、毎年一回各神社持廻りで
開催するものである。靖国神社より荒木田村
宜、全国護国神社会々長の鹿兒島県護国神社野
村宮司が来賓として出席された。

慰霊祭齋行の予定

七月三日 午後十二時三十分
元歩兵第五十一聯隊戦死者慰霊祭
連絡 高瀬貞一 津市栄町三丁目六九
七月十日 午後二時
三七六五部隊戦死者慰霊祭
連絡 日置勤太郎 西春日井郡新川町
昭和五十九年四月一日
元歩兵第三十三聯隊戦死者慰霊祭
連絡 前田隆治 阿見町鶴方一六六五の一

編集後記

○御造営は三月初旬に竣工してより、本殿遷
座祭、同奉祝祭を滞りなく盛大に御奉仕し、
ひき続いての春の慰霊大祭も、御造営された
御社殿で清々しく御奉仕おえしました。
新しい建物にややお馴れながらも、社務も
順調に進めております。
○境内整備にともなう新規の献灯工事も、す
でに工事が始まっております。
新装の御社殿、参集殿が献灯の明りに映え
る様を想像しながら、夏まつり万灯みたま祭
の準備を進めております。 小林記

おもな内容案内

「防人の歌」……………二頁
宮司 宇治土公 貞幹
万灯みたま祭を聞く……………三頁〜五頁
去る七月二十二日付伊勢新聞社発刊の万灯
みたま祭に関する特集記事を転載しました
図書案内「続・インパール最前戦」……………六頁

常夜燈製作進む……………六頁
御造営事業の一環としての常夜燈設置は、
製作者中川氏によって着々と進行中
万灯みたま祭齋行さる……………二頁
万灯みたま祭写真撮影会応募作品の中から
多数本紙に転載しました。



昭和58年10月1日発行
発行所
三重県護国神社
津市広明町387
(0592) 262559
〒514
発行責任者
宇治土公貞幹



万灯みたま祭 写真撮影会参加作品

これからの主な祭典

十月二十一日、二十二日 秋季慰霊大祭
十一月三日 明治祭
十一月十五日 七五三祭
十一月二十三日(文化の日)より二十三日
七五三詣は三日(文化の日)より二十三日
(勤労感謝の日)の間受付ご祈禱致します。
十二月三十一日 新嘗祭
一月一日 大祓式
一月一日 歳旦祭
二月十一日 折年祭
二月十七日 ひなまつり
三月三日 春分祭
三月二十一日 春祭

県下の慰霊社・忠魂碑

英霊殿 多気郡明和町
大字斎宮一七五七ノ二
竹神社境内社 宮司 竹内 喜三雄
御祭神 二一柱
例祭日 春分の日



英霊殿
神明造1.4m

表忠碑

多気郡明和町
大字斎宮二七五七ノ二
竹神社境内 宮司 竹内 喜三雄
慰霊柱数 十一柱
御創立 大正八年三月
碑文(表) 表忠碑・元帥子爵川村景明書
(裏) 大正八年三月建設

御創祀 昭和二十九年三月二十三日
御由緒 昭和二十七年三月の竹神社遷座祭か
ら、時の斎宮村遺族会の会長、各班長が協議
し、竹神社の仮殿を英霊殿として現在地に建
立したものである。現在斎宮地区遺族会・竹
神社が管理に当たっており、例祭には百人余の
来賓・会員が参列する。



表忠碑
碑高345cm
幅21cm
全高550cm

防人の歌

宮司 宇治土公貞幹

御英霊のお導きと御遺族はじめ県内外崇敬者の方々の真心の御奉賛による造営工事の大部分を完成させていたから、境内地の整備を進め、祭典時の参拝手洗、青少年のためのハウスの建設等に続いて、別に献納をいただいた常夜燈が設置されて殆ど完了することになりました。

常夜燈は青銅の特製で、大きく立派なものです。御英霊にちなんで萬葉の防人（さきもり）の歌をつけてもらいました。秋の大祭までに出来上りますので御覧を願います。

造営の準備から本殿遷座奉祝祭に至るビデオが出来上り、毎日御参拝の方々に見てもらってあります。観覧御希望の場合は精々お申付け下さい。

今夏の式年みたま祭万灯みたま祭は三日間



式年みたま祭を御奉仕 写真撮影会参加作品

共大抵好天に恵まれ、例年以上の御参拝を迎え盛大にとり行うことが出来ました。反省会を開くと共に、来年は式年の御英霊が多いことですので今から準備を心がけます。御意見がありましたらお寄せ下さい。

造営中のため延期されていた中部十県護国神社と県下別表神社の会と、夫々当神社の当番で開催となりました。新しい建物の中で行うことが出来、ありがたく存じます。

近く建設委員会に決算を報告して造営一切の事業を終了させていただき度々思います。今後は造営に寄せられた御誠意をいつまでも忘れず、祭祀を厳修し、社務に励み、一層丁寧な接遇に努めて参りたいと存じます。

御健勝で、秋の大祭に御参拝いただきますようお待ちしております。

万灯みたま祭

恒例の万灯みたま祭は七月二十三日より三日間、御遺族を始め崇敬者多数の参拝を得て盛大に執り行なわれた。献灯された提灯行灯は五千灯におよび、二十三日夕刻七時より、北村協賛会長の手により一斉に点灯された。昇殿参拝は参集殿を休憩所控所とし、今回より冷房の入った広い参集室で時間までゆっくりとお休みいただく事が出来た。尚昇殿参拝は早朝に始まり午後八時頃まで続いた。一方奉納行事も賑々しく催され、子供みこしは七十名の参加者によって津駅周辺を回り、詩吟奉納は二日間に亘り五十四名が熱心に奉納吟詠した。またのどじまん大会には出場希望者が多く、時間の都合上四十名の出場者として審査された。毎夕七時半からの盆おどりの時間には、参加者がぞくぞくと増え、広い境内もうめつくりされ賑わった。

「万灯みたま祭」を聞く

三重県護国神社を訪ねて

この座談会記事は、去る七月二十一日付、伊勢新聞社発刊の当神社万灯みたま祭に関する特集を転載したものです。

真夏の風物詩「万灯みたま祭」を聞く！ 県下戦没者の御英霊をお祀りした三重県護国神社では、七月二十三日(出)から二十五日(閉)までの三日間、毎年恒例の「万灯みたま祭」が斎行されるが、本年の三月末には御造営事業も完工し本殿、社殿などの修理、参集殿の新築がなされ、今年のみたま祭はさらに盛大に行うことになっている。

そこで伊勢新聞社では、三重県護国神社宮司・宇治土公貞幹氏、三重県遺族会副会長(三重県議会議員)・谷嘉昭氏、万灯みたま祭協賛会長(前津商議所専務理事)・北村幸爾氏の三氏にお集まりいただき、同神社の由来や年間行事も含め、いまでは県民の祭りになりつつある万灯みたま祭について話していただいた。(文中敬称略)

— お忙しいところお集まりいただきありがとうございます。本日はあす七月二十三日から行われる万灯みたま祭を中心に、三重県護国神社がこの祭りを全県的なものにしていきたいというお考えも含めましてお話ししたいとお話したいと思います。

まず三重県護国神社の由来や概要から、宮司さんにお話しただきたいと思えます。

宇治土公 三重県護国神社は、国のために、公に一身を賭してお尽くしになり、亡くなられた戦没者の方々をお祀りいたしておられます。一般的に言いますと、全国的な東京九段の靖国神社にお祀りされている御祭神と趣旨は同じです。そのうち三重県出身の戦没者の御英霊をお祀りしています。

護国神社はだいたい各県に一つはありますが、県によっては二つ三つあるところもあり

ますが、基本的には一県一つの護国神社になっています。三重県はもともと津の八幡さんの御境内に表忠社として、藤堂藩の成履の役で亡くなられた藩士をお祀りしましたのが始まりなんです。その後だんだん県下の方々をお祀りするようになりまして、年代的には元治元年の事案、これは古いわけですが、後で合祀されております。それから西南の役、日清、日露をはじめ、その後の大戦さういった主として戦争で亡くなられた戦没者の御英霊をお祀りしております。最初は八幡さんの御境内にあったのですが、その後、官祭の招魂社になりまして、明治四十二年に現在のところに移築され、本格的に全県下の御英霊をお祀りすることになったのです。

— ということで、当神社の御祭神は六万二千四百三十三柱の御英霊がお祀りされているわけですが、その大部分が第二次世界大戦といえますか太平洋戦争で亡くなられた方々ですか。県民の方々、特に御遺族の方々、心ある方々がお参りされますが、昭和五十年には天皇、皇后両陛下もお参りされました。

護国神社と遺族会との関係、また昨年来の御造営事業に対するご苦心もあろうかと思えますが、そのへんを遺族会副会長の谷さんお願います。

谷 遺族会と護国神社、靖国神社は切っても切れない縁があります。それぞれ遺族会にも、息子さんを亡くされた父母の立場、主人を亡くした妻の立場、私のように父を亡くした子の立場、兄弟を亡くされた方の立場と様々なありますが、いずれにしても肉親が国のために亡くなった、そして今のこの平和があるんだと、この平和の守り神として靖国神社、護国神社がある。残念ながら戦後四十年近くにして、だんだん戦争というものが忘れられてきており、御遺族の方も、特に父母の方はもう高齢でございまして、八十歳以上の方はかなりです。そういう皆様が、先立っていかれた

子供を思う気持ちと、その御英霊が祀られていた護国神社を思う気持ちは同じでありまして、永代にわたって立派な郷土の守り神として護国神社をよりよくしたいという気持ちです。御造営の話も自分たちの元氣なうちに一日も早くやってほしい。神社が立派になるのを見届けたい、そんな尊い気持ちの表われと言いますか、御造営の話がまとまったので。

— ありがとうございます。宮司さんにお聞きしますが、一般の人たちが護国神社というものを、御祭神が戦没者の御英霊であるというところなんです。宗教宗派的にいろいろな見方をされているんじゃないか、もちろん御英霊に対して偏った宗教的思想的なものはないと思うのですが、そこをもう少し一般の県民に認識を改めたいと必要もあるんじゃないかと考えているのですが。

宇治土公 制度として確かに宗教法人であるわけですね。参拝し、拜む対象があり、お祭りをする、それからお札も出る、お賽銭箱もある。これはすべて宗教的なものだから、政治的な取り扱いとしても宗教法人になっております。一般の神社もそうですが、よくに靖国神社とか護国神社というのは、ふつうで言う宗教とは内容的にずいぶん違うのではないかと、むしろ人間を神様としてお祀りするということでは、西洋的な本来の宗教では解釈できないことでありまして、御英霊をお慰めするということ、それに世の中が平和であるように願いをするというところは、一般の宗教でいう信仰というものはずいぶん違うのではないかと、いわゆる一宗一派に偏るようなものと考え方自体、私たち自身としてはならないし、気になさる必要もないと思えます。

— そうだと思えますが、その点、谷さんはどう思われますか。

谷 国のために亡くなったのだから、尊い命を国のために捧げたのだから、その人たちに對して後に残った国が、国民の感謝の気持ち

を表すのは当然の話であって、世界のどの国へ行っても、そういうことはやっているはずだし、もっと大事に扱われていると思えますが、日本だけが「憲法に触れる」とか「軍国主義の復活につながる」とかで、こうだという国の基本的な考え方を定まっていけない。こんなことは日本だけだと思いたくない。宮司さんのお話にありましたように、確かに形は宗教に見られるかもしれないが、私個人としては内容について宗教だと考えていないし、国民の皆様もふつうの宗教と同じ扱いです。靖国神社や護国神社にお参りするのは違ふと思いません。そこらところが結論を出していただけない。しかしそれではどうするのか、このままではいけないから、いやそれじゃいけない、国のために亡くなった人たちが丁重に扱われるのが当然であるというんです。宗教上で扱うことができれば宗教を扱われるわけですね。そういう結論を出さずに、ただ靖国神社だからいけないという議論だけで、かつて国会に靖国神社法案が提出された、国でお祀りしようということでしたが、衆議院で通って参議院で廃案になったことがありますが。自民党はその法案通りに国家護持を願うのが当然であるとし、野党の皆さんは、それは憲法違反であり、再軍備にもつながる可能性があるとして絶対阻止するという。阻止すると言っても、それは国のために亡くなった人たちのことをどう思っているのですかとお聞きしたら、当然、国も国民もあげて感謝しなきゃならないが、靖国神社ではいけないという話です。そこでどういう形を出さないと人たちが扱っていくのかという議論を出さないとだいたい言ってもなかなか出ない。ただ反対だということですね。前進がない。私たちが遺族としてははじけたいですね。早い時期に国としての姿勢をきちっと出していただく必要がありますね。

— 靖国神社、護国神社というものが、

献書の部	子供献書画受賞者	鳥羽市かもめ幼稚園 鳥羽市加茂小一年 津市南立誠小二年 赤坂達生 津市南立誠小二年 小島由加里 津市南立誠小三年 清水幹子 津市南立誠小三年 田中美紀 津市南立誠小三年 東一 津市南立誠小四年 吉川智朗 津市南立誠小五年 鈴木隆雄 津市南立誠小五年 飯部めぐみ 津市南立誠小六年 板生由美子 津市三歳 中村理絵 津市三歳 石上あきこ 津市津幼幼稚園 中村誠 津市津立誠幼稚園 樋口みほ 津市津水小一年 吉田絵里子 志都多氣小四年 堀尾裕美 津市南立誠小五年 松田真実 安芸郡草生小六年 佐南英樹 安芸郡草生小六年 伊藤麻里 桑名市明正中一年
推薦	中川武男 安芸郡	
特選	奥田幸伸 津市	
準特選	紀平育男 津市	
入選	山本和弘 津市	
	鈴木文夫 津市	
	片桐正子 津市	
	小宮千原 津市	
	高山鎮 津市	
	美宅政造 津市	
	森村利一 桑名市	
佳作	田中博樹 津市	
	中川幸裕 度会郡	
	山脇幹夫 度会郡	
	伊藤嘉治 津市	
	後藤陽一郎 津市	
	伊藤彰治 津市	
	南明美 津市	
	西川岩次郎 津市	
	鎌田若枝 津市	
審査員特別賞	西崎琢二 伊勢市	
最優秀賞	高橋勇 津市	
(25日) 若林操	津市	
優秀賞	坂井正 津市	



点灯式



表彰式

特別賞	(24日) 長谷川美智子 津市
	(25日) 杉田綾沙子 津市
	(24日) 本堂喜久 津市
	(24日) 鈴木三三三 松阪市
	(25日) 服部憲明 津市
	(25日) 杉田里路 津市
	(25日) 杉田十志夫 度会郡

国民の中に、三重県民の中に広く親しまれるために、護国神社でも様々な行事が行われるようだが、御紹介ください。

宇治土公 お祭りとしては、日時を決めた恒例の祭りがたくさんあります。その中で春秋の慰霊大祭、この夏のみたま祭り、これが代表的な行事です。そのほかにお祭りとか、皆さんでもやっている七五三のお祭りとか、特にひな祭りは県下でも珍しく、ひな人形と同じような衣裳を子供が着て、お祝いを受け、記念撮影するというものです。また奉納の行事として十月には薪能があります。能舞台はいただいたのが昔からあり、たくさんの方が見に来てくださいます。最近では郷土部隊の慰霊碑がございまして、この各部隊の慰霊祭を別々の日に行っています。以上のようなのが主な行事です。

——万灯みたま祭は明日からですが、その由来をお聞きください。
宇治土公 三回目の万灯みたま祭から私はこの宮司をやらせていただいています。それまでも当社内に三重県神社庁がありまして、私が副所長をやっておりました関係から、よくお手伝いをしてきましたので、かなり解っております。

——この万灯みたま祭は各県の護国神社でも行われているのですか？

宇治土公 全部と言えらるかどうか分かりませんが、大部分では行われていると思います。靖国神社はもちろんです。非常に盛大に行われています。各県の護国神社でも万灯みたま祭という名になったのは昭和四十五年からです。本来は式年みたま祭りというのがあります。これはかなり古くから行われていました。式年というものはお亡くなりになってから十年目という意味で十年祭、二十年祭、三十年祭という具合に十年ごとになるわけですが、その方々を特にお慰め申し上げる、

これが式年みたま祭です。式年みたま祭と合わせて、全部の御英霊をお慰めするということとで始まったのが万灯みたま祭で、灯明をさしあげるといふことは、古来からの心を込めた慰霊の方法であり、これは日本に限らず西洋でもキャンドルサービスなどに見られるように世界的な慰霊の仕方なんです。そういう意味から万灯にしたいんです。そういう気持が盛り上がりまして昭和四十五年から始まり、今年で十四回目になります。

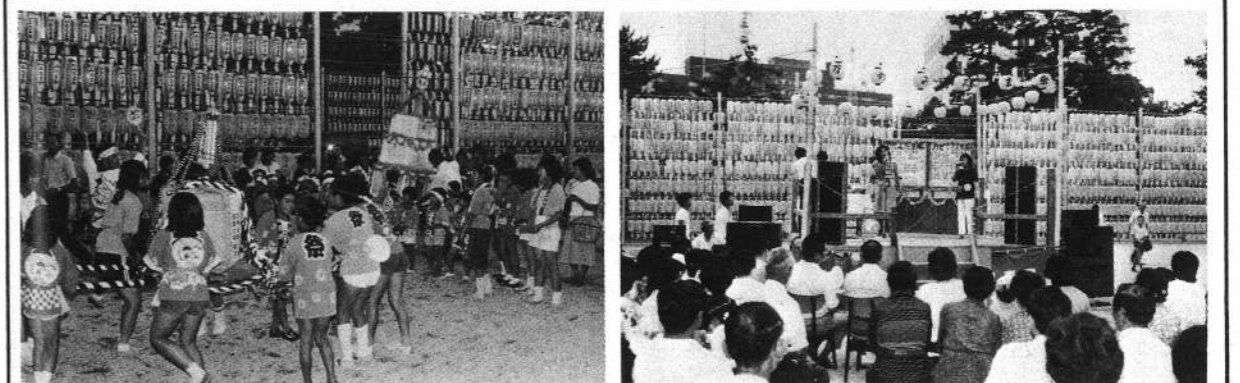


座談会に臨む宮司、谷、北村各氏

北村 協議会ができましたのは第五回目からで、昭和四十九年です。それまでは御遺族の方、崇敬者の方々によってなされてきたと思うのですが、当時、私は津の商工会議所におりました。協議会もあつて宮司さんからの案内が届けられ、万灯みたま祭をさらに盛大にするための準備会を開催したいということでした。たまたま会頭がお忙しく、私が護国神社の近くに任んでいることもありまして、代理で出席させていただきました。その時にお集りいただいたのは、橋北地区の中で、神社を中心とした羽所町、栄町、大谷町、広明町などから十五人ぐらゐの自治会

くともして、御英霊を慰めようという気持ちで献灯しています。遺族の方々も、この平和な時代の陰には肉親の犠牲があり、それを忘れてはならないという気持ちから毎年一回献灯して御英霊をお慰めするわけですが、また遺族の人たちだけでなく一般の人にも、平和の尊厳を知ってもらうために、皆さんから協賛をいただいで、亡くなられた人たちに感謝しながら、若い人たちにも平和の尊厳を語り伝えていくところ。このみたま祭の意義がある。私には思っています。そういう意味では遺族だけでなく、一般の県民、若い人たちもどんどん参加してもらって、過去に戦争で犠牲になられた方々を思い、平和を守らねばという気持ちで新たにしたい。場として万灯みたま祭をより盛大なものにしてほしいですね。

長さん、南立誠婦人会会長、北立誠婦人会会長、津市の婦人会連合会の会長それから駅前西の商店街振興会の会長さん、御用達の商人さんと言います。七軒ございまして、結婚式の貸衣裳屋、料理担当の店、写真屋さんなど七福たちも全員出席されました。ほかには遺族の方、老人会連合会の事務局長さん、津市の観光協会、津の近鉄駅長さん、津ステーションビルの代表者の方々が出席され、準備会が開かれました。どういうわけか私が協議会長になりました。以来準備会に出席していただいた方々のご協力を中心に年々万灯みたま祭も盛大になってきました。



子供みこし

のどじまん大会

ものとして考えられたのが盆踊りですね。婦人会が中心になりまして近くにいらつしやる西川先生を指導者にし、専門家の日本舞踊の先生ですが、この方の指導の下にやっています。これは市内の地元からだけでなく、遠くからもたくさん参加していただいています。のどじまん大会は参加希望者が多く、時間との関係で参加者に制限があり予約申し込み制になっており、今年も締め切っています。また私が一番いいと思っているのは子供さんからのあんどんの書道の奉納です。これをあんどんに貼って神社の周りにするわけです。この書画を書道の先生や絵の先生に来ていただいて審査し、賞を贈りますが、これがなかなか参加者が多く、全県下の祭りにするという意味では、遠くは伊賀であるとか度々であるとか県下各地から奉納されます。こういう子供の時から護国神社のことを知ってもらいたいことですね。提灯についても全県下の御遺族を中心にたくさん集まっています。

また、今年も御造営の関係で手が回りませんでした。県下各地で古来から伝わっている神事芸能ですね、お神楽さんとか獅子舞とか、そういう方々に来ていただいて奉納していただくこともできるわけです。詩吟奉納は毎年やっています。津の詩吟同好会のメンバーにご協力をいただいています。こういう内容ですね。

——ありがとうございます。谷さん、話が出ましたが遺族の方々が提灯を奉納されるということですが、万灯みたま祭についても御遺族の方々のたいへんのご協力があるかと思うのですが？

谷 靖国神社のみたま祭は、七月十四、十五、十六日、東京はちょうどお盆なんです。そういうことでお盆の夏の祭りという風情で、ゆかた姿の人も多いようです。地方の護国神社でも夏の祭りとして行われているようですし、遺族会としては一つでも提灯を多

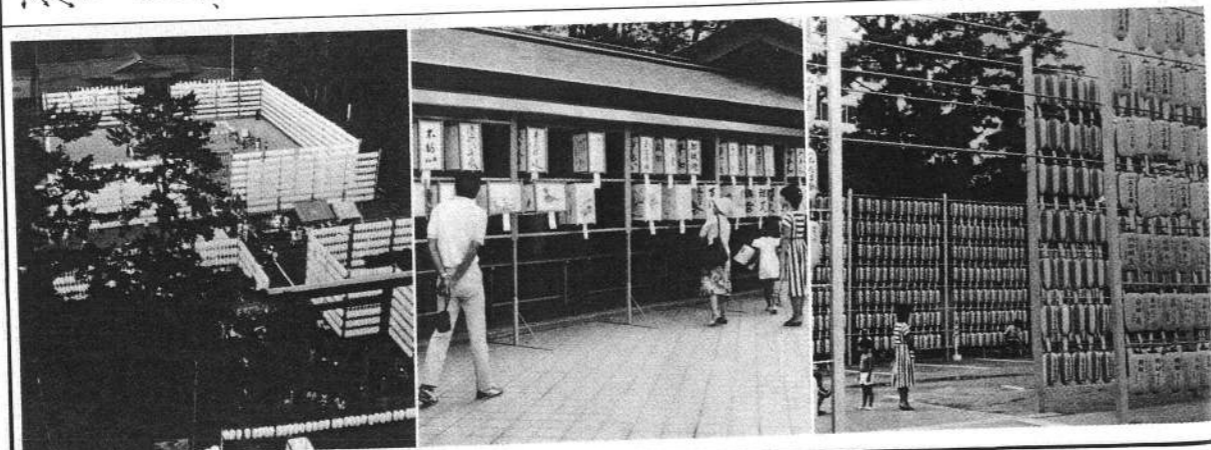
くともして、御英霊を慰めようという気持ちで献灯しています。遺族の方々も、この平和な時代の陰には肉親の犠牲があり、それを忘れてはならないという気持ちから毎年一回献灯して御英霊をお慰めするわけですが、また遺族の人たちだけでなく一般の人にも、平和の尊厳を知ってもらうために、皆さんから協賛をいただいで、亡くなられた人たちに感謝しながら、若い人たちにも平和の尊厳を語り伝えていくところ。このみたま祭の意義がある。私には思っています。そういう意味では遺族だけでなく、一般の県民、若い人たちもどんどん参加してもらって、過去に戦争で犠牲になられた方々を思い、平和を守らねばという気持ちで新たにしたい。場として万灯みたま祭をより盛大なものにしてほしいですね。

すね。万灯みたま祭も御英霊と一緒に楽しめる祭りというところ。御英霊というものは、本心に優秀な人たちが将来ある人たちが若くして命を亡くされたのですから、そのことは取り返しのつかないことですが、この祭りを通じて帰ってきてもらいたい、のどじまん大会や盆踊りの輪の中に一緒にいていただくといい祭りですので、一般の人ももっと参加していただければと思います。うちのみたま祭は、すでに全国的に見てもトップクラスの盛況を誇っています。

靖国神社や護国神社の名がでると、すぐに軍国主義への道だと言わたりが、この平和な時代に祀られている御英霊こそ最も戦争を憎んでいる人たちでしょう。もちろん遺族の方は二度と悲惨な事は起こってほしくないと考えていますし、一般の人も含めて、御英霊に感謝しながら平和の尊厳を改めて考えることがなぜ軍国主義につながるというのでしょうか。

宇治土公 その前に、いま北村協議会長さんや谷遺族副会長さんがおっしゃいました。万灯みたま祭の趣旨なんです。誠にその通りでして、氏神さんなんかの踊りでも、その中に氏神さん自身も踊っている、われわれが同窓会を開いて、友達がみんな一杯飲んでる中、すでに亡くなった同窓生も一緒に飲んでるんだという気持ちと同じなんです。

写真撮影会参加作品



主な慰霊祭 (六月十五日以降)

- 六月 第一二八聯隊戦友会慰霊祭 五九名
- 七月 第五一聯隊戦友会慰霊祭 四一五名
- 三七八五部隊戦友会慰霊祭 四二名
- 八月 河農八期生戦死者慰霊祭 一一名
- 晩六一五四部隊サルミ会慰霊祭二八名

主な団体参拝 (六月十五日以降)

- 六月 上野市遺族会友生分會
- 青山町遺族会阿保地区役員
- 傷痍軍人会家族の会
- 七月 一志町高岡神社敬神婦人会
- 四日市市遺族会水沢地区
- 鈴鹿市延命會
- 国学院大学院友会三重県支部
- 府中神社總代

御厚意

- 清掃奉仕 傷痍軍人会家族の会
- 御浜小石奉納 御浜町遺族会神木地区
- 万灯みたま祭準備奉仕 一志町高岡神社敬神婦人会
- 万灯みたま祭協賛會員

「図書案内」

続・インパール最前戦 浜地 利男著
前回の発行に引き続き、著者が曹長として参戦したインパール作戦の戦記(叢文社刊)。
著者は大正八年三月二十二日に度会郡南島町神前浦に生まれ、昭和十四年十一月十五日、祭第十五師団歩兵第五一連隊に入隊。華中戦線を転戦して、昭和十八年八月(インドシナ、サイゴン)に上陸、インパール作戦、イラワシ会戦に参加。現在、神奈川県横浜に在住。

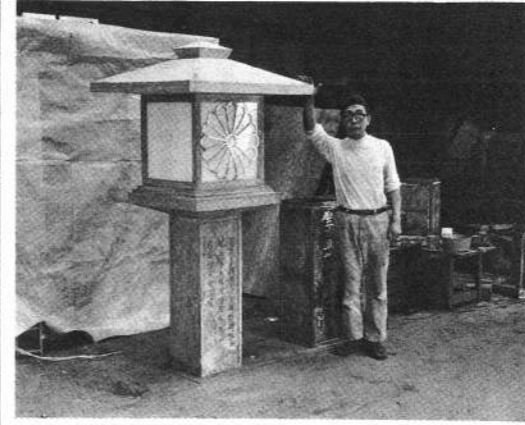


常夜燈建設について

社報第三十二号でお知らせしましたように、御造営事業境内整備の一環として、六基の常夜燈が、三重県遺族会(二基)英霊にこたえる会、三重県本部、自由民主党三重県支部連合会、津商工会議所、三重県敬神婦人連合会(各一基)の各団体の方々より寄進され、現在桑名市在住の中川郡之助氏の手によって製作が進められている。この常夜燈は、青銅製で火袋正面には菊花御紋章が一枚で透かして錆込まれ、胴には宮司が揮毫した万葉集歌が凸文字で刻り上げられている。中川氏は去る昭和五十一年歩五十一聯隊慰霊碑建立を記して、五一会より奉納された拝殿前の常夜燈の製作者でもあり、同氏は他の社寺には見られない常夜燈で特に当神社の建物に違和なく製作したので更に一層荘厳な佇まいになると述べておられた。

尚設置は十月頭初より順次据え中間には設置完了の予定である。

製作者 中川郡之助氏



永代神楽講入講者芳名

- 自昭和五十八年六月十一日
至昭和五十八年八月三十一日
- 四日市市 國保やすら/村上加津子 桑名市 浅井俊記 鈴鹿市 西條住吉/寺田津子/米木みえ子/水野信綱/渥美重雄/黒田松次郎 名張市 藤永まさへ/吉岡菊枝/藤森みつへ 津市 細川薫/池田義民 伊勢市 西山敬造 鳥羽市 大木昭三 尾鷲市 三鬼つサへ/三鬼とくま 員弁郡 太田不美/川瀬喜代治/川瀬信夫 三重郡 片岡順子/水越まさを/山下みさを/小倉一 名賀郡 谷川貢 一志郡 竹内ひ奈 度会郡 沢山みち/久保なか/津村文字/小倉芳蔵/宮原かね/小林直彦/朝守保則 志摩郡 岡部りき 北牟婁郡 桂ひな 南牟婁郡 北地順次 (敬称略)

永代献灯者芳名

- 自昭和五十八年六月十一日
至昭和五十八年八月三十一日
- 四日市市 早川静子/小沢阿さ子/出井博/谷嘉昭/堀田喜久/後藤茂夫 桑名市 鈴木昌二郎 鈴鹿市 寺田津子/長谷川賢次/中浜伊助/今村香 亀山市 新聞きみみ/坂倉照幸 上野市 山中おと 名張市 美登路イエ/森下まさへ 津市 長谷川弘子/仲ゆき/服部章/宮前愛子/中林安市/浅尾みつ子 松阪市 寺田さちよ/野呂藤枝 鳥羽市 松谷かつ 伊藤ひさ 員弁郡 松宮安敬/三羽清作/佐藤藤一/二之湯義雄/森博阿山郡 町中シツ/東久枝/小坂敏子 安芸郡 駒田孝士 一志郡 村田恒郎 多気郡 大橋きく 度会郡 小野みき 南牟婁郡 北地功 (県外) 大阪市西成区 石谷房次 (敬称略)



第六回護国神社 奉納 津市 三 重 護 国 神 社 境 内 昭和五十八年十月三日 午後五時迄 津市 津市町南町 津市町南町 津市町南町 津市町南町

三 重 護 国 神 社 境 内 昭和五十八年十月三日(月) 午後五時 奉告祭・火入式

三 重 護 国 神 社 第 六 回 奉 納 薪 能

仕舞「枕愁童」独吟「弱法師」
能「清経」長田曉・松井彬・西村欽也
狂言「佐渡狐」野村又三郎 他
仕舞「花月」「玉葛」「大江山」
能「羽衣」大島久見・西村欽也
主催……喜多流長仙會
電話〇五九二一七九〇二九(事務局赤塚)

編集後記

「ほんとに立派にさせていただきました。」「お蔭げさまで立派にさせていただきました。」「ありがとうございました。」「受付でお参りの方々と目には交される言葉です。此度の御造営に、ただただ感謝申し上げます。」「今回の社報はぜひとも特集記事を掲載致したく、二頁増加し全六頁となりました。」「以前に比べ皆様からの寄稿が少なくなった感じが致します。御意見、御感想また献歌献句等もお寄せ下さい。小林記

おもな内容案内

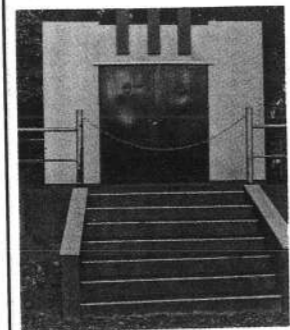
- 花は桜木……………二頁
- 宮司 宇治土公貞幹
- 御造営事業の経過……………三頁
- 祭事録……………二頁
- 遺族の便り……………三頁
- 津市高野尾町 教内信義様より
- 県下の慰霊社・忠魂碑……………一頁
- 永代神楽講入講者芳名……………三頁
- 御厚意、資料奉納……………四頁
- 靖国神社献歌募集要綱……………三頁
- 献歌は神前に供えられます
- ぜひ献歌・ご応募下さい。

これからの主な祭典

四月一日～三日 就学祈願祭
今年、小学校へ入学する児童を対象に学業成就の祈願並に交通安全の祈願を致します。
四月二十一日、二十二日 春季慰霊大祭
御遺族はもろろの事、将来の日本国を護り継ぐ子供達も御一緒にお参り頂き、御英霊に感謝し、御霊をお慰め致します。
四月二十九日 天長祭
天皇・皇后両陛下御大婚六十年並に皇太子・同妃両陛下御成婚二十五年奉祝祭
大御代の弥栄を祈念し、御大婚六十年、御成婚二十五年を御祝い申し上げます。
六月三十日 大祓式(夏越の大祓)
知らず知らずの間に心身につもる汚を御神威により祓い清めます。

県下の慰霊社・忠魂碑

神原英霊殿 久居市神原町 五〇七三番地
射山神社境内社 宮司 宮口 重明



神原英霊殿 鉄筋コリト製 7.56㎡



忠魂碑 石 角 柱 研 磨

御祭神 戦歿英霊一二七柱
御創祀 昭和四十五年十月一日
例祭日 一定せず秋に斎行される
御由緒 従来は野辺野神社に於て久居市合同の慰霊祭が斎行されてたが、遠方のため神原地区の英霊奉斎の社殿の造営が遺族会中心に検討され、昭和四十五年に造営をみた。
忠魂碑 亀山市田村町 一四〇九番地 宮司 伊藤 重明
能褒野神社境内 慰霊柱数 一七一柱
祭典日 十月十八日
御創立 大正九年一月
碑文(表) 忠魂碑
(左側面) 陸軍中將 田中義一 書
(裏) 西南の役 明治二七七八の役 明治三十七七八の役 大正七七八の役 (右側面) 昭和九年の役 日支事変 大東亜戦
御由緒 川崎村在郷軍人分会の提唱により村内協力し建立したもので、毎年三月十日戦病死者慰霊祭が斎行される。



昭和59年4月1日発行
発行所 三重県護国神社
津市広明町387
電話(0592)262559
〒514
発行責任者 宇治土公貞幹



奉納された青銅製常夜燈

花は桜木

宮 司 宇治土公貞幹

今年の冬は長うございましたが、お元気で
お過ごしでしょうか。寒さもようやく去り、
春一番から二番三番の風に乗って、花が咲き
花が散ります。続いて緑の野山が展開される
ことでしょう。

自然界のいとみは来る年も又来る年も、
小鳥のさえずりと共に生き続けます。それに
対して人間の生涯の変化はげさく、まして
や若い身空で戦いの場に没せられた英霊の上
は、言うもかなしい限り。唯、永遠に残るも
のは烈々たるまごころの忠節のみ。

お蔭さまで、神社の造営主体工事が完成し
て、本殿遷座祭をとりおこなってから一年。
附帯境内工事も昨年内に終え、このたび決算
をさせていただくことが出来るようになりました。
御英霊の御加護に依ることではありま
すが、心からの御奉賛をいただいた皆さまに
あらためてお礼申し上げます。

常夜燈謹書万葉集歌

御造営事業の境内整備の一環として、六基
の常夜燈が寄進設置されました。この常夜燈
は青銅製で、棹部には宮司が揮毫した万葉集
歌が凸文字で刻り上げられております。

歌は六首、すべて「防人の歌」で以下書き下
しを添えて紹介致します。

美豆等利乃多能己種岐父母毛能波須
價尔氏已麻叙久夜志岐
水鳥の発ちの急きに父母に物言ず来にて
今ぞ悔しき

麻氣婆之良賣米豆久礼留等乃能其等已麻
勢波々刀自於米加波利勢受
眞木柱讀めて造れる殿の如
いませ母刀自面変りせず

献詠

龜山市北野町 中根 完

遺族のたより

私は実弟が戦死しています。そんな関係で
末端の遺族のお世話をさしてもらっています。
元氣な頃の母は春秋の大祭には必ずお参り
するのを楽しんで居りましたが、昨年入院し
てからは、私が代って護国神社へお参りする
やうになった。新装なった四月には孫の初参
りもさして頂きました。

境内を一周すると右手に立派な碑がいくつ
も建っている旧三十三三昧隊とか五十一三昧隊で
亡くなった方々のもので生き残った戦友が建
立されているが弟等の部隊の碑は見当らず一
寸淋しく感じました。

生前両親の話によれば昭和十九年九月
現役で入隊もせず出征亀山駅で最後
の見送りをして別れたとき何の音沙汰もなく
したがって部隊の名も知らず終戦になり二十
年十一月頃白木の箱が届いた。

位碑と十九年十一月十七日南方海上で戦死
と云う通知だった。母はよくいつ、どこで、
どうして亡くなったか詳細が知りたいと云っ
て、いたが、手掛りもなく、判らぬま、そ
の母もこの九月に他界した。

願わくば、この部隊の生き残りの方も居ら
れるだろう。又御遺族の方でこの部隊の消息
を少しでも御記憶の方がありましたらお聞か
せ下されば幸甚の至ります。

本紙をかりてお願いした次第です。

昭和五十八年十一月
津市高野尾町一八九二の十三
敷内 信義 六十才

敷内二郎命 陸軍上等兵
昭和十九年十一月十七日北緯33°21'東経124°
42'に於て戦歿 三重護国神社祭台前による

永代神楽講入講者芳名

自昭和五十八年九月一日

- 桑名市 川合君子 / 中山もと 四日市市 田
中みや / 葛山俊夫 / 廣瀬武夫 / 森志やう / 倉
地幸一 / 加藤裕之 / 橋川守 / 前田銀太郎 / 柏
木まつ 鈴鹿市 荒木しづる / 市川よしゑ /
綾部まさ成 / 馬場はまゑ / 伊藤七郎 / 生川あ
きゑ / 岡幸栄 / 早川房次郎 / 堤義一 龜山市
宮崎安子 / 岡町たね 上野市 山之井勇夫
名張市 大西米子 / 長谷川美登里 / 森本きみ
小野田武美 津市 別所みね 久居市 飯山
國治郎 / 別所久子 松阪市 志とら / 伊東
力カ / 奥田斎太郎 伊勢市 山崎はる子 員弁郡
太田初ゑ / 眞 / 奥岡音一郎 / 川瀬孝男 / 小川
綾子 三重郡 堀内伝衛 / 大鷹晃 / 近藤福二
村上時雄 一志郡 丸山春男 / 佐藤信三 / 松
田すづゑ / 山口武一 / 長岡良成 飯南郡 向
井すゑ / 片岡すて 多氣郡 木屋サダエ 度
会郡 河口静雄 志摩郡 平賀勝次 / 久川兵
栄門 北牟婁郡 川端忠司 南牟婁郡 山口保
高茂 (県外) 宇治市 内田順己 池田市
宮本コセキ 名古屋市 山口志ん (敬称略)

永代献灯者芳名

自昭和五十八年九月一日

- 四日市市 伊藤省三 鈴鹿市 渥美重雄 / 堤
みよ志 / 服部すみへ / 北川吉蔵 龜山市 宮
崎新治 / 多田利雄 名張市 大久保庄一 / 梅
山八重子 / 川嶋はつ枝 / 池住千代 / 池住京
津市 渡辺マサエ 伊勢市 伊東力 / 堤まさ
枝 / 北川ソノ / 松山すへ / 林富美 三重郡
長谷川俊雄 安芸郡 眞柄賢 / 若林寅吉 / 中
村春之丞 / 草深きくの一志郡 西川きみ子
瀬古すづ / 小森信雄 飯南郡 山口由郎 度
会郡 河口静雄 / 北村登 南牟婁郡 丸田容
子 (敬称略)

祭事録

◎終戦の日英霊感謝祭 八月十五日
去年の終戦の日英霊感謝祭は、神社関係者
等多数参加の下厳粛に斎行され、陛下のお言
葉を拝聴し終了したが、当日は、御英霊の御
遺徳を偲び、家族づれや孫の手をひいた御遺
族並に戦友の方々の参拝で終日境内に人影が
絶える事がなかった。

本年五十九年も、八月十五日、全国戦歿者
追悼式に合せ斎行する。

◎秋季慰霊大祭 十月二十一日二十二日
御造営竣工してより二回目の例祭奉仕であ
る。今回は水谷喜治市長会々長様に大祭委員
長にご就任いただき、秋晴の下二日間に亘る
祭典を盛大厳粛裡に斎行した。

◎紀元祭 二月十一日
初代天皇神武天皇様が、大和国は橿原の宮
に於て即位された年を「紀元(皇紀元年)」と
定め、今年皇紀二、六四四年になります。

各国独自の宗教が有る様に、国や民族の経
過した年を計算する際の最初に置かれる「紀
元」の設定も、政治的に、宗教的に、或は
天文学的に各国独自のものが有ります。

歴史の深い中国に於いても、日本の皇紀の
様に、長い年月を一貫して歴史を計ることは
出来ません。日本に於ける元号はもとより、
皇紀は歴史の深さ、愛国心の深さを感じさせ
ます。

当日、祭典には、神社責任役員・遺族会・
英霊にこたえる会・一般崇敬者等多数の参加
の中、日本国の誕生を祝い、天皇様の大御心
を頂き、日本国のとこしえに栄えゆくことを
祈念致しました。

◎七五三詣 十一月三日、二十三日
秋の大祭が終るやうすで七五三詣が始って
いる。但しお参りではなく電話による問合せ
である。「何時からか?」「お初穂料は?」「予
約なしでもよいか?」云々、一日の電話の二
本に一本がこの電話である。それが今年は何

訃報

責任役員 三谷祇賀氏逝去

昭和五十九年一月二十一日
先生は近年健康すぐれず、財界、福祉の一
線を退かれ療養中でありましたが、当神社責
任役員として常々御英霊の奉斎、神社の維持
運営にご尽力をいただいております。

殊に此度の御造営事業には並々ならぬ御配
慮をいただき、御社殿参集殿を始め諸工事の
逐次竣工を非常に喜びでありました。

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

英霊にこたえる会 中川利吉氏逝去
三重県本部長
昭和五十八年十二月二十二日

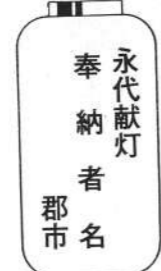
先生は中川電化機の相談役として財界の才
一線でご活躍の傍ら、英霊にこたえる会三重
県本部会長として御英霊の奉斎に深い関心を
持たれ、会の中核として御活動されておま
した。殊に此度の当神社御造営事業には率先
御奉賛を賜い、事業をご推進いただきました。
謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

永代献灯奉納のご案内

万灯みたま祭は、夏の光の祭典として、特
に親しまれ、多くの参拝者を迎え盛大に斎行
致しております。この祭典を子々孫々にわた
り斎行し、永遠に慰霊の誠を捧げようとして
に御遺族を始め、崇敬者、戦友らより御奉
納戴いているのが永代献灯であります。よ
り一段と意義
深く斎行でき
ますよう、永
代献灯の御奉
納をお願い致
します。

献灯は、図のように御奉納戴いた方のお名
前を墨書きして毎年の万灯みたま祭にかかけ
点灯致します。

永代献灯料 一灯 参万円
尚、メ切は六月十五日



年になく多かつた。
昨年は仮御殿での祭典、境内は工事中。一
年のばした方もあったにちがいない。

今年はずいぶん風船を多く目に用意した。
三日から始まった七五三詣は日曜日土曜日十
五日の順で、予想通り連日親子づれの参拝
者で賑った。祈禱前からも御社殿を背景に記
念写真、お父さん写真屋の大繁昌であった。

◎ひなまつり 二月二十五、二十六、二十七日
昨年のひなまつりは造営工事のためやむな
く中止、再開された今年ははまっまつりとな
り参加者急増、大忙しが始まりました。ま
つりは今年から始まりました。ひなまつり
は今回で十回目、このような形でひなまつ
りは全国でも例がなく、最初なじみの薄かっ
たこの祭りも、回を重ねる度に知れわたり前
回は「おひなさま」今年「官女さま」と二度
三度と参加希望もあつて、前述の如く三日間
はほぼ満員の状態、また今回はテレビ、新聞
等の取材もあつて尚一層賑わひなまつりであ
つた。

御造営事業の経過

- 昭和58年
10月15日 常夜灯設置完了 青銅製六基
10月17日 常夜灯奉納奉告祭斎行
昭和59年
2月3日 御造営会計決算監査執行
2月10日 責任役員会開催、御造営会計決算
承認さる。
3月27日 建設委員会開催(予定)
事業報告並に会計決算報告

遺品館開設にともない 遺品資料等奉納のお願い

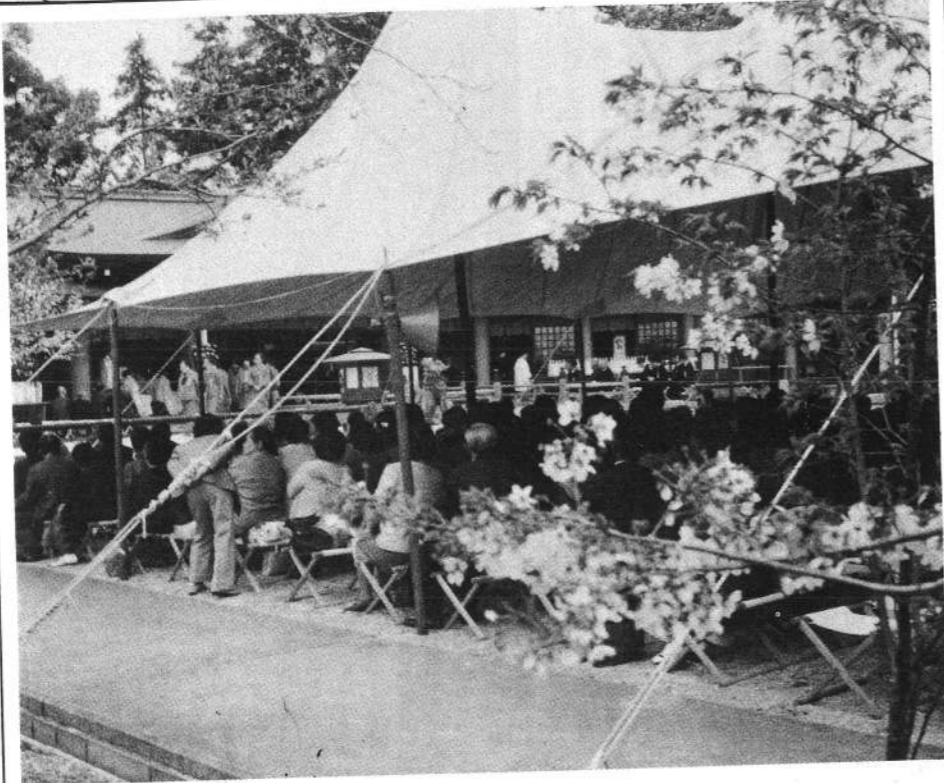
御造営事業の一環として、御遺族のたつて
の希望により遺品館が設置されました。
特にこれは青少年の教化を目的とし、御英霊
の遺書遺品を中心に、明治より今日に至るま
での資料等を奉置陳列するものです。

尚資料とは今後とも差し伝えていかねばな
らぬもので、生環された戦友の方々の書類品
物を始め、歴史的に貴重なものを含みます。
諸般の都合により奉納された全てを奉置陳
列出来ない場合がありますので、予め御了承
下さいませようお願いします。

お知らせ

靖国神社 献詠歌募集要綱
御創立記念日祭 靖国神社では御創立記念に、広く全国から
献詠を募集されております。献詠歌は神前に
供えられ、預選歌は古式により披露の式をさ
れます。是非献詠下さい。

一、兼題 「声」
一、締切 四月三十日
一、献詠送付並問合先
東京都千代田区九段北三丁目一番一号
靖国神社社務所 弘報課 献詠係
電話 〇三(二六一)八三二六(代)



桜花満開の下での春の慰霊大祭



昭和59年7月1日発行
所 三重県護国神社
津市広明町387
(0592) 262559
〒514
発行責任者
宇治土公貞幹

主な慰霊祭

- 十月 安芸郡遺族会慰霊祭 一五〇名
- 三重翔飛会慰霊祭 四二名
- 十一月 津市遺族会慰霊祭 二〇〇名
- 三重ラパウル方面慰霊祭 四二名
- 迫十四大隊三一〇八部隊戦友会慰霊祭 九名
- 三月 元歩一三三聯隊十中会慰霊祭 三七名
- 九月 名張市遺族連合会
- 十月 鳥羽市遺族会婦人部
- 三重県遺族会(父母への感謝の集い)
- 大王町遺族会名田地区
- 阿山町遺族会榎田地区
- 十一月 伊賀地区遺族会婦人部
- 島ヶ原村遺族会青年部
- 鈴鹿市遺族会牧田地区
- 飯南町遺族会
- 十二月 中勢地区遺族会婦人部
- 阿山町遺族会
- 近鉄タクシー
- 一月 桜友会
- 津市橋北地区社会福祉連絡協議会
- 東洋信託銀行津支店
- 大和ハウス工業株式会社
- おぼろタオル株式会社
- 百五銀行津駅前支店
- 株式会社日本旅行津営業所
- 第三相互銀行津支店
- 株式会社池田組
- 笹村測量株式会社
- 全日本自動車販売労働組合
- 中部地区三重自動車支部
- 三重ハイム
- 近畿日本鉄道江戸橋保線区
- 津市遺族会
- 日本ボーイスカウト津第七団年少隊
- 大川学園剣道部

主な団体参拝

- 三月 元歩一三三聯隊十中会慰霊祭 三七名
- 九月 名張市遺族連合会
- 十月 鳥羽市遺族会婦人部
- 三重県遺族会(父母への感謝の集い)
- 大王町遺族会名田地区
- 阿山町遺族会榎田地区
- 十一月 伊賀地区遺族会婦人部
- 島ヶ原村遺族会青年部
- 鈴鹿市遺族会牧田地区
- 飯南町遺族会
- 十二月 中勢地区遺族会婦人部
- 阿山町遺族会
- 近鉄タクシー
- 一月 桜友会
- 津市橋北地区社会福祉連絡協議会
- 東洋信託銀行津支店
- 大和ハウス工業株式会社
- おぼろタオル株式会社
- 百五銀行津駅前支店
- 株式会社日本旅行津営業所
- 第三相互銀行津支店
- 株式会社池田組
- 笹村測量株式会社
- 全日本自動車販売労働組合
- 中部地区三重自動車支部
- 三重ハイム
- 近畿日本鉄道江戸橋保線区
- 津市遺族会
- 日本ボーイスカウト津第七団年少隊
- 大川学園剣道部

御厚意

奉仕

- 鳥羽市遺族会婦人部 二六名
- 大宮町遺族会青年部 四名
- 伊賀地区遺族会婦人部 四三名
- 中勢地区遺族会婦人部 八六名
- 倉庫出入口補修
- 庄村正雄氏(軍恩連盟津支部長)

資料奉納

奉納

- 雑巾(殿内清掃用) 伊賀町遺族会婦人部
- 百度石 樋尾吉男氏外(四日市市)
- 掃除機 光ヨ一電気商会
- 中部太平洋方面海図 四枚
- 山崎正男殿(四日市市)

責任役員交替(三月二日付)

- 退任 三谷祇賀 一月二十一日帰幽
- 日比義平
- 宇野誠一
- 山本三千男
- 元三雲村村長
- 三雲村名誉村民
- 三重県遺族会副会長
- 桑名市遺族会々々

「万灯みたま祭」献灯のお願い

万灯みたま祭は七月二十三日より斎行されますが、献灯のお願いについては準備の都合上、本紙に献灯申込書を折り込んでお願いしております。春の慰霊大祭に参列の折にでもご持参ご奉納下されば幸に存じます。



清掃奉仕

慰霊祭斎行の予定

- 四月八日 元歩兵第五一聯隊戦死者慰霊祭
- 高瀬貞一 津市栄町三丁目六九
- 五月二十七日 元歩兵第一三三聯隊十一中隊戦死者慰霊祭
- 前田隆治 志摩郡阿児町鶴方一六六五
- の
- 六月一日 ホロ会(独立歩兵第三五六大隊)慰霊祭
- 近藤 正 桑名市深谷町二二〇三
- 六月十日 雄飛会慰霊祭
- 堀 祐一 津市垂水二六七〇の一〇〇

おもな内容案内

「天幕奉仕の思い出」……………二頁
「三重県軍恩連盟会長 井田繁一」
「桜花満開の下での春の慰霊大祭」……………一頁
今年の寒さは例年になく厳しく、長く続きましたが、意外な贈り物をしてくれました。春の大祭は咲き競う桜花の下で斎行。

これからの主な祭典

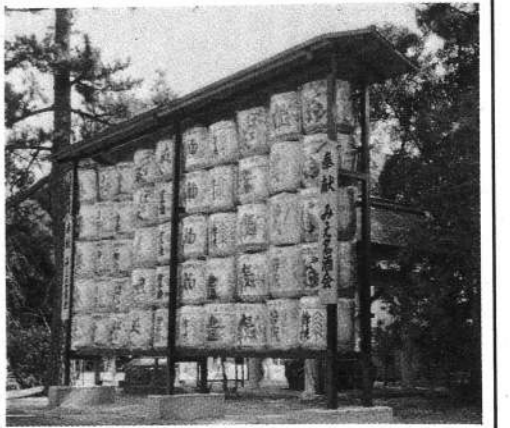
七月二十三日(二十五日) 万灯みたま祭
五千余灯の提灯・行灯を燈し、社殿・境内を照らし御英霊をお慰め申し上げます。
尚期間中昇殿参拝の方に「万灯うちわ」進呈
七月二十四日 式年みたま祭
本年は総御柱数の約三分の一に当ります二万二千余柱を慰霊申し上げます。
八月十五日 終戦の日英霊感謝祭
九月二十三日 秋分祭

県下の慰霊社・忠魂碑

平和の宮 一志郡白山町大字 川口七二〇番地 祢宜 森岡壽郎
白山比咩神社境内社 祢宜 森岡壽郎
御祭神 戦没英霊一五六柱
御創祀 (委細不明) 終戦後で並木地区の白山比咩神社合祀以降と思われる。
例祭日 九月十五日



平和の宮
間口 117cm
奥行 147cm



神酒奉納

三重県酒造組合連合会 「三重の光」
宮崎本店 「宮の雪」
みえ名酒会 十二社
「錦杉」「若成」「はま娘」「初日」「翁」
「君子蘭」「さざれ石」「旭金時」「初波」
「伊勢」「老緑」「青雲」

人事異動

退任 祢宜 石上紀男 十二月一日付
就任 権祢宜 内田和夫 三月一日付
巫女 福山あけみ 三月二十一日付
権祢宜 小林征男
祢宜に任ず 二月二十九日付

編集後記

〇今年春の訪れが遅いようで、まだ雪まじりの寒い日が続いております。雪のため参拝が出来ないという便りも聞かれました。明日は夕刻より合祀祭が斎行されます。まだ続く寒さにご参列の様子も心配されます。花の便りも遅れ、四月の例祭頃にもチラホラと多少は残っているかもしれません。皆様の御参列をお待ち致します。小林記

忠魂碑

一志郡白山町大字 川口七二〇番地 祢宜 森岡 壽郎
白山比咩神社参道側 十三社
慰霊柱数
御創立 大正十一年四月
御立 忠魂碑
元師陸軍大將正二位
勳一等功一級子爵 川村景明書
(裏) (明治元年より明治二十七年、明治三十七年・三十八年・大正七年の戦病死者十三名の氏名を刻す)
大正十二年四月建之帝口存郷軍人会川口村分会



忠魂碑
板状自然石
一部 研磨

『天幕奉仕の思い出』

三重県軍恩連盟
会長 井田 繁一



三重県護国神社では、終戦後早くから、春季慰霊祭及秋季慰霊祭等に多勢参拝される遺族・崇敬者・戦友のため天幕二棟(約八百人収容)を張り、祭典の威容を高めると共に、雨風や日射に備えてきました。

天幕は殆んど見かけない光景であります。併し、昭和四十七年以前は、構造が簡単でありまして、少し強い風雨にも耐えられず、前日建てた天幕が、祭礼当日の朝来て見ると倒れていることがしばしばありました。天幕奉仕責任者として口惜さに大地を叩いたことも度々ありました。

約二十五名の体力ある経験者を要します。従軍中厳しい訓練を受けた軍恩連盟会員や各種戦友会等が一隊となり、雨風を物ともせず、十年間続けて参りました。その間、ご神殿の中からご祭神が、「お前等よう来てくれた。ご苦勞さん。」と語りかけて下さるような気がして、実に清々しい思いに浸って直会を頂いたことでもありました。



青銅製「寛」奉納さる

去る五月十三日、五一会の中川郡之助氏(桑名市)より、青銅製「寛」が奉納され、齋館玄閣前の水盤に取り付けられた。これまで使用していた寛は、竹製で耐用年数も短かいものであるのに対し、今度奉納されたものは青銅製で、孟宗竹より型を取り表面を薬品に変色させ、神社の御手洗にふさわしいものと云う意図で作られており、大きさは約高さ二〇cm、太さ(上)七・五cm(下)十一cmで見ると、重厚感のある立派なもので永久的に使用できる。

御造営事業の経過

昭和59年
3月30日 建設委員会開催
事業報告並御造営会計決算報告
建設委員四十二名出席
5月2日 建設後一年経過による建物検査
安藤神宮営繕部次長 中西日本土
建現場主任他
以後不備箇所数箇所を補修



御造営建設委員会開催

テント設置、撤収の御奉仕

春秋の大祭の準備として参列席のテント設置作業がある。この作業は軍恩連盟を中心に「英霊にこたえる会」の会員の方々のご奉仕によって行われるが、何分にも重労働で、気をぬく事の出来ない危険な作業である。



永代神楽講入講者芳名

自昭和五十九年三月一日
至昭和五十九年五月三十一日
桑名市 加藤こと 四日市市 山本才治 鈴鹿市 市川なみ 亀山市 新開きみ 伊東市 上野市 廣澤すえ 名張市 岡田宣恵 坂井スギノ野家英治 松阪市 村田美代子 森本つね 中葉たつ 堀之内はる 伊勢市 玉田さく 鳥羽市 斎藤いさ 熊野市 島田清 三重郡 藤島薫夫 堀田正春 森田隆三 阿山郡 西口はる 西口寿子 増岡喜美子 山本みさを 安芸郡 松谷岩雄 山下フミオ 上嶋千代 一志郡 竹内ひな 田中保生 坂口邦男 米倉功 飯南郡 山本秋男 杉坂志 度会郡 浜地勝子 大西清次 (敬称略) 県外 滋賀県 島内治子 (敬称略)

遺族のたより

『御英霊の便り』

常夏の國とばかり思ってたみた〇〇〇の地にも清涼な秋がおとつれて参りました。遙か紅葉にそめられた故國の空を眺めては皆様が如何が御暮しやと思ひつかべてみます。

必死にありその時人は清く強しその時人は心洋々として豊なのは我々民族のならびである。人は死をいそがねど死は前方より来る死を減するの道唯必死あるのみ

浦田茂命 陸軍曹長
昭和十九年十月二十四日
ビルマ國に於て戦歿

紙上にてご免下さいませ。昨日四月二十六日振替にて永代献灯として参万円送らせて頂きました。英霊方々をよりよく明るくしてさし上げたいの願いです。何とぞよろしくお願ひ申し上げます。去る二十一日春季大祭の時心ばかりの神饌料をおあげいたしました

『編集より』

去る四月末、大阪にお住いの浦田スマ子様より厚いお手紙が寄せられました。中にはお便りに添えて、大切に保存されてあったご様子の英霊のお手紙と、母の心を切々と詠まれた歌が同封されてありました。

永代献灯者芳名

自昭和五十九年三月一日
至昭和五十九年五月三十一日
桑名市 水谷健一 竹尾和美 加藤博 加藤忠衛 水谷隆夫 水谷照男 加藤さわ 四日市市 山本きぬ 堀田まさ 村島儀一 川森りょう 後藤のぶ 荒木ユリエ 服部志づ 磯部まつき 渡辺あい子 市川なみ 浅野かの 益川住枝 前田幸子 龜山市 町たね 伊藤正男 伊藤志づ 上野市 橋本三男 廣澤すえ 津市 津田婦み 西尾すみ 青山志か乃 沢口志づ 佐野志寿へ 松阪市 中山八 田中かう 小島美代 高橋可郎 伊勢市 番場久夫 河村幸次 一志郡 平田武 今城あう 吉田泰久 服部要 服部シゲ 浦田博 秋葉ナヲ 平松増吉 平松タ子 志摩郡 松村マツエ 員弁郡 長野テツエ 種村ふさ 梅山くに 長野忠美 伊藤すず 名賀郡 井上弘子 森下うめ の 仲内千代枝 馬岡よしえ 多気郡 福田映 小竹伊郎 村田あや 浦田小右衛門 安芸郡 大森ちる 馬杉シゲノ 角田茂 名倉実 上嶋千代 落合春雄 岡はつ江 三重郡 水谷信雄 飯南郡 阪口よしへ 曾根郁夫 南牟婁郡 鈴木あきの 田中さわえ 向井ちえの 向井きり系 田中よみ系 上野タマエ (県外) 吹田市 浦田スマ子 大阪市 飯柴ハギ (敬称略)

新能

恒例 奉納新能は来る十月三日に奉納される運びとなりました。喜多流職分長田曉氏、津長袖会の面々により毎年秋に奉納されており、今回で七回目をお知らせ致します。今年の新能もほぼ決定しましたのでお知らせ致します。

奉納日時 昭和五十九年十月三日午後五時
奉納番組 班女 大島 政允
小鍛治 長田 曉
他に狂言一番、仕舞数番

万灯みたま祭

万の灯をもつてみたまを慰め
護国の神様に平和を感謝し、
幸福と繁栄を祈念しましょう

祭典

式年祭 二十四日午前十時より斎行
式年該当祭神の祝年を参列証に記してあり
ます。該当御遺族は御参列下さい。
万灯みたま祭 二十三日、早朝より午後三時まで随時慰霊
祭斎行 午後七時より午後十時まで昇殿参
拜
二十四日 午後一時より午後三時まで随時
慰霊祭斎行、午後六時より午後十時まで昇
殿参拜
二十五日 早朝より午後三時まで随時慰霊
祭斎行、午後六時より午後十時まで昇殿参
拜
点灯式 二十三日午後六時三十分点灯式祭典
午後七時協賛会長の手により一斉に点灯
行事
子供みこし 二十三日午後五時三十分
神社より津駅周辺を練り午後七時神社到着
子供献書画表彰式 二十三日午後六時
拜殿前にて優秀作品を表彰
奉納詩吟 二十四日、二十五日午後五時から
六時 吟詩舞奉納団により拜殿前に於て奉
納
盆踊り 二十三日より二十五日の三日間午後
七時三十分より
のどじまん大会 二十四日、二十五日午後六
時から七時
ほおずき市 みたま祭期間中
鉢植ほおずきを用意します。

「あんどん」の奉納(子供献書画)

絵や習字をかいて
神さまに奉納しましょう
題(絵) 「神社と緑」
(習字) 低学年「ほおずき」
高学年「朝顔」
応募資格 小学校児童、中学校高等学校生徒
応募要項 あんどんにするため特別の紙が神
社に用意してあります(郵送希望
は六〇円切手添付の事)
この外各市町村の遺族会長様を始
め婦人部長さん宅青年部長さん宅
にも届けましたのでお申出下さい
七月十日までに到着のこと
審査 参加賞の他、優秀なものには賞状
賞品が贈られます。
締切 七月二十三日午後六時より
表彰 七月二十三日午後六時より
展示期間 万灯みたま祭期間中
「万灯うちわ」を差し上げます
ご参拝の記念に「万灯うちわ」を用意してお
ります。御家族揃っておまいり下さい。
夕刻も御参拝下さい
年々夕刻よりの御家族づれでの参拝が多く
なり、昨年からご希望にそうよう、夕刻か
らの昇殿参拝を御奉仕しております。
尚行事等の都合により祝詞奏上、神名奏唱
を後刻とさせていただきますとも思わ
れますので予め御了承下さい。

御厚意

奉仕
境内清掃
大宮町青年部 四名
松阪市遺族会婦人部 一六〇名
奉納
青銅製寛 (斎館前水溜用)
中川郡之助氏(桑名市)
U字溝鉄蓋
岡野工業所 岡野俊治氏(四日市市)



遺品奉納

御英霊のお手紙 一通
浦田スマ子殿(吹田市)
貴重品袋 一点
軍靴 一足
辻当志殿(津市)

主な慰霊祭

三月 三・一六会慰霊祭 四八名
一三三会慰霊祭 三〇〇名
四月 元歩兵第三十三聯隊第九中隊八・九年
兵戦友会慰霊祭 二四名
五一会慰霊祭 五〇〇名
約第一二〇二部隊藤原隊慰霊祭 二〇名
五月 元歩兵第三聯隊第九中隊昭和五年兵
慰霊祭 七名
一三三聯隊第十一中隊慰霊祭 六七名

主な団体参拝

三月 東部軍恩会
志摩郡遺族会
四月 近歩二会三重支部
大王町遺族会波切地区
員弁郡遺族会
五月 海山町遺族会引本地区
多賀大社多賀講員
松阪市遺族会婦人部
五一会

慰霊祭斎行の予定

七月二十一日
東部二ユーギニア戦友会慰霊祭
森本勘助 飯南郡飯南町大字横野
十月十日
元歩兵第三聯隊第三機砲中隊
川村 龜山市
編集後記
△今回より「参列証」を本紙に折り込み、配
布のお世話をいたたく役員方々、世話役方々
のお手間を多少なりと少なく考えました。
△万灯みたま祭は、春秋の御例祭が「持」を
著けた厳肅なる祭典に対し、ゆかたがけで御
英霊と共に楽しむ祭りです。「みあかし」を
献する夜が一層きれいです。気楽にお誘い合
わせお参り下さい。 小林記

おもな内容案内

爽秋を迎えて……………二頁
宮司 宇治土公貞幹
御造営会計決算の報告……………三頁
前号の紙面都合上、今号にて掲載御報告、
改めて皆様の衷心御奉賛を深謝致します。
県下の慰霊社・忠魂碑……………一頁
永代神楽講入講者・永代献灯者芳名……………三頁

これからの主な祭典

十月二十一日 秋季慰霊大祭第一日祭
二十二日 秋季慰霊大祭第二日祭
十一月三日 明治祭 文化の日
十一月十五日 七五三祭三日より二十五日まで祈禱
十一月二十三日 新嘗祭 勤労感謝の日
十二月三十一日 大破式・除夜祭
一月一日 歳旦祭 初もうで
二月十一日 紀元祭 建国記念の日
二月十七日 祈年祭
三月三日 ひなまつり
三月二十一日 春分祭

県下の慰霊社・忠魂碑

祖 霊 社 多気郡明和町
大字中村一〇二九番地
皇田神社境内社 宮司 早山 五月
御祭神 戦歿英霊一四九柱
御創祀 昭和二十五年四月二十日
例祭日 四月五日 十月十日 年二回
御由緒 皇田神社の式年御造営にあたり、本
殿遷座後の仮殿を戦歿者又地域社会に貢献し
た人の霊を祀る祖霊社としてと提案、全役
員の賛成を得、地域遺族の要望に応じて御創
祀されたものである。
忠 魂 碑 桑名郡多度町大字香取
字蛸江二二六・二
内母神社(鳥居傍ら) 宮司 小串 芳夫
慰霊柱数
祭典日 四月第一日曜日



祖 霊 社
神明造 1.6平米



碑石米 3.2
魂磨 3.2
忠研高幅



昭和59年 9月1日 発行
行 所
三重県護国神社
津市明町387
(0592)262559
〒514
発行責任者
宇治土公貞幹



秋の気配 色づく紫式部

爽秋を迎えて

宮 司 宇治土公貞幹

御英霊と皆さまとの御蔭を以て、造営事業は予定以上の成果を得、今春その決算を監査の上、建設委員会に報告し御承認を受けることが出来ました。この社報に掲載しました。また、造営期間中に寄せられた御心づけを御礼申し上げます。誠に心なげに御礼申し上げます。誠に心なげに御礼申し上げます。誠に心なげに御礼申し上げます。

祭 事 録

今年度の万灯まつり祭は、例年以上に厳粛に執行致しましたが、今回は特に県議会議員の方々が新たに結成をいたしました。英霊に感謝して当社に参拝する会の方々が参列を

されておりましたことは、まことに感銘深いことになりました。社頭に奉納いただいた常夜燈の、萬葉集の防人の歌については、時々おたずねを受けてありがたく思います。社務所に解説の印刷物を用意しておりますのでお申出下さい。今年度は、伊勢の神宮では天皇陛下の御聴許があり、いよいよ第六十一回式年御遷宮が具体的に動きはじめることとなりました。前例によりまずその最初の行事としての御種代木奉曳が来春御斎行かと思われ、木曾のお山から陸送に当って当社へ一泊いただけるのではないかと考えられます。御奉賛を期し、民族の盛典の御ありがりを待望致します。秋の恒例の慰霊の例大祭の日が近づいて来ましたが、お志願の方々の御奉仕応援を得て、今年も準備を進めております。御健勝で賑々しく御参列下さいませようお待ち致します。

終戦の日英霊感謝祭

三十九回目を終戦の日。毎年終戦時と同様に輝き、熱烈な陽射しの中で祭典であったが、今年は一変し、ご社殿のお屋根にたたきつけばかりの激しい雨の中「終戦の日英霊感謝祭」が斎行された。神社役員、市町村長、郡市遺族会長、戦友会代表の方々の参列に加え「英霊にこたえる三重県議会議員の会」の参列を得た。かつて三重県議会に於て靖国神社公式参拝について決議されたが、未だ実現しておらず、英霊奉斎の念深き県議会議員の有志により発足したこの会の、実現に向けての参列と相成った。祭典終了後引き続き拝殿に於て、全国戦没者追悼式に合せ、正午に黙禱を捧げ、天皇陛下の御言葉をお聴し、意義深い一日を送った。



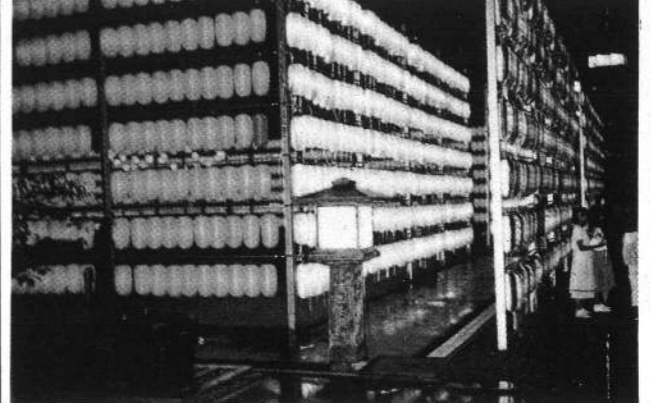
子供献書画表彰

献灯内訳

奉納行灯	467灯
県外在任出身著名人揮毫行灯	157灯
県内著名画家書家揮毫行灯	177灯
子供献書画行灯	398灯
奉納提灯	4196灯
小型提灯(遺族・一般奉納)	225灯
中型提灯(会社・商店奉納)	28灯
大型提灯(団体・組合奉納)	4915灯
合計	4916灯

子供献書画受賞者

- 木下ちえ 鳥羽市幼稚園
- 佐藤ひろゆき 津市幼稚園
- 柴田やよい 津市小一年
- 石田英伸 鈴鹿市小一年
- 横井宏美 桑名市小二年
- 加藤志保 桑名市小二年
- 田中純 津市小三年
- 草川充 津市小三年
- 小野真理子 伊賀町小四年
- 小島由加里 津市小四年
- 富士原由香 津市小五年
- 東吉一 御浜町小五年
- 久岡亮子 津市小六年
- 田中一也 津市小一年
- 小林倫子 津市小一年
- 日下裕之 津市中一年
- 小野田大助 津市中一年
- 板生由美子 津市中二年
- 松尾裕次 津市中二年
- 川北直史 津市小二年
- 奥田裕子 津市小五年
- 松尾泰行 津市小五年
- 久志本麻千子 河芸町小六年
- 四日市市小六年



永代献灯者芳名

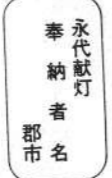
- 自昭和五十九年八月三十一日
- 四日市市 中村正夫、松林まさ、鈴鹿市 杉野平三良、杉本裕紀、浅田はしる、小川久雄、西條住吉、清水サカエ、鈴木テル、前川シカ、萩野志子、樋口勇、三井三之助、萩野久子、尾崎うめ、亀山市 原田志かを、元原善秋、元原藤平、国分きぬ、松島花枝、上野市 神戶悦子、森本利男、濱地佐太郎、留森まさへ、亀井一枝、森岡年重、岡松隆、津市 青山雅夫、古市静子、池田義民、後藤力、三谷アイ子、松阪市 川村貞、伊勢市 堤きみ、鳥羽市 竹内ちた、員弁郡 三林岩男、富永静、三重郡 伊藤たみ、泰正春、阿山郡 竹島しず、稲森武、西尾幸彦、高森貞、安芸郡 中川源一、志都 谷精一、加藤ひろ、前田アサエ、安保ふみ、林かね、林きよ子、山岸節蔵、奥田延孝、坂口保、阪井小むめ、前野和臣、飯南郡 奥達新司、度会郡 瀬尾秀夫、田中い志、河口正之助、志摩郡 福岡治、一色田ます、南牟婁郡 滝川むめ、(県外) 京都市 氏家千代 (敬称略)

永代神楽講入講者芳名

- 自昭和五十九年八月三十一日
- 桑名市 水谷治郎、佐藤正子、松岡志津、城田道雄、四日市市 鈴木よし江、村木てい、小林と志子、川崎藤一、吉原ひな、伊藤久昭、市川ふじ、岡田幸雄、鈴鹿市 木下いし、荒木たま、飯倉いわ、亀山市 田中義香、原田志かを、国分清周、上野市 田中むめ、川口勇、名張市 浜地志子、森本利男、今井茂郎、津市 戸高トモエ、津坂美美子、細川茂松、小柳はな、勝田節、伊勢市 大脇きみ、尾鷲市 山城日出男、熊野市 大西とみ、み、刑屋む津、桑名郡 竹内重夫、服部さき、員弁郡 小林良太郎、種村政良、伊藤ひさ子、三林岩男、三重郡 木梨美登里、堀田国太郎、紙野良敏、伊藤正雄、安芸郡 嶮山のお、一志郡 阪井小むめ、長谷川わき、長谷川まつ子、谷精一、萩野貞一、向井清一、飯南郡 森本さよ、多賀郡 小林まさ、大橋さき、小笠原信枝、須賀郡 度会郡 藤倉安太郎、中村安吉、志摩郡 福岡治、北牟婁郡 伊藤五夫 (敬称略)

永代献灯奉納のお願い

万灯まつり祭は、夏の光の祭典として、特に親しまれ、多くの参拝者を迎え盛大に斎行致しております。この祭典を子々孫々にわたって斎行し、永遠に慰霊の誠を捧げようと、すでに御遺族を始め、崇敬者、戦友らより御奉納戴いておられるのが永代献灯ですが、より一段と意義深く、斎行できますよう、永代献灯の御奉納をお願い致します。献灯は、図のよう、御奉納戴いた方のお名前を墨書きして毎年の万灯まつり祭にかかげ点灯致します。永代献灯料 一灯 参万円



御造営会計決算報告書

収入の部		
項目	金額	備考
奉賛金	280,319,920	詳細は内訳書に記載
繰入金	96,592,439	神社特別会計「御造営積立金」より繰入
預金利子	15,306,224	預金利息
雑収入	4,073,600	遷座祭、奉祝祭玉串料その他
合計	396,292,183	
支出の部		
項目	金額	備考
祭儀費	14,176,759	地鎮祭、遷座祭、奉祝祭等祭典諸経費、御神宝調度調整費
建築費	305,898,491	神社殿修造、参集殿改築、倉庫、屋外便所、玉垣補修、BS津七団本部等雑工事、地質調査、測量経費、設計御礼他
境内地費	47,375,130	境内地購入金、舗装整備費、常夜燈調整設置費
備品費	3,963,471	机、椅子、等備品費
教化費	5,881,000	記録ビデオ、参拝のしをり作製費、造品館修造費
事務費	13,325,962	趣意書、募金袋等印刷、領収書、案内状等送付の通信費、臨時雇員等の諸給、旅費、会議費等
諸費	5,671,370	御造営記念品等調整
合計	396,292,183	

三重県遺族会	34,396件	198,346,800円
県外御遺族	104件	1,434,500円
県内神社神職	440件	6,360,000円
各戦友会	16,428件	33,968,620円
三重県軍恩連盟	(12,728件)	17,156,120円
三重県傷痍軍人会	(1,787件)	3,867,000円
133会	(734件)	5,912,500円
51会	(407件)	3,384,000円
三八ビルマ会	(26件)	1,279,000円
三重県郷友連盟	(531件)	1,342,000円
三重県隊友会	(68件)	204,000円
三重県偕行会	(69件)	273,000円
明野忠魂塔顕彰会	(45件)	180,000円
三重翔飛会、ラパウル方面会		
沖繩友の会、海友会、雄飛会	(33件)	371,000円
歩33会、南集星会、各航会		
崇敬者	882件	35,410,000円
「県内」個人、企業、医師会、農協等団体	(694件)	31,332,000円
「県外」県出身個人、企業、団体	(188件)	4,078,000円
常夜燈寄進 5団体 (6基分)		4,800,000円

この御造営会計決算報告書は、去る三月二十日に開催の建設委員会に提出し、承認されました。ここに改めて皆様方の御奉賛を感謝し、深く御礼申し上げます。前号社報の紙面都合上、今号に掲載御報告させていただきます。

主な慰霊祭

六月 ホロ会(比島派遣独立歩兵第三二五六大隊)慰霊祭 四九名
 雄飛会慰霊祭 三〇名
 昭八会(宮前尋常小昭和八年卒)慰霊祭 二五名
 昭六会(三十三連隊六中隊昭和六年年度徴集兵)慰霊祭 二二名
 七月 東部ニューギニア戦友会慰霊祭七八名

主な団体参拝

六月 上野市遺族会第一分会
 大山田村遺族会真泥地区
 大山田村遺族会出後地区
 一志町遺族会婦人部
 傷痍軍人家族の会
 大山田村遺族会平田地区
 傷痍軍人家族の会
 高岡神社敬神婦人会(一志町)
 国学院大学父兄会
 伊賀町遺族会婦人部
 島ヶ原村遺族会
 御浜町遺族会

御厚意

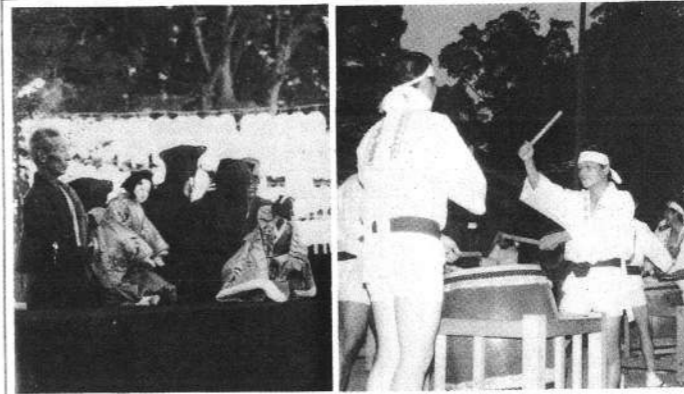
奉仕 境内清掃 四六名
 一志町遺族会婦人部 三九名
 傷痍軍人家族の会 三九名
 万灯みたま祭準備 三九名
 高岡神社敬神婦人会(一志町) 一三三名
 桜友会 一三三名

英霊奉斎基金奉納者芳名

(二〇一万円)
 一口 雄飛会

万灯みたま祭に 神事芸能奉納のお願い

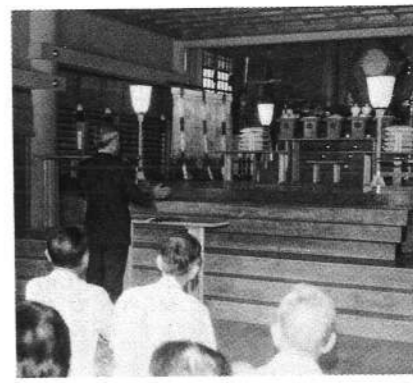
夏の夜の名物として広く県民に親しまれております万灯みたま祭に種々の神賑奉納があり、その中で県下各地に伝承されている神事芸能を、毎年御奉納いただいております。かつては御英霊自身か、その地区の神事芸能の継承者として氏神様に奉納された事もあったであろうと存じますが、鎮守の森をあとに出征され、今郷土の守り神と祀られた六万余柱の御英霊に、当時そのままに受け継がれている床しい芸能を懐かしく御覧いただくべく各地に奉納を呼びかけております。この趣旨を御理解いただき、皆様方々の地区のものを御紹介、御推薦いただきますようお願い申し上げます。



奉納された神事芸能

新穀奉納

三重県食糧卸販売協会は今年穫れた新米を先づ御神前に奉納と、去る八月二十八日同社中條信男社長を始め幹部二十名が打ち揃い神前にて奉告祭を斎行、新穀を献じて日頃の繁栄を感謝した。
 この三重県食糧卸販売協会は神社の筋向いにあって「ミエライス」と親しまれており、常々神社運営・英霊奉斎にご奉賛をいただいている。



新穀奉納奉告祭

慰霊祭斎行の予定

- 十月七日 安芸郡遺族会慰霊祭
- 白鳩遺族会三支部愛知岐阜三重合同慰霊祭
- 加藤 茂 名古屋南区呼続町一ノ五十一
- 十月十日 第三十三連隊第三機関銃中隊慰霊祭
- 川村忠吉 亀山市木下町四〇〇
- 十月十四日 第十九回ソロン会三重支部慰霊祭
- 伊藤文治郎 松阪市北町九八五
- 十一月四日 三重翔飛会慰霊祭
- 木村義一 鈴鹿郡関町新所町一九七二

おもな内容案内

「奉祝 御在位六十年」……………一頁
 本年は今上陛下御在位六十年という誠に
 お目出度い佳き年であります。
 昭和五十年、当神社に行幸啓を賜わりました記念すべき御写真を掲げ、聖寿の弥栄と皇室の御安泰を御祈念申し上げます。

これからの主な祭典

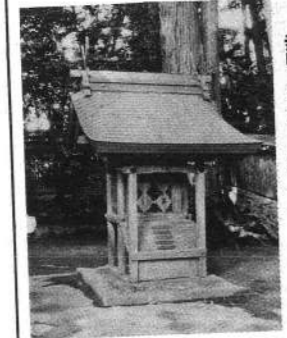
- 四月一日〜三日 就学祈願祭
- 四月二十一日 春季祈願祭
- 四月二十二日 天長祭
- 四月二十九日 大祓式
- 六月三十日 大祓式

忠魂碑

比自岐神社境内社 宮司 浦田 正克
 御祭神 戦没英霊四十九柱
 御創祀 昭和三十年九月
 御祭日 九月二十一日
 御由緒 明治四十一年の合祀令による合祀に
 よって、天満社の社殿が空殿舎となっていた
 が、昭和三十年前宮司の提案により日清戦争
 以下の四十九柱の英霊を祀ることとなったも
 のである。祭典には遺族会は元より市長同議
 長を始め多くの来賓が参列する。

忠魂碑

比自岐神社境内 宮司 浦田 正克
 慰霊柱数 四十九柱
 祭典日 九月二十一日
 御創立 大正六年九月
 御立文(表) 忠魂碑 安正書
 (横) 大正六年九月建立
 御由緒 小学校奉安殿横に建立されてあった
 が、終戦に至り世情により、分解放置されて
 いたもので、昭和三十年村民の総意により現
 在地に移し再建したものである。現在地区内
 の遺族会が管理等に当たっている。



護国社 流れ造り 0.5坪



忠魂碑 石碑高 4m 角柱高 5.5m



昭和60年 4月 1日発行
 発行所 三重県護国神社
 津市広明町387
 電話(0592)262559
 〒514
 発行責任者 宇治土公貞幹

奉祝 天皇陛下御在位六十年



意義深い年に

昭和六十一年の今年、天皇陛下が御即位になりましてから六十一年目、いわゆる御在位六十年の目出度い年です。

今二十世紀の第一年に誕生された陛下は、激動苦難の時代を皇祖の遺徳をそのまに、国民の指針となり鏡となつて来られた事は、ことに尊くありがたいこととあります。

丁度十年前の昭和五十年十月二十七日、親しく当神社の神前に幸賜りました事を憶いおこすのですが、当時御即位五十一年の各種行事を執り行ったことを受け、政府は満五十年の式典を開催されました。

今回も国は満六十一年の行事を来年に予定しておりますが、われわれはその前提として、国民の盛り上りとしての数え年六十一年の事業を各地で盛大に開いて行きたいと思つて存じます。

今年には又、戦後四十一年の歳であり、これは、御英霊を奉斎する神社として洵に意義深いことと存じます。終戦の八月十五日の祭儀は勿論年間を通じてそれにふさわしい年として行きたいと思つて存じます。

戦後四十一年の倍の八十年としては、日露戦争の記念の年です。日露戦争が明治維新で

開国されたわが国に対して持つ意味、そしてその後に對して持つ意味を十分に味わい、今後の御英霊の祭祀はもとより、あらゆる事柄に参考として行かねばならないと思つて存じます。

今年には更に、第六十一回神宮式年御遷宮の行事が開始される年です。戦後生れ世代の国民の数が多くなつた今、この御遷宮がわが国の将来に持つ意味は大へん大きいものがあります。

五月には山口祭がとり行われ、六月には御種代木の奉送迎奉送があります。前回は書きました当神社へのお泊りが決定し、多分六月十日に神前に一泊される予定で、厳格に送迎の祭典を奉仕することをはじめ、挙げて奉祝したいと思つて存じます。

この年にあつた、御造営奉賛をいただいた県下の方々から、御英霊の祭祀を永遠に奉仕し続けて行くために、奉賛会というふうなものをつくりたいという有難いお話が出て来ております。御趣旨にお応えして、準備を進めさせていただきたいと思つて存じます。

御遺族崇敬者の皆様の一層の御健勝をお祈り致します。

前回は書きました、御種代木の奉送迎奉送の日程（昭和四十年六月）

六月三日 御種代木 長野県上松・岐阜県付知

六月九日 伊勢大橋にて両県より合流

六月十日 桑名市に於て奉迎祭

六月十日 桑名市に於て奉迎祭

桑名市に於て奉迎祭 四日市々津津市へ

当神社に於て奉迎祭

午後、内宮用御種代木奉送祭行

の後伊勢内宮へ出発

外宮用御種代木当神社にて奉安

外宮用御種代木奉送祭行の後、伊勢外宮へ出発

御種代木奉送迎

本年は第六十一回神宮式年御遷宮が具体的に開始される年にあつたります。

先例により、六月月上旬に御種代木御奉製の御用材を長野・岐阜両県より切り出し愛知県を経由して伊勢へ御搬送奉送いたします。

前回は、津市内を御奉送の際に当神社を奉安所とし、奉送迎奉送を済行致しました。今度も同様六月月上旬に御行なわれるやに受けたいと思つて存じます。皆様、共に式年御遷宮の開始をお祝い申し上げます。

宮司 宇治土公貞幹

開国されたわが国に対して持つ意味、そしてその後に對して持つ意味を十分に味わい、今後の御英霊の祭祀はもとより、あらゆる事柄に参考として行かねばならないと思つて存じます。

今年には更に、第六十一回神宮式年御遷宮の行事が開始される年です。戦後生れ世代の国民の数が多くなつた今、この御遷宮がわが国の将来に持つ意味は大へん大きいものがあります。

五月には山口祭がとり行われ、六月には御種代木の奉送迎奉送があります。前回は書きました当神社へのお泊りが決定し、多分六月十日に神前に一泊される予定で、厳格に送迎の祭典を奉仕することをはじめ、挙げて奉祝したいと思つて存じます。

この年にあつた、御造営奉賛をいただいた県下の方々から、御英霊の祭祀を永遠に奉仕し続けて行くために、奉賛会というふうなものをつくりたいという有難いお話が出て来ております。御趣旨にお応えして、準備を進めさせていただきたいと思つて存じます。

御遺族崇敬者の皆様の一層の御健勝をお祈り致します。

祭 事 録

秋季慰霊大祭
菊薫る秋晴れの下、秋季慰霊大祭が十月二十一日二十三日の二日間に亘り行なわれた。大祭委員長には恒例により、田中亮太三重県議会議長に就任いただき、御遺族多数ご参列のもと盛大厳肅裡に終了した。



天幕奉仕を終えて

祭典の準備作業の中で、慰霊大祭の参列者用大天幕の設置は、重労働の上危険な作業の一つである。

現在にはかつて中心となつて奉仕された軍恩連盟並びに英霊に因る会の会員方々の助言指導のもとに、遺族会青年部が主力となつて御奉仕いただいている。

クレーン車を導入するなど機械化を図っているが、結果等は人力による他はなく、今回も庄村軍恩連盟支部長の助言指導を得た。作業は当初予想した時間より大分速く進み、約二時間程で設置を完了した。

奉納新能 十月三日

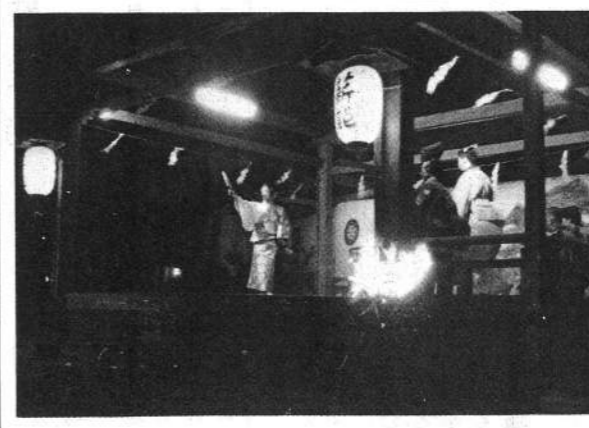
喜多流職分長田廣氏を始め、長袖会々員の薪能による熱意により、当神社奉納新能は今日で第七回目を迎えるまでに至つた。

当日は陽の高いうちより、待ち兼ねた観能参列者の人々が続々とつめかけ、境内は約一千名もの人々でいっぱいとなつた。

夕刻定時、先づ神前にて奉納報告祭を済行の後能舞台清祓を奉仕、続いて殿内より下げられた浄火は松明に移され、宮司と長田職氏の手により能舞台左右の篝火に点され、第七回奉納新能の開始となつた。

御神意にかなつてか、第一回目より雨天による順延中止という事は一度もなく、爽やかな秋の夜空の下、大鼓・小鼓・笛の音色は清々としたり、朗々たる謡と幽玄にして雅びなる舞臺に参列の人々は魅了されていた。

尚、本年第八回目の奉納新能は来る十月三日の予定で進められている。



訃 報

仲 公 氏 逝去
昭和五十九年十二月十六日帰幽
当神社の第五代宮司として、昭和二十一年四月より同二十九年九月まで在職。
赴任後直ちに例祭等の祭典執行の復旧を図ると共に、神社の財務の確立に努力され、今日の神社の基を形づくられた。
葬儀には宇治土公宮司が参列し、弔辞を捧げ御冥福をお祈り致しました。

お知らせ

和歌・俳句でみたまを慰霊
靖国神社では昭和六十一年の献詠歌・献詠句を広く全国より募集しております。
本年の献詠歌の兼題は「朝日」で、締切は四月三十日まで。
尚、応募の献詠歌・献詠句は靖国神社御神前に被講された後、夫々「献詠歌集」献詠句集」として本に編集、刊行し領ちます。
詳しくは左記にお問合せ下さい。
東京都千代田区九段北三丁目一番一
靖国神社社務所 弘報課 献詠係宛
電話 〇三(二六一)八三二六(代)

神 酒 奉 納

三重県酒造組合連合会 「三重の光」
宮崎本店 「宮の雪」
みえ名酒会 「十二社」
後藤酒造場 「青雲」・高橋酒造場 「伊勢」
山下酒造部 「初波」・九彦酒造 「はま娘」
十一屋野田商店 「さざれ石」
飯田酒造 「君子蘭」・油正醸造 「初日」
河武醸造 「錦杉」・辻井酒造 「老緑」
北村酒造 「旭金時」・重藤酒造場 「若戎」
森本仙右衛門商店 「翁」

永代神楽講入講者芳名

自昭和五十九年九月一日
至昭和六十年二月二十八日

桑名市 後藤忠守/斎藤公子 四日市市 矢田みつる/豊田雅義/近藤石乃/小柴ちよの山田文一郎/多川清次/大川宏子/田中又吉羽木ちよ/溝口保子/平田正二 鈴鹿市 榎本タケミ/樋口うたの/杉本裕紀/杉野ひで子/倉田高田 龜山市 天野遠久 上野市 大矢菅子/高田三郎 名張市 玉居もりへ/藤岡ますの/米澤まさる/奥家康博 津市 和田春枝/竹田浜蔵/西井昌雄/酒井なつと久居市 高田ふさへ/松阪市 最上永次郎/古御門元雄/村田さと 伊勢市 中西こさる/野呂静枝/大門なか/角屋なつ/中井きぬ/柴田きみ 鳥羽市 上村仙右エ門 尾鷲市 三鬼要 熊野市 片岡はつみ/片岡くす/川上初 桑名市 加藤正一 員弁郡 杉本仁太郎/近藤タキエ/瀬古清/岩花太郎/出口さみ 三重郡 川村久光/辻六三 鈴鹿郡 奥山さだ子 阿山郡 永井彦一 安芸郡 堀川ノブ 一志郡 浅井美知子/中村みつ/平松増吉/平松夕子/星間てつ 飯南郡 阪口あさの 多気郡 中西よう子/鳥本清寿 度会郡 橋本カヅミ/阪井幸雄/西井のぶ 中井節夫 志摩郡 山本敏夫/松村マツエ 北牟婁郡 浅川さみ 南牟婁郡 中野操/滝川むめ の(県外) 三木市 岡田貞子 寝屋川市 北田耕吉 (敬称略)

※前号一志郡の向井は向田さんの誤りでした訂正お詫びします。

永代神楽講入講料

御一柱………五万円
一分納による場合………
一回の納金は五千円以上とし、十回以内で分括納入下さい。

永代献灯者芳名

自昭和五十九年九月一日
至昭和六十年二月二十八日

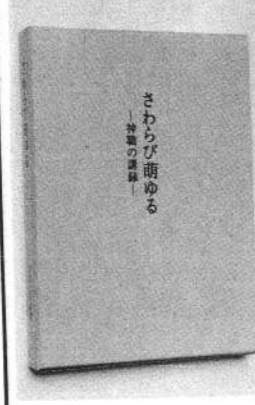
桑名市 服部ひさを 四日市市 森つゆ/森房子/加藤はつる/田中又吉/森たつ/小川信良 鈴鹿市 中村フデ子 龜山市 渡辺政生 上野市 前田良一 津市 森川みさる/山口越夫 松阪市 角谷好昭/最上もとる/久野たまの/太田うた/高橋つゆ 桑名郡 加藤正一 員弁郡 田中とく 三重郡 樋口甚九郎 名賀郡 柴田志かを 安芸郡 古市重正/古市みえ/前田茂/奥山朝次郎 一志郡 服部マサエ/松田すゑ 多気郡 永野きよう 度会郡 北川徳三郎 北牟婁郡 須永まつる/奥村しずか/岡本とく (敬称略)

永代献灯料

一灯………三万円
二月末日までの永代献灯奉納数は
一六三三灯となりました。

「さわらび萌ゆる」出版

宇治土公宮司は、昨年暮、神職四十年と還暦を迎えた記念として「さわらび萌ゆる」と題した講話集を出版した。本文は当護国神社春秋の慰霊大祭や諸祭典での挨拶又本誌に寄稿した講話を始め、本務の猿田彦神社及び、三重県神社庁、ボイススカウト等関係諸団体での講話をまとめたもので、祭事についても詳しく記されている。猿田彦神社奉賛講発行。



主な慰霊祭

九月 員弁郡遺族会 八五〇名
安芸郡遺族会 一五〇名
白鷺遺族会 三七名
第三連隊第三機関銃中隊 二〇名
朝陽会(元満洲朝陽村開拓団) 三四名
ソロモン会 一〇〇名
(元剛第四四六部隊) 二〇〇名
十一月津市遺族会 四四名
三重翔飛会 四五名
三重ラパウル方面会 四二名
一月 旧歩兵第三三聯隊第九中隊 二三名

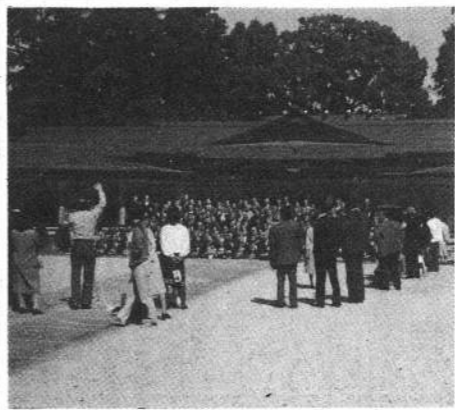
九月 三重県敬神婦人連合会役員
多気郡遺族会婦人部
一三三下士候友の会
飯南郡遺族会婦人部
鈴鹿市遺族会
大王町遺族会(父母への感謝の集い)
三重県遺族会(波切地区)
鳥羽市遺族会婦人部
阿山郡遺族会伊賀地区婦人部
十一月三重地区祭五一一会
美杉村遺族会
奈良市遺族会青壮年部
十二月中勢地区遺族会婦人部
一月 桜友会
津市橋北地区社会福祉連絡協議会
日本ボイススカウト津第七団クラブ隊
三重県遺族会(初会合)
津市遺族会
桑名市遺族会
安芸郡遺族会
上野市遺族会第二分会
三重県遺族会青年部
北勢町遺族会
二月 三重郡遺族会婦人部

御 厚 意

境内清掃奉仕
 多気郡遺族会婦人部 一一九名
 飯南郡遺族会婦人部 三三名
 鳥羽市遺族会婦人部 三三名
 阿山郡遺族会伊賀地区婦人部四五名
 名張市遺族会青年部 一一一名
 神社世話人(二日間) 一五五名
 中勢地区遺族会婦人部 九七名
 砂利奉納(朝明砂利一車分)
 森義高氏(菰野町)

父母への感謝の集い

遺族会婦人部主催による「父母への感謝の集い」が秋晴れの下、十月七日に開催された。当日御招待をうけた父母は百二十名、御英霊の父母にあたり高齢とあつて、婦人部や遺族会役員に手をひかれ募集された。先づ揃つて御神前に進み、最高齢者に合せ参拝、神社からは長寿箸を贈りお祝ひした。ひき続き社前で記念撮影、主催の婦人部の面々は自が父母に接するが如く招待父母に誠意世話をやかれ、会館にて楽しい一時を過ぎた。



「父母への感謝の集い」記念撮影



飯南郡婦人部の奉仕



名張市青年部の奉仕

宇治土公宮司

神職身分「特級」を授与される

去る二月、神社本庁より神職身分「特級」が、宇治土公宮司に授与された。これは多年に亘り奉仕神社の護持運営と御神徳の発揚に尽力し、また、神社界の発展等に寄与されたとしてその功績が認められ今回の功績者表彰となつたものであり、「特級」の身分は神職最高の身分であります。



多気郡遺族婦人部



伊賀地区婦人部の奉仕

慰霊祭斎行の予定

四月十四日 午前十一時三十分
 元歩兵第五十一聯隊戦死者慰霊祭
 連絡 高瀬貞一 津市栄町三丁目二八三
 電話(〇五九二)二七、五九八九
 六月十六日 午前十一時
 元歩兵第一五一聯隊戦死者慰霊祭
 連絡 河合 實 桑名市葵町一二六五ノ三
 電話(〇五九四)二二、六三〇一



鳥羽市遺族会婦人部

編集後記

小林記

○中国残留孤児に関する報道は常に心が痛む歴史に「もしも」は存在しえないが、もしも日ソ不可侵条約が守られていたならば、と思わずにはいられない。
 ○ある新聞掲載の「中学教師の主張に、生徒の意見として「金を払って北方領土の使用権を買取しては」とあり、試算額も載っていた。このような金万能の考え方や、「これは現実性のある事だ」と賛辞するこの教師の教育は未だ恐ろしい。経済大国とは言え、祖国愛や歴史まで金で解決は出来ないし、また日本及び日本国民はそのようなお人よしでもない。